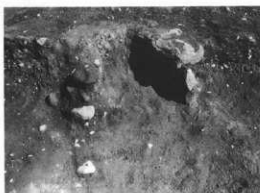


番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	残存率%	構成	色調	備考
1	土師器	甕	-	7.2	-	底部へう附り	25	灰砂	5YR6/6 褐色	
2	土師器	甗	-	5.2	-	外面へう附り 底面へう附り	20	灰砂	10YR6/3 灰黄褐色	

第55表 H11号住居出土遺物観察表



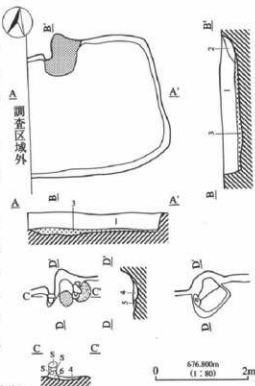
写154 H11号住居址かまど（南から）



写155 H11号住居址掘方全景（南から）

#### H12号住居址

遺構は調査区中央のやや北よりの西端D-エー3グリッドに位置し住居址の西側は調査区外となる。(調査区西側は、以前下水道工事が行われており、遺構はすでに破壊されている)北側に流れる湯川との距離は51mである。遺構は砂礫層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き単層で、石を多量に含んだ砂混じりの黒褐色土である。調査規模は南北2.62m、東西2.88m、深さ0.38m(床面)を測り、平面形は隅丸方形と思われる。壁は垂直気味に立ち上がる。床面は砂礫質でやや堅さを持ち、ピットは確認できなかった。かまどは北壁のほぼ中央に位置し、両袖の一部及び火床が確認できた。袖は北壁から住居内に40cm入り込み、芯材として石が利用され、これ



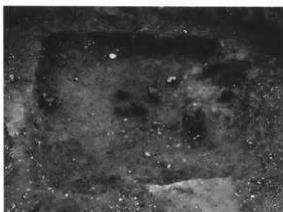
- 1層 黒褐色土層 (10Y R 3/2) 砂粒、1~3cmの小石、5~15cm大の石を多量に含む。
- 2層 黒褐色土層 (10Y R 3/2) 砂粒、礫土、1~3cm大の小石を含む。
- 3層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) 砂粒、1~5cm大の小石を多量に含む。
- 4層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) 砂粒、礫土を含む。

- 5層 褐色土層 (7.5Y R 4/6) 礫土層。
- 6層 黒褐色土層 (10Y R 2/3) 砂粒、粘土、礫土粒を含む。

第114図 H12号住居址実測図

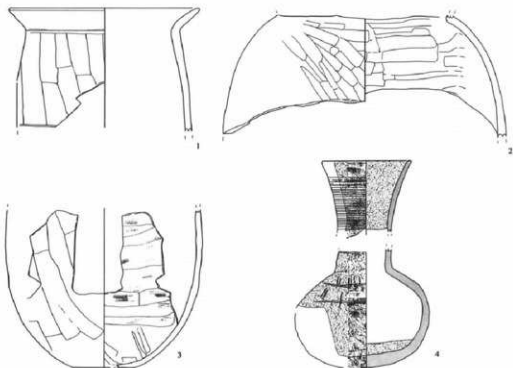
を粘土混じりの暗褐色土で覆うように構築されていた。火床はほぼ円形に掘り込まれており厚さ5cmの焼土が堆積していた。住居址の掘方は全体に8~12cm掘り込まれ、ローム粒、小石を多量に含む暗褐色土が含まれていた。

遺物は土師器の甕、高坏、須恵器の坏、長頸壺、叩き石がテンバコ2分の1箱出土している。1は土師器の甕でやや器厚が厚く、口縁の形態が「く」の字を呈し、外面にヘラ削りを施す。2は胴丸の甕で外面にヘラ削り、



写156 H12号住居址全景（東から）

内面にヘラナデを施す。3は土師器の甕の底部で、平らな底部からやや丸みをもちつつ上部へと立ち上がり、外面にヘラ削り、内面にヘラナデを施す。4は須恵器の長頸壺と思われる、頸部に横方向の幾筋もの沈線、体部上面に縦方向の沈線を施す。また小破片のため図示し得なかったが底部ヘラ削りの須恵器坏も出土している。本住居址は7C末~8C初頭と考えられる。



第115図 H12号住居址出土遺物実測図

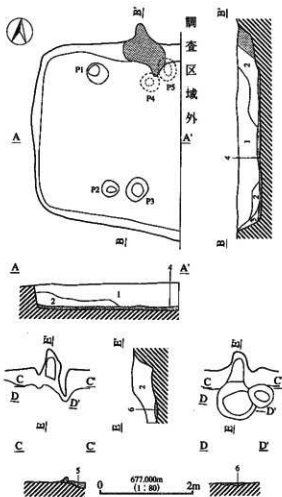
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査	整	残存率%	焼成	色別	備考
1	土師器	壺	20.3	-	-	口縁 外底	横ナデ ヘラ削り	口縁70	良好	5YR8/4 洗滌褐色	
2	土師器	壺	-	-	-	外底 内底	ヘラ削り ヘラナデ	体形の 一部	良	5YR6/6 明褐色	
3	土師器	壺	(8.8)	-	-	外底 内底	ヘラ削り ヘラナデ	15	良好	5YR2/1 黒褐色	
4	須恵器	長頸壺	(8.8)	(5.4)	-	外底	工具による沈線	40	良好	N3/0 暗灰色	輪付否

第56表 H12号住居址出土遺物観察表

### H13号住居址

遺構は調査区中央のやや北よりの東端Dーあー5グリッドに位置し、遺構の東側は調査区外となる。北側に流れる湧川との距離は42mである。調査規模は南北3.60m、東西3.00m、深さ0.52m(床面)を掘り、平面形は隅丸方形と思われる。壁は垂直気味に立ち上がり、ややしまりがある。床面は堅くほぼ平らである。ピットは床面上から3個確認できた。このうち主柱穴はP1、2と思われる。東側に存在すると思われる2個のピットは、住居址東側が調査区外のため確認できなかった。かまどは北壁のほぼ中央に位置し、袖の一部が残存していた。袖は粘土で構築されている。火床と思われる付近に焼土・炭化物は確認できなかったが、掘方において火床と思われる付近にほぼ円形の堀り込みが認められた。住居址の掘方は4~8cmの厚さで掘り込まれており、褐色土が詰め込まれていた。また、かまど付近から新たに2個のピットが認められた。

遺物は土師器の高坏、甕、ミニチュア土器などビニール袋1袋出土しているが、どれも小破片のため図示できたのは1点である。ミニチュア土器は蓋で底部周辺にヘラ削りを施し、輪づみ痕が確認できる。高坏は破片から



- 1層 暗褐色土層 (5YR2/3) 砂粒、シムプロックを含む。粘土粒をわずかに含む。
- 2層 黒褐色土層 (5YR2/2) 砂粒シムプロックを含む。
- 3層 褐色土層 (5YR4/6) 砂土層。黒褐色土ブロックを含む。
- 4層 褐色土層 (5YR4/4) 腐り土。砂土層。黒褐色土。2~5cm次の小石を多く含む。
- 5層 灰青褐色土層 (5YR4/2) 粘土層。黒褐色土ブロックを含む。
- 6層 赤褐色土層 (5YR4/6) 粘土層。しまりなし。

第116図 H13号住居址平面図

内外面にミガキを施し、脚部の裾が末広がりであることがうかがい  
ることができる。

出土遺物はわずかだが、ミニチュア土器の存在、内外面にミガキを  
施し、脚部が末広がりの高杯の存在などから本住居址は5C代と考え  
られる。



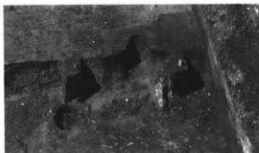
第117図 H13号遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	保存率%	構成	色調	備考
1	ミニチュア 土器	盃	(3.8)	丸底	5.6	底部へう削り		80	緑好	5YR5/6 棕色	輪映小皿

第57表 H13号住居址出土遺物観察表



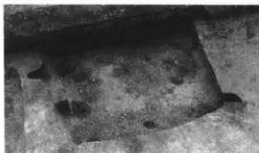
写157 H13号住居址全景 (南から)



写158 H13号住居址かまど (南から)



写159 H13号住居址かまど掘方 (南から)

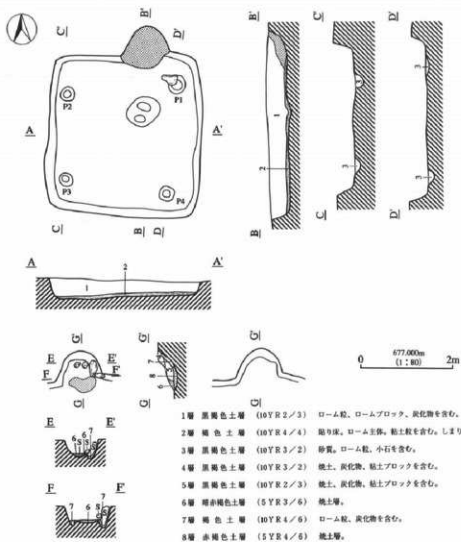


写160 H13号住居址掘方全景 (西から)

#### H14号住居址

遺構は調査区中央のやや北よりの東原付近C-Cー4グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は39mである。規模は南北3.28m、東西3.30m、深さ0.45m(床面)を測る。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き単層で、砂粒を多く含んだ黒褐色土である。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面はやや堅さを持ち、ピットはコーナー付近に4個確認できた。主柱穴と思われる。かまどは北壁中央のやや東よりに位置する。かまどは壁面からやや外側に張り出し、かまど東壁には壁面を押さえるように扁平な石が押さえつけられていた。火床はほぼ壁の延長線上に位置し、焼土の堆積が見られた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏、甕、磨石がテンパコ3分の1箱出土している。1・2は須恵器の坏で平らにへら削りされた底部から、やや開き気味に口縁へと立ち上がる。3は須恵器の坏



第118図 H14号住居址実測図



写161 H14号住居址全景 (西から)



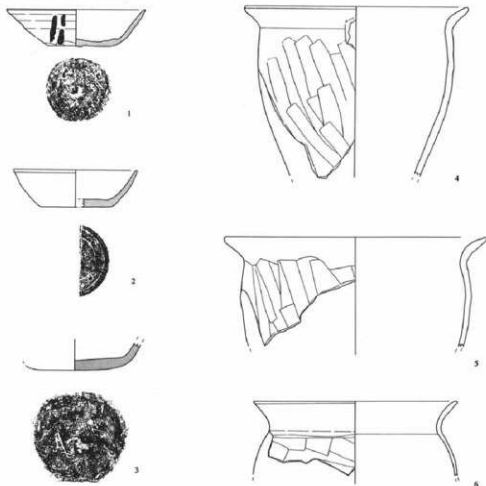
写162 H14号住居址かまど (南から)

の底部で、ほぼ平らにへら削りされた広めの底部を持つ。4・5は土師器の甕で口縁はやや開き気味で、形態は「く」の字を呈する。外面はへら削りを施す。6は土師器の甕で4・5に比べやや口がせまい。口縁の形態は「く」の字を呈し、外面にはへら削りを施す。須恵器の甕は小破片で表面に平行叩きを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。



写163 H14号住居址掘方全景（西から）



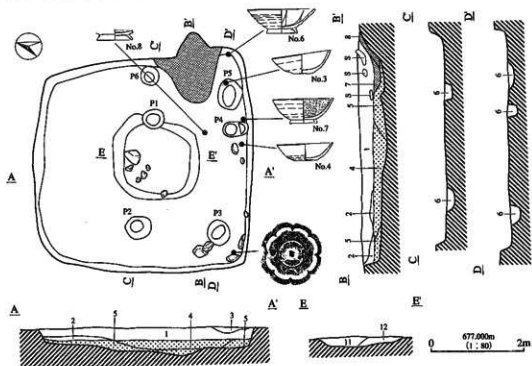
第119図 H14号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	1径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	罎	(14.8)	6.9	3.0	内外面 ロクロ模ナデ 底部・底部周辺 ヘラ削り	50	良好	10YR8/1 灰色	火だすき
2	須恵器	罎	(13.4)	(7.8)	3.0	内外面 ロクロ模ナデ 底部 ヘラ削り	40	良好	7.5Y8/1 灰色	
3	須恵器	罎	-	9.7	-	底部・底部周辺 ヘラ削り	底部	良好	2.5Y8/1 黄灰色	
4	土師器	甕	(24.0)	-	-	口縁 模ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁周辺 一部	良好	7.5YR7/3 鈍い棕色	
5	土師器	甕	(28.4)	-	-	口縁 模ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁周辺 一部	良	10YR6/4 鈍い黄棕色	
6	土師器	甕	(21.8)	-	-	口縁 模ナデ 外面 ヘラ削り	口縁周辺 一部	良好	10YR5/6 赤色	

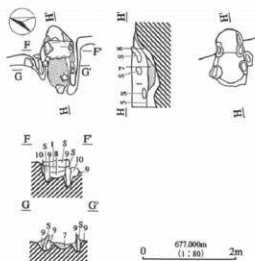
第58表 H14号住居址出土遺物観察表

#### H15号住居址

遺構は調査区中央の東壁C-コー7グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は46mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き3層である。1層は砂粒、炭化物を含む黒褐色土で、2層は地山の砂粒を多く含む褐色土、3層は黒褐色土である。規模は南北4.44m、東西4.40m、深さ0.34m（床面）を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁はやや外傾気味に立ち上がり、ややしまりがある。床は全体的にやや堅さをもち、中央付近にあさい窪みが存在する。ピットは6個確認できた。このうち主柱穴はP1～P4と思われる。かまどは東壁の南側に位置する。袖は東壁から住居内に120cm入り込んでおり、芯材に石を利用し、し



第120図 H15号住居址実測図



- 1層 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒、炭化物を含む。
- 2層 褐色土層 (10YR 4/4) ローム、小石1~3cm大を多く含む。
- 3層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ローム粒を含む。
- 4層 褐色土層 (10YR 4/4) ローム主体、黒褐色土を含む。
- 5層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム主体、小石多くパミスを含む。
- 6層 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒、2~5cm大の小石を含む。
- 7層 褐色土層 (10YR 4/6) 焼土層、炭化物、粘土粒を含む。
- 8層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 焼土、炭化物を含む。
- 9層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒を含む。しまりやあり。
- 10層 濃い暗褐色土層 (10YR 4/3) 炭化物、粘土粒を含む。
- 11層 褐色土層 (10YR 4/4) ローム主体、炭化物を含む。
- 12層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒、炭化物を多く含む。

第121図 H15号住居址かまど実測図

まりのある暗褐色土に覆われていた。また東壁の延長線上付近には扁平な大型の天井石が認められた。火床は住居址東壁面のやや内側に位置し、焼土の堆積が認められた。掘方は床面から14~22cm掘り込まれており褐色及び暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、灰釉陶器、鏡、磨石がテンバコ5分の1箱出土している。中でも鏡は、県内では初と思われ、全国的には10例内外の報告がある奈良時代の花卉双蝶八花鏡で、今回一般的な住居址から出土しているのは注目すべき点である。出土土器のうち土師器の甕、須恵器の坏、甕は小破片のみで、今回図示したのは土師器坏を中心とした9点である。1・2・3・4は土師器の坏で回転糸切り後無調整の小型の底部からやや内湾気味に立ち上がる。5・6・7・8は土師器の甕で内面に放射状の暗文をもつ、特に7の暗文は矢印と花びら状の暗文が施されており、特徴的である。9は灰釉陶器である。住居址は奈良時代とされる鏡の出土が認められるが、出土土器の特徴から9C後半~10C初頭と考えられる。鏡については伝世鏡と考えるのが妥当であろう。

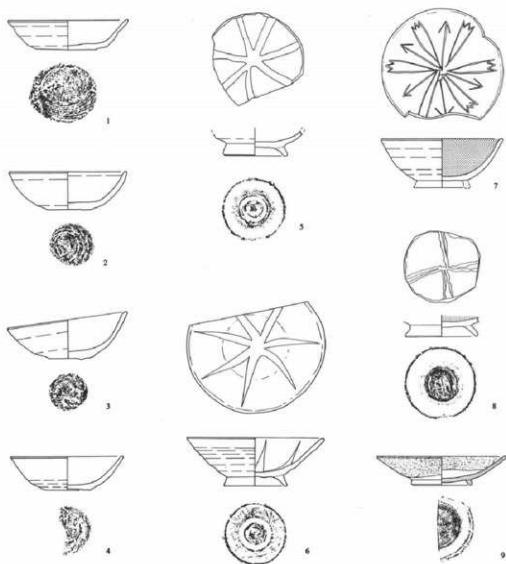


写164 H15号住居址全景(北から)



写165 H15号住居址鏡出土状況





第122図 H15号住居址出土遺物実測図



写166 H15号住居址かまど（西から）



写167 H15号住居址掘方全景（北から）

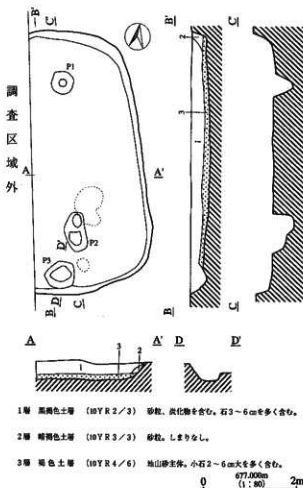
番号	器種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調査	残存率%	状態	色調	備考
1	土師器	環	13.0	7.5	3.2	内外面 絞部 ロクコ轆ナゲ 凹版糸切り	100	良好	5YR5/6 藍色	
2	土師器	環	12.4	4.5	4.0	内外面 絞部 ロクコ轆ナゲ 凹版糸切り	60	良好	5YR5/6 明茶褐色	
3	土師器	環	12.8	4.9	4.1	内外面 絞部 ロクコ轆ナゲ 凹版糸切り	80	良好	5YR5/6 藍色	
4	土師器	環	12.2	5.0	3.5	内外面 絞部 ロクコ轆ナゲ 凹版糸切り	50	良好	7.5YR5/4 鈍い赤褐色	
5	土師器	筒	-	0.9	-	内面 放射状の暗文 感部 高台張り付け	40	良好	5YR7/6 藍色	暗文
6	須恵器	筒	14.7	0.7	5.2	内面 放射状の暗文 感部 高台張り付け	80	良好	5YR7/4 鈍い藍色	暗文
7	土師器	筒	13.2	0.5	4.3	内面 藍色細線・矢印状・花卉状の暗文 感部 高台張り付け風	85	良好	7.5YR5/6 明茶褐色	暗文
8	土師器	筒	-	7.8	-	内面 藍色地味・放射状の暗文	30	良好	7.5YR7/4 鈍い藍色	暗文
9	灰物陶器	皿	(14.0)	(6.6)	2.1	底面 高台張り付け	20	良好	7.5YR7/2 明褐色	

第59表 H15号住居址出土遺物観察表

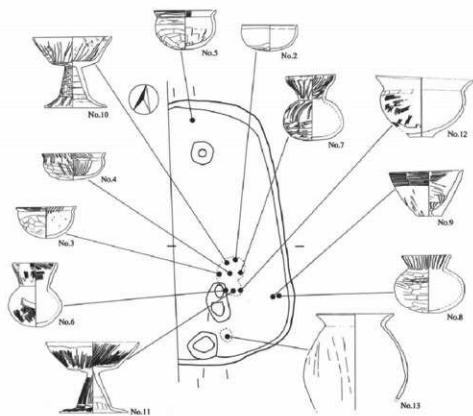
#### H16号住居址

遺構は調査区中央付近の西際D-エ-5グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は55mである。住居址西側は調査区外となる。(調査区西側は、以前下水道工事が行われており遺構はすでに破壊されている。)遺構は砂礫層に埋り込まれており、床面までの覆土は2層確認できた。1層は、砂・石を多く含んだ黒褐色土で、2層は砂を多く含む暗褐色土である。規模は調査規模で南北5.32m、東西2.44m、深さ0.24m(床面)を測る。平面形は隅丸方形を呈すると思われる。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は砂質でややしまりがあり、床面上からは多数の土器が出土した。ピットは3個確認できた。このうち主柱穴はP1・2と思われる。かまど、炉などの施設は認められなかった。

遺物は住居址中央付近に集中して出土しており、土師器の広口壺、高環、甕な



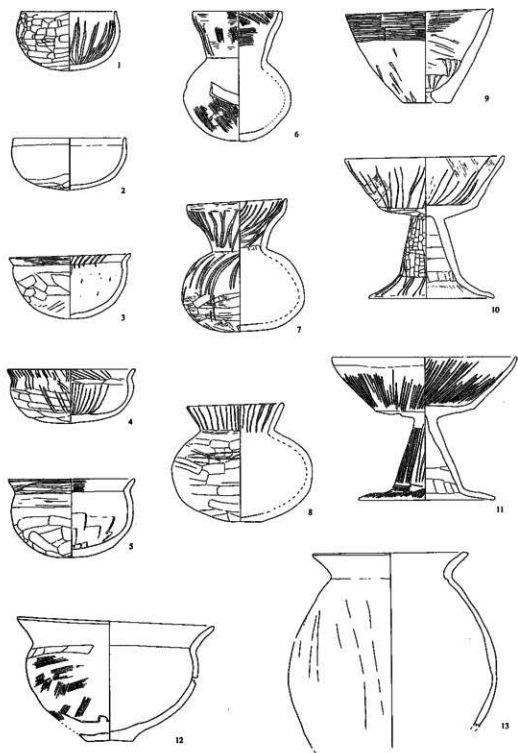
第123図 H16号住居址実測図



第124图 H16号住居址遺物出土位置图



图168 H16号住居址遺物出土状况



第125图 H16号住居址出土遗物实测图

どテンバコ 1箱出土している。1～5は広口壺で、住居址からは破片を含め、多数認められた。6・7は小型丸底壺で、6は7に比して胎土が荒く、内外面にきめ細かいハケ目を施す。7の表面はヘラ削り、ミガキなどによりきめ細かく調整されている。8は小型の壺で直径3.50cmと小型の底部をもち、口縁内外面にミガキ、外面にヘラ削りを施す。9は瓶で、底部は単口である。10・11は高環で、10は11に比してやや小振りで、脚部には細かいヘラ削りを施す。11は大きめの環部をもち、環部内外面、脚部外面にミガキを施す。12は鉢で口縁の形態は「く」の字である。13は甕でやや胴張りで、口縁の形態は「く」の字である。

本住居址は、これら出土遺物の特徴から5C後半と考えられる。



写169 H16号住居址全景（東から）

写170 H16号住居址掘方全景（東から）

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	構成	色調	備考
1	土師器	広口壺	10.0	丸底	6.4	外面 ヘラ削り 内面 ミガキ		60	良好	5YR5/6 明赤褐色	
2	土師器	広口壺	11.8	丸底	5.6	外面 底部ヘラ削り		95	良好	7.5YR6/9 褐色	
3	土師器	広口壺	13.1	丸底	7.0	外面 ヘラ削り 内面 ミガキ		95	良好	5YR5/6 明赤褐色	内面塗割 跡多い
4	土師器	広口壺	13.8	丸底	6.8	外面 ヘラ削り後ミガキ 内面 外部ヘラナデ 内面 ミガキ		90	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
5	土師器	広口壺	13.4	丸底	8.4	口縁外面 細かいミガキ 外面 ヘラ削り	内面 ミガキ	100	良好	7.5YR7/6 褐色	
6	土師器	小型壺	9.8	丸底	13.9	口縁内面 ミガキ 外面 ハケ目	環部・後ナデ	85	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	
7	土師器	小型壺	10.5	丸底	12.6	口縁外面 ミガキ 外面 ヘラ削り	口縁内面 ミガキ	95	良	2.5YR5/6 明赤褐色	
8	土師器	小型壺	10.8	丸底	14.1	口縁内面 ミガキ 外面 ヘラ削り後ミガキ		85	良好	2.5YR6/6 褐色	
9	土師器	瓶	16.3	5.3	9.8	口縁内面 ハケ目 外面 ハケ目	内面 ヘラナデ	100	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	底部単口
10	土師器	高環	17.2	13.5	14.1	環部外面 ミガキ 環部内面 ミガキ	環部底面 ヘラ削り 環部脚部 ミガキ 環部内面 ヘラナデ	95	良好	5YR6/4 鈍い褐色	
11	土師器	高環	19.8	14.6	15.3	環部外面 ミガキ 環部内面 ミガキ	環部底面 ミガキ 環部脚部 ミガキ 環部内面 ヘラナデ	80	良好	5YR5/6 明赤褐色	
12	土師器	鉢	20.9	5.0	13.4	外面 外部ヘラナデ 内面 ヘラナデ	外面 ハケ目	90	良好	5YR5/6 明赤褐色	
13	土師器	甕	18.3	-	-	外面 ヘラ削り		40	良	10YR8/3 強黄色	

第60表 H16号住居址出土遺物観察表



写171 H16号住居址遺物出土状況



写172 H16号住居址遺物出土状況

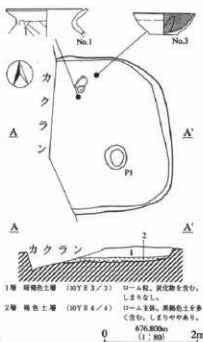
#### H17号住居址

遺構は調査区の北側B-エ-5グリッドに位置し、北側に流れる湯川との距離は30mである。住居址の西側は攪乱により破壊されている。遺構は砂礫層に埋り込まれており床面までの覆土は単層で、砂礫混じりの単層である。調査規模は南北3.20m、東西2.4m、深さ0.45m(床面)である。壁はやや外傾気味に立ち上がり、周囲が砂層のため崩れやすい状態である。床面は砂質でややしまりがある。ピットは1個確認できたが、主柱穴であるかは不明である。かまどなどの施設は認められなかった。住居の掘方は床面から約8cmほど掘り込まれ、砂質の褐色土が埋め込まれていた。

遺物は、土師器の坏、甕、須恵器の坏、砥石などテンバコに5分の1箱出土している。図示できたのは3点である。

1は土師器の甕で口縁の形態は「く」の字を呈し、外面にヘラ削りを施す。2・3は土師器の坏で、回転糸切りされた平らな底部からやや内湾気味にたちあがる。3の内面は黒色処理後放射状(十字)の暗文を施し、2は内面にミガキを施す。

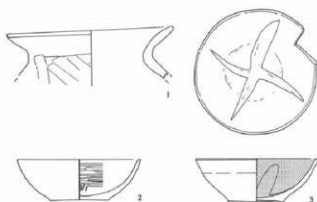
これら出土遺物の特徴から、本住居址は9C中頃と考えられる。



第126図 H17号住居址実測図



写173 H17号住居址全景(南東から)



第127図 H17号住居址出土遺物実測図



写174 H17号住居址遺物

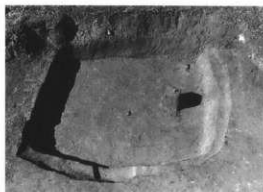
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	構成	色調	備考
1	土師器	甕	17.8	-	-	外面 ヘラ削り	口縁100	良好	5YR6/6 褐色	個人遺物
2	土師器	杯	13.2	6.2	4.4	底面 回転糸切り 内面 ニガキ	45	良好	10YR5/6 赤色	
3	土師器	杯	13.2	5.9	4.6	外面 磨ナデ 底面 回転糸切り 内面 黒色釉薬・十字状の暗文	95	良好	5YR6/6 褐色	暗文

第61表 H17号住居址出土遺物観察表

#### H18号住居址

遺構は調査区のほぼ中央F-エー1グリットに位置し、北側と西側は調査区外となる。北側に流れる湯川とはややはなれ、距離は87mである。住居は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土は2層確認できた。ともに暗褐色土である。規模は調査規模で南北3.84m、東西4.44m、深さ0.64m(床面)を測る。壁はやや外傾し、途中にテラスを持つ。床面は空くしまっているが、ピットは認められなかった。かまどなどの施設は確認できなかった。住居の掘方は40cmと深く掘りこまれており、暗褐色、褐色土などが埋め込まれていた。

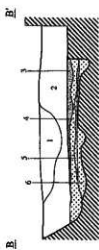
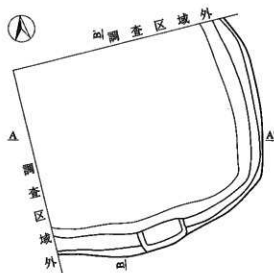
遺物は須恵器の坏、蓋、甕、土師器の甕、羽釜、砥石、磨石などテンパコに1箱出土した。1、2は須恵器の坏で底部回転糸切り後やや開き気味に立ち上がり口縁部に至る。3、



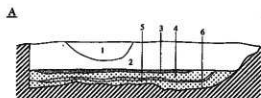
写175 H18号住居址全景(南から)



写176 H18号住居址掘方全景(南から)



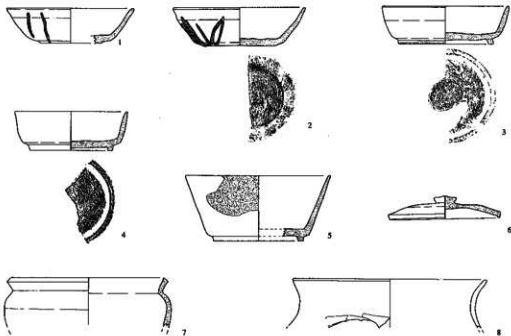
0 677.200m (1:80) 2m



A'

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 1層 暗褐色土層 (HVR 3/3) | 白色段、パズル、粘土粒を含む。しまりあり。      |
| 2層 暗褐色土層 (HVR 3/3) | ローム段、パズル、炭化物を含む。しまりややあり。   |
| 3層 暗褐色土層 (HVR 3/3) | 層下部、ローム段、炭化物、粘土粒を含む。しまりあり。 |
| 4層 灰褐色土層 (HVR 2/4) | ロームブロックを多く含み、炭化物を含む。       |
| 5層 暗褐色土層 (HVR 3/3) | ローム段、炭化物を多く含む。             |
| 6層 黄土層 (HVR 4/6)   | ローム土層、灰褐色土を含む。しまりなし。       |

第128図 H18号住居址実測図



第129図 H18号住居址出土遺物実測図



4. 5は高台付坏で広めの底部に高台が取り付けられ、やや立ち気味に口縁部に至る。5はやや深みの体部をもつ。6はやや小型の須恵器の蓋である。7は広口の須恵器甕である。8は土師器の甕で口縁付近の形態がやや「コ」の字状を呈する。これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。

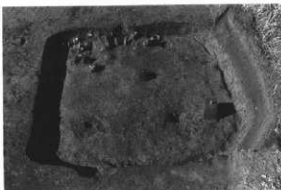
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	製	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	(11.6)	(7.3)	3.7	内外面 ロクロ横ナデ 底部 凹縁糸割り		25	良好	7.5Y7/1 灰白色	次だすき
2	須恵器	坏	(14.2)	(7.4)	4.1	内外面 ロクロ横ナデ 底部 凹縁糸割り		40	良好	7.5Y8/1 灰色	次だすき
3	須恵器	高台付坏	(13.6)	(5.3)	3.9	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付付		40	良好	5YR4/1 灰色	
4	須恵器	高台付坏	(12.0)	(8.8)	3.8	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付付		30	良好	7.5YR4/1 灰色	
5	須恵器	高台付坏	(15.6)	(4.6)	2.5	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付付		20	良好	2.5GY4/1 磨 オリーブ灰色	自然釉
6	須恵器	蓋	12.0	—	13.9	外面 ヘラ削り		70	良好	7.5YR5/1 灰色	
7	須恵器	甕	(18.2)	—	—	外面 横ナデ		口縁 30	良好	N6/0 灰色	内面 次だすき
8	土師器	甕	(20.8)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り		口縁 35	良好	10YR5/6 赤色	

第62表 H18号住居址出土遺物観察表

#### H19号住居址

遺構は調査区中央のやや南の東端E-1-2グリットに位置し、湯川との距離は81mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土は2層である。1層が砂粒、炭化物を含む黒褐色土で、2層は砂粒、地山の砂質土を多く含む暗褐色土である。規模は南北3.76m、東西4.24m、深さ0.38m(床面)を測り、平面形は隅丸方形で、南壁に一部張り出しをもつ。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は堅く閉まり、かまど付近を除き、全体に5～8cmの厚さで貼り床されていた。壁際には周溝が巡らされている。ピットは5個確認できた。このうち主柱穴はP1～P4である。かまどは北壁中央に構築されている。両袖は比較的残存状態が良く北壁から住居内に45cm入り込んでいる。火床は壁の直線上からやや内側に存在しており、焼土の堆積が認められ軽石製の支脚が2本横位に配置されていた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕がテンバコに5分の1箱出土している。図示できたのは4点である。1、2は須恵器

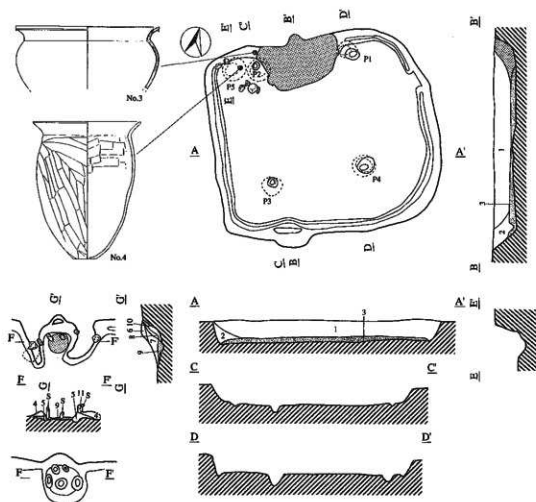


写177 H19号住居址全景(南から)

の坏で平らにヘラ削りされた底部からややひらきぎみに立ち上がり口縁部に至る。3は広口の須恵器の甕で外面にたたきを施す。4は土師器の甕で口縁の形態が「く」の字を呈し、外面にヘラ

削り、内面にヘラナデを施す。

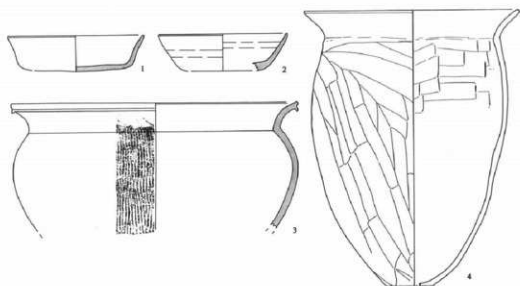
これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。



- |     |                   |                     |
|-----|-------------------|---------------------|
| 1層  | 黒褐色土層 (10Y R 2/3) | 砂粒、炭化物を含む。          |
| 2層  | 暗褐色土層 (10Y R 3/4) | 砂粒シメブロックを多く含む。      |
| 3層  | 褐色土層 (10Y R 4/4)  | 粘り床、砂主体、しまりなし、小石含む。 |
| 4層  | 黒褐色土層 (10Y R 2/3) | 粘土ブロック、炭化物を含む。      |
| 5層  | 暗褐色土層 (10Y R 3/3) | 砂粒、粘土ブロックを含む。       |
| 6層  | 黒褐色土層 (10Y R 2/3) | 粘土粒、炭化物を少量含む。       |
| 7層  | 黒褐色土層 (10Y R 2/3) | 粘土粒、炭化物を含む。         |
| 8層  | 暗褐色土層 (10Y R 3/4) | 粘土粒、砂粒、炭土、炭化物を含む。   |
| 9層  | 暗褐色土層 (5 Y R 4/6) | 炭土層。                |
| 10層 | 暗褐色土層 (10Y R 3/4) | 黒褐色土多く含む、粘土ブロックを含む。 |
| 11層 | 灰褐色土層 (5 Y R 4/2) | 粘土層、黒褐色土多く含む。       |

0 677.000m (1:80) 2m

第130図 H19号住居址実測図



第131図 H19号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	(14.6)	11.8	3.8	外面 ロクロ横ナデ 底面 ヘウ削り		70	良好	2.5Y7/2 灰黄色	
2	須恵器	坏	(14.4)	(4.2)	3.9	内外面 ロクロ横ナデ 底面 ヘウ削り		20	良好	10YR6/1 灰色	
3	須恵器	甕	(30.2)	—	—	外面 叩き			口縁~体 部の一部	N4/O 灰色	
4	土師器	甕	23.2	(5.0)	23.3	外面 ヘウ削り 内面 ヘウナデ		85	良好	2.5YR6/6 褐色	

第63表 H19号住居址出土遺物観察表



写178 H19号住居址かまど (南から)



写179 H19号住居址掘方 (南から)

#### H20号住居址

遺構は調査区中央の南よりE-C-3グリットに位置しH19に切られる。北側に流れている湯川との距離は85mである。住居は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き2層である。1層は砂粒を含む黒褐色土でしまりがある。2層は砂粒を多く含む暗褐色土である。規模は南北2.96m、東西2.76m、深さ0.36m(床面)を測り、平面形は隅丸方形である。壁面は外傾気味に立ち上がる。床は堅く3~6cmの厚さで貼り床されており、床面中央付近には多数の石が散在していた。ピットは確認できなかった。かまどは北壁の中央からやや東によった位

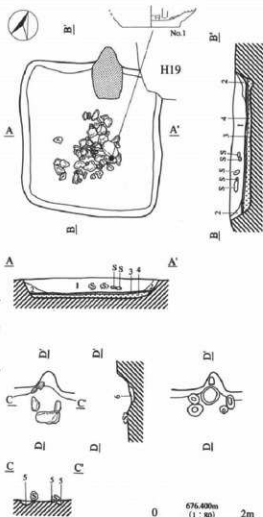
置に構築され、かまどの袖の芯材と思われる石が左右に埋め込まれていた。さらにその石の手前には炊口部の天井石として使用されたとと思われる長方形の扁平石が横たわっていた。火床は壁の直線上よりやや内側に位置し、焼土の堆積が認められた。住居の掘方は、ほぼ床面全体に掘り込まれており、地山の褐色土が主体として埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕片などが僅かに出土した。1は土師器の甕の底部で内面にヘラナデを施す。本住居址は8C中頃と考えられる。

- 1層 黒褐色土層 (80YR 2/3) ローム粒、ロームブロックを含む。しまりやあり。
- 2層 暗褐色土層 (80YR 3/4) ローム粒、ロームブロックを多く含む。しまりややあり。
- 3層 暗褐色土層 (80YR 3/4) 堅り灰、しまりあり。
- 4層 褐色土層 (80YR 4/6) ローム土層、黒褐色ブロックを含む。しまりややあり。
- 5層 暗褐色土層 (80YR 3/4) ローム粒を含む。
- 6層 暗褐色土層 (80YR 3/3) ロームブロックを含む。しまりなし。



第133図 H20号住居址出土遺物実測図



第132図 H20号住居址実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	-	12.2	-	内面	ヘラナデ	底面90	貝	1.5YR6/4	高い褐色

第64表 H20号住居址出土遺物観察表



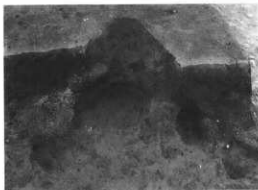
写180 H20号住居址全景(西から)



写181 H20号住居址かまど(南から)



写182 H20号住居址かまど（南西から）



写183 H20号住居址かまど掘方（南から）

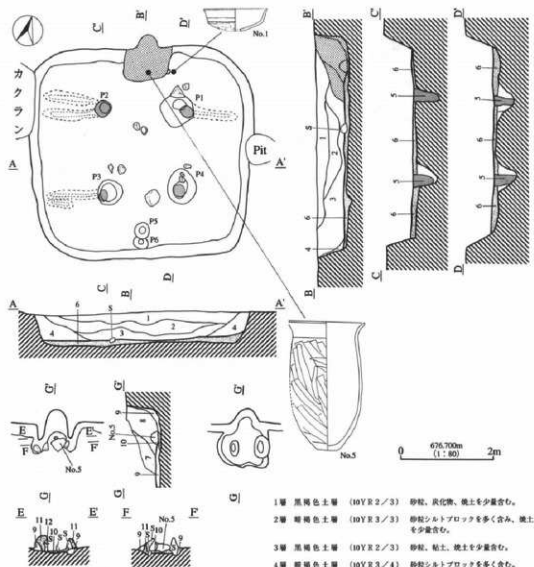
#### H21号住居址

遺構は調査区南よりの西端F-1-3グリッドに位置し、北側に流れる湯川との距離は91mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き5層である。1層は炭化物、焼土を含む黒褐色土で、2層は焼土、地山の砂質土を含む暗褐色土である。3層は床面の直上で粘土、焼土を多く含む黒褐色土である。4層は壁際の土層で暗褐色土である。5層はかまど付近にあたり、粘土粒を多く含む黒褐色土である。規模は南北4.04m、東西4.32m、深さ0.64m（床面）を測り、平面形は隅丸方形である。壁は垂直気味に立ち上がり壁面はしまりがあり安定している。床は堅くしまり全体的に貼り床されている。ピットは大小6個のピットが確認できた。このうちP1～P4が主柱穴と思われる。P5、6は位置的に出入り口に関係するピットの可能性がある。かまどは北壁の中央に構築されている。左右の袖は北壁から住居内に50cm入り込んでおり、粘土で構築されている。火床は壁の直線上から内側に位置し、ほぼ完形の甕が出土しており、土器の直下には支脚が認められた。煙道は火床からほぼ垂直的に立ち上がり北壁のわずかに外側に立ち上がる。掘方は全体的に5～8cm掘り込まれており、そこには炭化物、焼土を含んだ褐色土が埋め込まれていた。またP1、P2、P3から壁に向かって溝状の掘り込みが認められた。住居内に間仕切りが存在した可能性が考えられる。遺物は土師器の坏、甕、甔、磨石、鉄製品などがテンバコ4分の1箱出土している。1、2、3は土師器の坏で、丸底の底部から口縁部へと立ち上がり途中明瞭な稜を持つ。また2の口辺部には「<」状の調整痕らしき跡が認められる。4は甔の底部で多口式である。5、6は土師器の甕で土器の最大径が口縁部にあり、長胴の外面にはヘラ



写184 H21号住居址全景（東から）

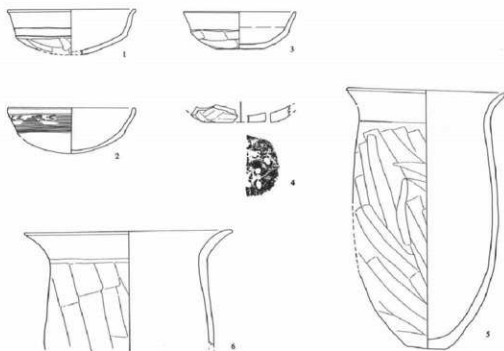
削りが施される。これら出土遺物の特徴から、本住居址は7C前半と考えられる。



- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂粒、炭化物、焼土を少量含む。
- 2層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 砂粒シルトブロックを多く含む。焼土を少量含む。
- 3層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂粒、粘土、焼土を少量含む。
- 4層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 砂粒シルトブロックを多く含む。
- 5層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 柱状。しまりなし。砂粒含む。
- 6層 褐色土層 (10YR 4/4) 粘り座。炭化物、焼土を含む。
- 7層 黒褐色土層 (10YR 3/1) 砂粒、粘土粒を多く含む。
- 8層 灰黄褐色土層 (10YR 4/2) 粘土粒、粘土ブロックを多く含む。焼土を含む。
- 9層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 黒褐色土ブロック、ローム粒を含む。
- 10層 明赤褐色土層 (5YR 5/6) 焼土層。焼土粒を含む。
- 11層 灰黄褐色土層 (10YR 4/2) 粘土層。焼土を含む。
- 12層 赤褐色土層 (5YR 4/6) 焼土層。



写185 H21号住居址かまど遺物出土状況



第135図 H21号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口徑cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	組成	色調	備考
1	土師器	钵	13.8	丸底	4.8	口縁 横ナデ 底部 ヘウ折り		50	良好	2.5YR6/2 暗褐色	
2	土師器	钵	(13.6)	丸底	4.9	口縁 横ナデ・「く」状文様 底部 ヘウ折り		50	良好	8Y4/1 灰色	
3	土師器	钵	12.0	丸底	4.0	口縁 横ナデ 底部 ヘウ折り		40	良好	5YR6/6 褐色	
4	土師器	甕	-	8.0	-	外面 ヘウ折り		底部50	良	7.5YR6/4 鈍い褐色	多口式
5	土師器	甕	17.8	4.2	27.2	口縁 横ナデ 外面 ヘウ折り		85	良	7.5YR6/6 鈍い褐色	
6	土師器	甕	22.2	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘウ折り		口縁50	良好	7.5YR6/6 褐色	

第65表 H21号住居址出土遺物観察表



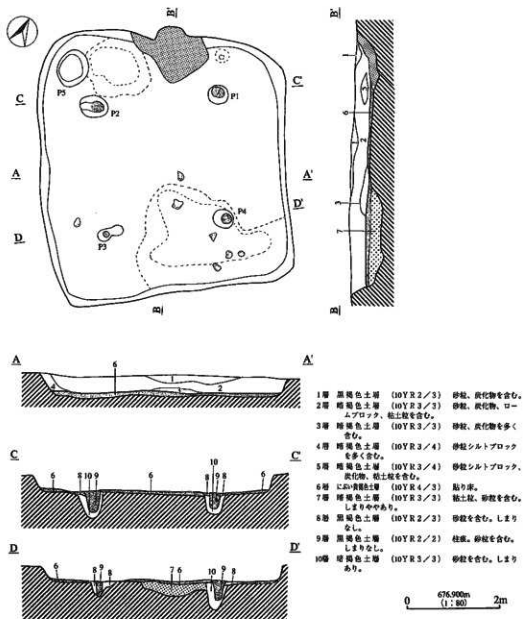
写186 H21号住居址かまど(東から)



写187 H21号住居址掘方全景(南から)

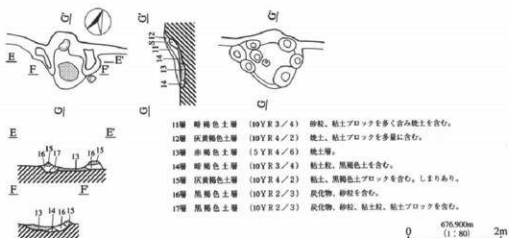
## H22号住居址

遺構は調査区南側の東原E-7に位置し、H30を切る。北側に流れる湯川との距離は95mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き、7層である。このうち1、2層が覆土の大半を占め、1層は砂粒、炭化物を含む黒褐色土である。2層はシルト粒、シルトブロック、粘土を含む暗褐色土である。規模は南北5.52m、東西4.96m、深さ0.40



第136図 H22号住居址実測図



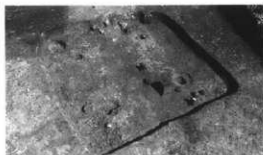


第137図 H22号住居址かまど実測図

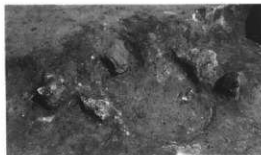
m (床面) を測り、平面形は隅丸方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は全体的に堅くしまりがあり、5～8cmの厚さで張り床されている。ピットは5個確認できた。このうち主柱穴はP1～P4と思われる。かまどは北壁中央に構築されている。左右の袖は北壁から住居内に60cm入り込んでおり、粘土で構築されている。火床は両袖に挟まれる位置にあり、焼土の堆積が認められた。煙道は火床からやや外傾気味に立ち上がり、北壁のわずかに外側に立ち上がる。また、張り床の直下からは、かまどの西及び南東コーナー付近に深さ20～30cmの掘り込みが認められた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、蓋、甕などテンバコ2分の1箱出土している。1は土師器の坏で、ヘラ削りされた底部からやや湾曲気味に立ち上がり口縁部に至る。2は灰釉陶器の底部周辺で、外面に灰釉が付着している。3は須恵器の蓋で、外面上部付近にヘラ削りを施す。4は須恵器の甕の口縁部である。5、6、7、8は土師器の甕で外面にヘラ削りを施し、体部と口縁の間に明瞭な稜をもつ。9は須恵器の甕底部周辺で、体部下部にヘラ削りを施す。

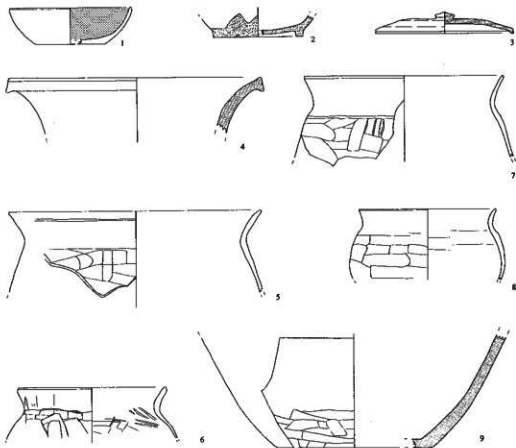
これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C末～9C初頭と考えられる。



写188 H22号住居址全景 (南西から)



写189 H22号住居址かまど (南西から)



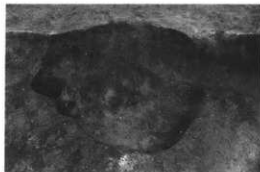
第138図 H22号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼成	色 調	備 考
1	土師器	坏	(13.0)	(7.2)	2.9	外面 ロクロ機ナデ 底面 ヘラ削り	45	良好	5Y7/6 褐色	
2	灰釉陶器	高台付坏	-	(8.6)	-	底面 両台張り付け	底面30	良好	7.5Y7/1 灰白色	自然剥付着
3	須恵器	甕	(14.8)	-	2.2	外面 ロクロ機ナデ・ヘラ削り つまみ張り付け	30	良好	N4/ 灰色	火だすき
4	須恵器	甕	(27.5)	-	-	口縁 機ナデ	口縁20	良好	10YR4/1 灰色	
5	土師器	甕	(27.0)	-	-	口縁 機ナデ 外面 ヘラ削り	口縁40	良好	10YR3/4 淡黄褐色	
6	土師器	甕	(16.0)	-	-	口縁 機ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラ削り	口縁20	良	7.5YR5/4 鈍い褐色	
7	土師器	甕	(21.4)	-	-	口縁 機ナデ 内面 ヘラナデ	口縁20	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
8	土師器	甕	(14.8)	-	-	口縁 機ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁55	良好	10YR5/6 赤色	
9	須恵器	甕	-	(18.8)	-	外面 ヘラ削り	底面付近の一部	良好	2.5Y3/1 黄灰色	

第66表 H22号住居址出土遺物観察表



写190 H22号住居跡掘方全景（南から）



写191 H22号住居跡かまど掘方（南から）

#### H23号住居址

遺構は調査区の南側F-1-7グリットに位置し、H24、25、27を切る。北側に流れる湯川との距離は77mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面下では、かなりの砂礫を含む。規模は南北4.12m、東西4.36m、深さ0.66m（床面）を測り、平面形は隅丸方形である。床面は堅く貼り床されており周囲には周溝が巡らされていた。ピットは7個確認できたが、位置的に支柱穴かは不明である。かまどは北壁中央に構築されており、扁平な石を多用し構築されていた。袖部は石が埋め込まれており、基部は粘土で固められていた。天井石は長方形の扁平な石で、火床の前後を覆うように両袖の石に架かっていた。また、かまどの天井部には一部天井石の存在しない部分があり、その直下にはほぼ完成の甕が横たわっており、焼土の堆積が見られた。この隙間が土器を火にかけた場所であったと考えられる。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕などテンバコに3分の2箱出土している。1、2、3、4は須恵器の坏で回転糸切りされた底部からやや開き気味に立ち上がり口縁部に至る。2の底部には高台張り付け痕が認められる。5は盤状坏である。7、8は土師器の甕で外面にヘラ削りを施し、土器の最大径が肩部にある。

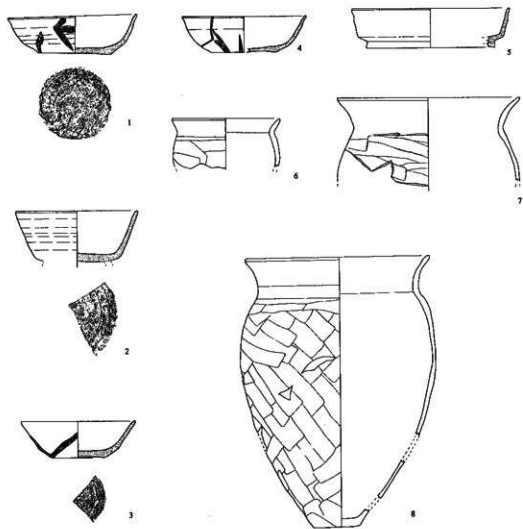
これら出土遺物の特徴から、本住居址は9C前半と考えられる。



写192 H23号住居址周辺全景（南東から）



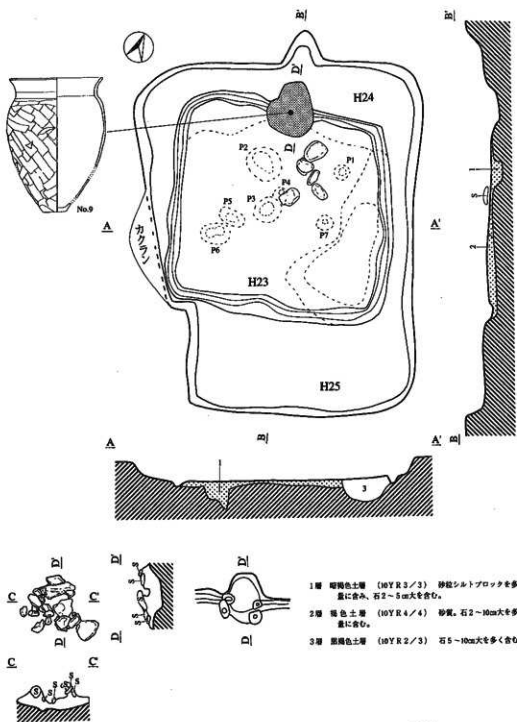
写193 H23号住居址全景（南から）



第139図 H23号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	面	底	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	浅鉢	(18.8)	(7.8)	4.3	外面 底面	ロクロ横ナデ 回転糸切り	70	良好	10YR6/1 灰色	大だすき
2	須恵器	高台付浅鉢	(12.8)	(7.2)	5.4	外面 底面	ロクロ横ナデ 高台張り付け痕あり 回転糸切り	30	良好	N4/8 灰色	
3	須恵器	浅鉢	(12.0)	(5.9)	3.9	外面 底面	ロクロ横ナデ 回転糸切り	20	良好	10B2/1 黄灰色	大だすき
4	須恵器	浅鉢	(18.0)	(6.8)	3.9	外面 底面	ロクロ横ナデ 回転糸切り	口縁30	良好	7.5Y3/1 灰色	大だすき
5	須恵器	高台付浅鉢	(17.0)	(18.8)	4.2	外面 底面	ロクロ横ナデ 高台張り付け	15	良好	5Y2/1 灰色	
6	土師器	壺	(11.6)	-	-	口縁 外面 内面	横ナデ ヘラ削り	口縁25	良好	2.5YR5/4 黄い赤褐色	
7	土師器	壺	(18.6)	-	-	口縁 内面	横ナデ ヘラ削り	口縁85	良好	5YR6/5 褐色	
9	須恵器	壺	(18.8)	5.1	28.9	口縁 内面	横ナデ ヘラ削り	90	良好	7.5YR6/4 黄い褐色	

第67表 H23号住居址出土遺物観察表



第140図 H23号・H25号住居址実測図



写194 H23号住居址かまど（南から）



写195 H23号住居址掘方全景（南から）

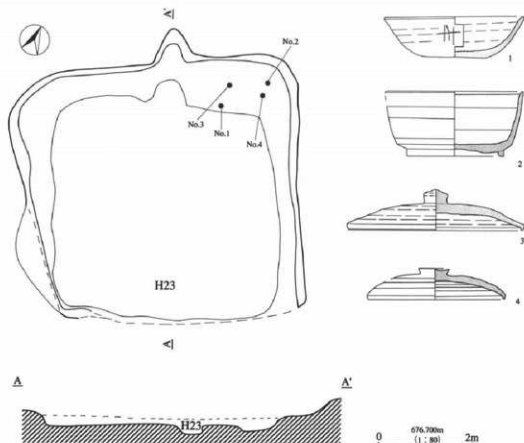
#### H24号住居址

遺構は調査区南側F-1-7グリッドに位置し、H23に切られ、H25、26、27を切る。遺構は砂層に掘り込まれている。規模は南北4.72m、東西4.36m、深さ0.36mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。床面の大半はH23号住居址によって破壊されているが、残存部分には貼り床の一部が残っていた。本住居址のものと思われるピットの確認はできなかった。かまどは北壁の中央に構築されているが、そのほとんどは破壊されており、火床に焼土が僅かに認められた。

遺物は、土師器の甕、須恵器の坏、蓋などが出土した。図示できたのは4点である。1は須恵器の坏で底部及びその周辺部にヘラ削りを施し、体部中央付近にヘラ記号を施す。2は須恵器の高台付坏で、張りつけされた高台付近から立ち上がり、やや外傾し直線的に口縁部に至る。器形は深みのある形状である。3・4は須恵器の蓋で、3はやや大型の蓋で空珠形のつまみを持つ。4は3に比してやや小ぶりの蓋である。本住居址は8C中頃と考えられる。



写196 H24号住居址全景（南から）



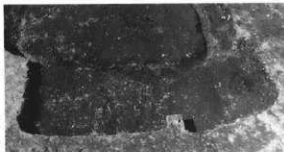
第141図 H24号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	構成	色調	備考
1	須置器	鉢	15.2	6.6	4.4	外面 ロクロ織ナデ 底面・周辺部 ヘラ削り	外面 ヘラ記号	80	良材	5Y6/1 灰色	
2	須置器	高台付鉢	15.0	10.5	7.0	内外面 ロクロ織ナデ 底面 高台張り付け		70	良材	2.5Y6/1 黄灰色	
3	須置器	蓋	18.8	-	4.4	外面 ロクロ織ナデ つまみ張り付け		70	良材	7.5YR5/1 緑灰色	
4	須置器	蓋	15.0	-	3.3	外面 ロクロ織ナデ つまみ張り付け		80	良材	10YR5/1 緑灰色	

第68表 H24号住居址出土遺物観察表

#### H25号住居址

遺構は調査区の南F-ラウ-6グリットに位置し、H23・24に切られる。遺構は砂層に掘り込まれている。規模は東西4.56m、深さ0.40mを測り、平面形は調査状況から隅丸方形を呈したと思われる。床面は地山の石が露出し、凹凸が激しい状態である。ピットは確認

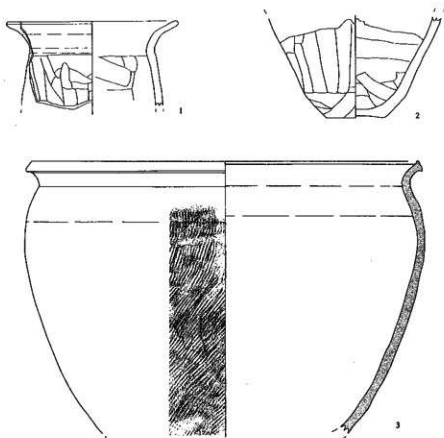


写197 H25号住居址全景（南から）

できなかった。

遺物は、土師器の甕などテンバコ6分の1箱出土している。図示できたのは3点である。1は土師器の甕で外面にヘラ削り、内面にヘラナデを施し、体部と口縁の境に明瞭な稜をもつ。2は土師器の甕で、ほぼ平坦な底部からやや湾曲気味に立ち上がる体部を持つ。3は須恵器の甕で、口が広く外面にたたきを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C前半と考えられる。



第142図 H25号住居址出土遺物実測図

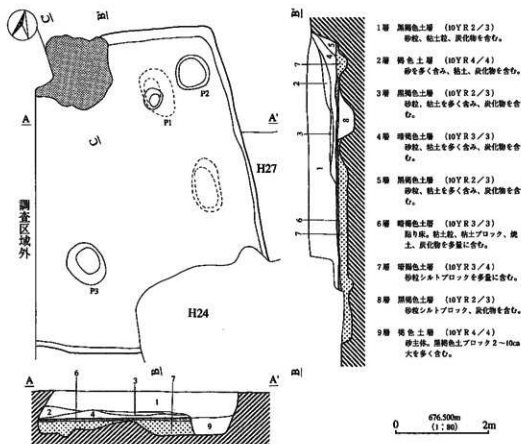
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	製	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	18.2	-	-	口縁 外底	ロクロ轆ナデ ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁20	良好	7.5YR7/1 褐色	
2	土師器	甕	-	6.2	-	外底 内底	ヘラ削り ヘラナデ	底部50	良	7.5YR6/6 褐色	
3	須恵器	甕	41.4	-	-	外底 内底	叩き 指圧痕	15	良好	N6/0 灰色	

第69表 H25号住居址出土遺物観察表

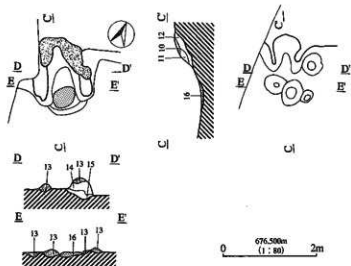


## H26号住居址

遺構は調査区南側Fーラー6グリットに位置し、H24に切られる。住居址西側は調査区外となる。(調査区西側は、以前下水道工事が行われており、遺構はすでに破壊されている。)遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き5層である。このうち1層が覆土の大半を占め、砂粒、粘土粒、炭化物を含む黒褐色土である。規模は調査規模で南北4.88、東西4.76、深さ0.56mを測り、平面形は北東コーナーの状況から方形と思われる。壁は僅かに外傾し立ち上がる。床面は全体的に堅く3~5cmの厚さで貼り床されていた。ピットは3個確認でき、P1、P2が住居址東側の主柱穴と思われる。かまどは、東壁の規模から北壁のほぼ中央に位置すると考えられる。かまどは粘土を多用し構築されており、両袖、煙道付近に顕著に認められた。袖は北壁から内側に入り込んでいる。火床は両袖に挟まれるように北壁の内側に位置し、炭土の堆積が見られた。住居址の掘方は床面から約20cm内外掘り込まれており、貼り床直下には地山の黄褐色ブロックを多く含んだ暗褐色土が埋め込まれていた。



第143図 H26号住居址実測図

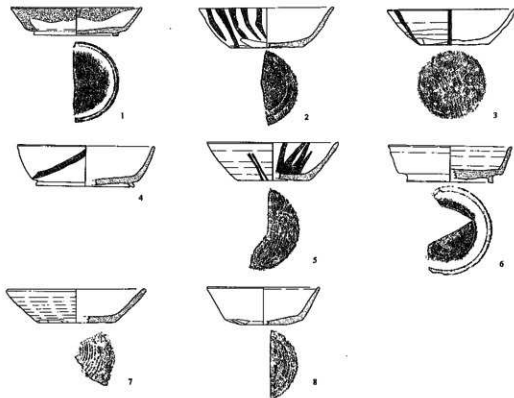


- 10層 褐色土層 (5YR4/3)  
粘土質、炭化物、ローム殻を含む。
- 11層 暗褐色土層 (10YR3/4)  
粘土、炭化物が多量に含む。
- 12層 褐色土層 (10YR4/4)  
粘土質、炭化物を含む。
- 13層 石灰質粘土層 (5YR5/3)  
粘土質、石灰質あり。
- 14層 黒褐色土層 (10YR3/2)  
粘土ブロック、砂粒、炭化物を含む。
- 15層 褐色土層 (10YR4/4)  
砂土質、粘土ブロックを含む。
- 16層 赤褐色土層 (5YR4/6)  
粘土質、石灰質なし。

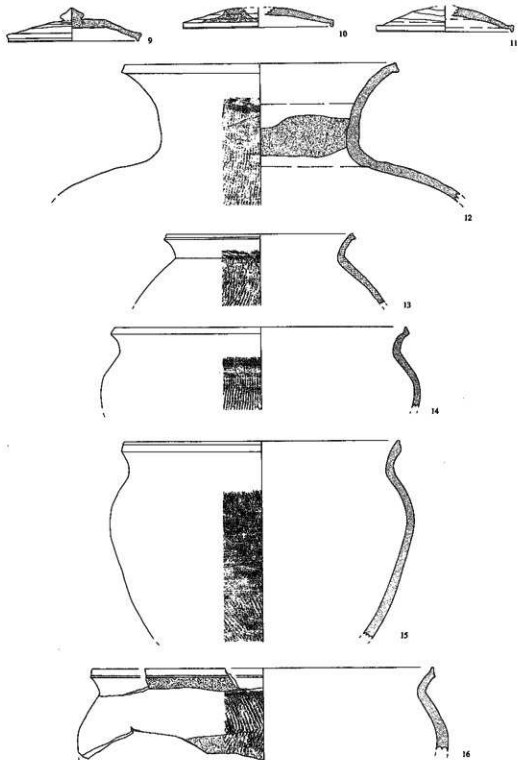
第144図 H26号住居址かまど実測図

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、蓋などテンバコに1箱出土している。1～8は須恵器の坏で、底部へラ削りを施されたものと高台張り付けのものが存在する。9～11は須恵器の蓋で外面上部にへラ削りを施す。12～17は須恵器の甕で外面にたたきを施す。

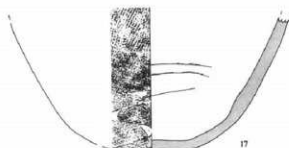
これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。



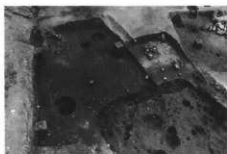
第145図 H26号住居址出土遺物実測図(1)



第146图 H26号住居址出土遺物実測図(2)



第147図 H26号住居址出土遺物実測図(3)



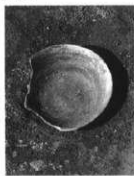
写198 H26号住居址



写199 H26号住居址壺方



写200 H26号かまど



写201 H26号遺物

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	構成	色調	備考
1	須恵器	高台付杯	14.0	8.9	3.0	内外面 ロクロ横ナデ 底面 高台盛り付け	50	良好	N2/0 暗灰色	自然釉付着
2	須恵器	杯	(14.4)	(7.8)	4.2	内外面 ロクロ横ナデ 底面・底面周辺 ヘラ削り	45	良好	2.8GY3/1 オリーブ灰	火だすき
3	須恵器	杯	13.6	7.2	3.7	内外面 ロクロ横ナデ 底面・底面周辺 ヘラ削り	90	良好	2.8GY3/1 オリーブ灰	火だすき
4	須恵器	高台付杯	14.6	10.4	4.38	内外面 ロクロ横ナデ 底面 高台盛り付け	50	良好	N3/0 灰色	火だすき
5	須恵器	杯	(14.0)	(7.3)	4.5	内外面 ロクロ横ナデ 底面 包転糸切り	40	良好	10YR6/1 灰色	火だすき
6	須恵器	高台付杯	(13.2)	(9.2)	3.9	内外面 ロクロ横ナデ 底面 高台盛り付け	40	良好	5Y3/1 灰色	
7	須恵器	杯	(14.8)	(7.8)	3.6	内外面 ロクロ横ナデ 底面・底面周辺 ヘラ削り	20	良	2.5Y6/2 灰黄色	
8	須恵器	杯	(12.0)	(5.0)	4.0	内外面 ロクロ横ナデ 底面・底面周辺 ヘラ削り	20	良好	N4/0 灰色	
9	須恵器	蓋	14.0	-	3.5	外面 ヘラ削り つまみ盛り付け	55	良好	N4/0 灰色	火だすき
10	須恵器	蓋	(16.0)	-	-	内外面 ロクロ横ナデ 上面 ヘラ削り	25	良好	2.5Y6/1 黄灰色	自然釉付着
11	須恵器	蓋	(14.8)	-	-	内外面 ロクロ横ナデ 外面上部 ヘラ削り	25	良	10YR6/1 暗灰色	
12	須恵器	甕	(29.2)	-	-	口縁 ロクロナデ 外面 叩き 内面 ハケ目	口縁20	良好	1.5Y4/1 灰色	自然釉付着
13	須恵器	甕	(20.0)	-	-	口縁 ロクロナデ 外面 叩き	口縁15	良好	1.5Y3/1 灰色	
14	須恵器	甕	(32.2)	-	-	口縁 ロクロナデ 外面 叩き	30	良好	1.5Y7/1 灰白色	

第70表 H26号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	容高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
15	須恵器	甕	(30.2)	-	-	口縁	ロクロ轆ナゲ 外面 叩き	30	良好	7.5Y8/1 灰色	
16	須恵器	甕	(37.2)	-	-	口縁	ロクロ轆ナゲ 外面 叩き 内面 あて丸板	口縁15	良好	N8/0 暗灰色	自然釉付着
17	須恵器	甕	-	8.6	-	外面	叩き	底縁50	良好	10Y8/1 灰色	

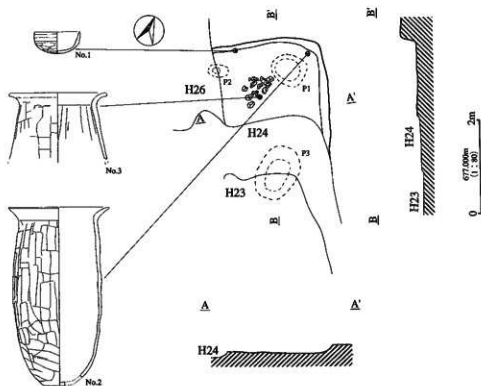
第71表 H26号住居址出土遺物観察表(2)

### H27号住居址

遺構は調査区南側F-1-6グリットに位置し、H24、H26に切られる。住居址の大半は破壊されており、北東コーナー付近が僅かに確認できた。壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは3個確認できたが主柱穴かは不明である。床面はやや壑さをもつ。かまどなどの施設は認められなかった。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏、蓋、甕などテンバコ4分の1箱出土している。図示できたのは4点である。1は須恵器の坏と思われ、底部にヘラ削りを施し、一見模倣坏の蓋のようにも思える。2、3、4は土師器の長胴甕で外面にヘラ削りを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C中～6C後半と考えられる。



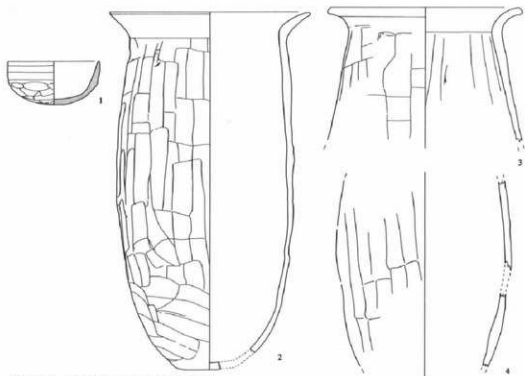
第148図 H27号住居址実測図



写202 H27号住居址全景



写203 H27号住居址遺物出土状況



第149図 H27号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	9.8	丸底	4.4	口縁 横ナゾ 底部～体部にかけて ヘラ削り	95	良好	7.5YR6/1 褐色	
2	土師器	甕	21.0	6.0	33.5	口縁 横ナゾ 外面 ヘラ削り 底部 ヘラ削り	90	良	7.5YR5/4 鈍い褐色	
3	土師器	甕	21.0	-	-	口縁 横ナゾ 外面 ヘラ削り	11線80	良	7.5YR7/4 鈍い褐色	
4	土師器	甕	-	-	-	外面 ヘラ削り	20	良好	2.5Y6/8 褐色	

第72表 H27号住居址出土遺物観察表

## H28号住居址

遺構は調査区南側のほぼ中央E-コー6グリットに位置し、H22、H27に切られ、D6を切る。遺構は砂層に掘りこまれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除いて4層である。1層は軽石、炭化物を含む黒褐色、2層は軽石、炭化物を含む暗褐色、3層は床面の直上で炭化物、焼土を含む暗褐色土である。規模は南北4.92m、東西5.32m、深さ0.40m（床面）を測り、平面形はやや隅の丸い方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅く貼り床されている。ピットは8個確認できた。このうちP1～P4が主柱穴と思われ、柱痕も認められた。かまどは北壁の中央に位置し、かまど周辺には多くの石が散在していた。袖は北壁から内側に大きく入り込んでおり、袖部には石が埋め込まれていた。さらに炊口付近の袖石には長方形の扁平石がのせられ、その下には焼土の堆積が見られた。また袖に挟まれた北壁のやや内側に、支脚の存在が確認できた。掘方は全体的に8cm～12cmの厚さで掘り込まれ、暗褐色土によって埋め固められてた。遺物は土師器の坏、高坏、甕などビニール袋2袋出土しているが、いずれも小破片のため図化し得なかった。遺物は小破片の僅かなものであったが、それぞれの土器の特徴から、本住居址は5C後半～6C代と考えられる。



写204 H28号住居址全景（南から）



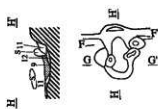
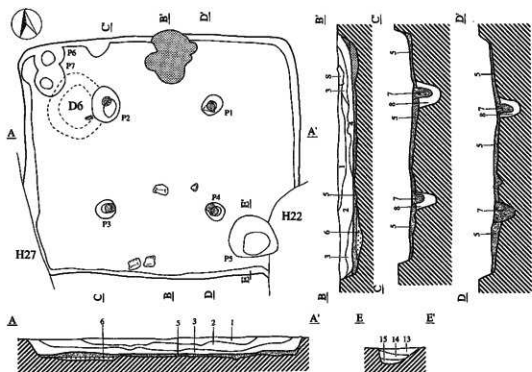
写205 H28号住居址かまど（南から）



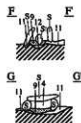
写206 H28号住居址かまど（北から）



写207 H28号住居址かまど



0 767.800m  
(1:80) 2m



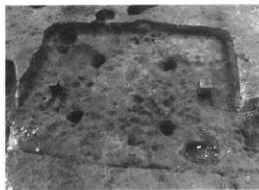
- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ローム殻、礫石、炭化物を含む。しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム殻、礫石、炭化物を含む。しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム殻、ロームブロック2-5cm大を含む。炭化物、焼土をわずかに含む。
- 4層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム殻、ロームブロック2-5cm大を含む。炭化物、焼土を含む。
- 5層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 隙り床。黒褐色土ブロック。炭化物、焼土を含む。
- 6層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム主体。しまりややあり。
- 7層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 柱状。炭化物を含む。しまりなし。
- 8層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 黒褐色土ブロックを含む。しまりややあり。
- 9層 濃い褐色土層 (5YR 6/4) 焼土層。
- 10層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 焼土、炭化物を含む。
- 11層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 焼土、炭化物を含む。しまりややあり。
- 12層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 焼土、炭化物を含む。しまりなし。
- 13層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム殻、炭化物を含む。
- 14層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム殻、炭化物を含む。(13層<14層)
- 15層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂質。小石1-2cmを含む。しまりなし。

第150図 H28号住居址実測図





写208 H28号住居址かまど掘方



写209 H28号住居址掘方（南から）

#### H29号住居址

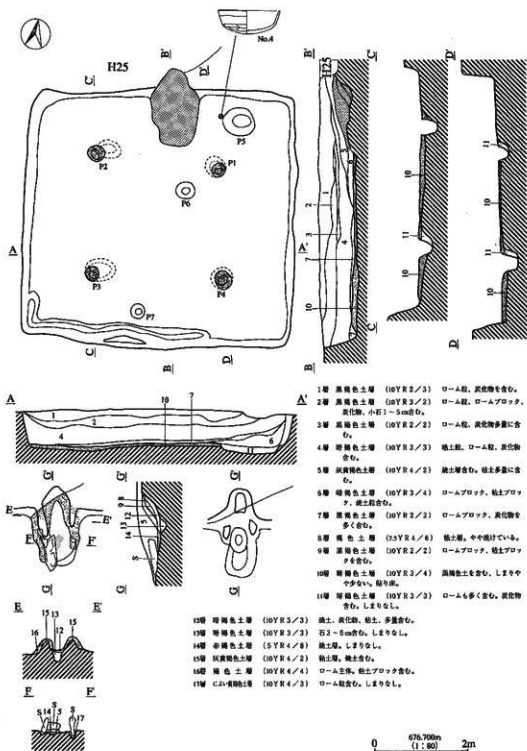
遺構は調査区南端のほぼ中央F-あー9グリットに位置し、H25に北壁の一部を切られる。北側に流れる湯川との距離は80mである。遺構は砂層に掘り込まれており床面までの覆土はかまどの覆土を除き5層である。1層は砂粒、炭化物を含む黒褐色土、2層はシルトブロック、小石、炭化物、を含む黒褐色土、3層は炭化物を多量に含



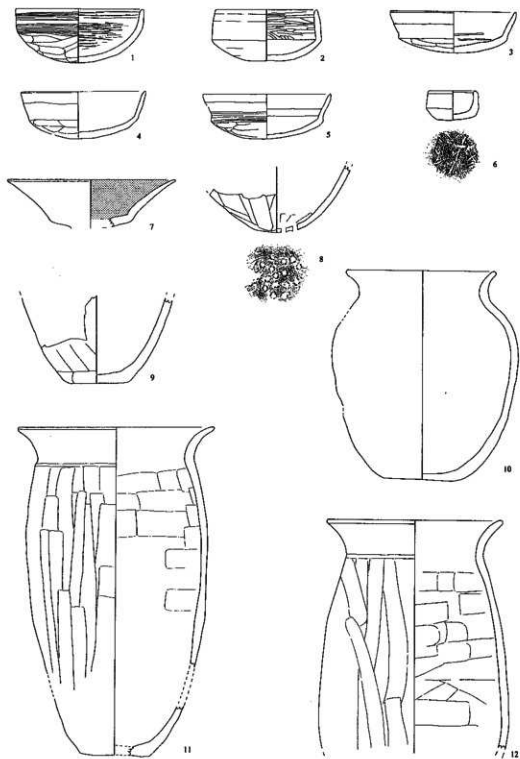
写210 H29号住居址全景（東から）

む黒褐色土、4層は粘土、炭化物を含む暗褐色土、5層は焼土、粘土を多量に含む灰黄褐色土である。規模は南北5.20m、東西5.32m、深さ0.80m（床面）を測り、平面形は方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、ややしまりがあり安定している。床面は堅く4～6cmの厚さで貼り床されている。南西コーナー付近に一部周溝が認められた。ピットは7個確認でき、P1～P4が支柱穴と思われる。かまどは北壁の中央に位置する。袖は北壁から住居内に65cm入り込み、一部地山を残し、これを粘土で覆っている。炊口付近の袖には石が埋め込まれており、西側袖付近には天井石と見られる長方形の石が南北方向に横たわっていた。住居の掘方はかまど周辺を除くほぼ全域に8～14cm掘り込まれており、暗褐色土が埋め込まれていた。

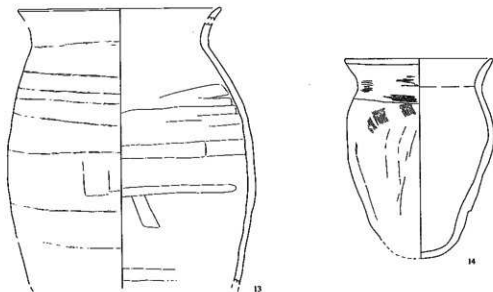
遺物は土師器の坏、甕、ミニチュア土器、須恵器の坏、蓋、甕、磨り石などテンパコ1箱出土している。1～5は土師器の坏で体部に明瞭な稜を持ち、底部周辺にヘラ削りを施す。6はミニチュア土器で底部に木葉痕を持つ。7は土師器の高坏で内面黒色処理後ミガキを施す。8は甕の甕の底部で多口式である。9～14は土師器の甕で、長胴で外面にヘラ削りを施すもの、土器の最大径が肩部にありやや器厚の厚いものが存在する。これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C前半～中頃と考えられる。



第151図 H29号住居址実測図



第152图 H29号住居址出土遺物実測図(1)



第153図 H29号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	13.7	丸底	5.7	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	90	良	10YR7/8 鈍い黄褐色	
2	土師器	坏	10.8	丸底	5.4	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	50	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
3	土師器	坏	13.7	丸底	3.7	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	90	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
4	土師器	坏	14.4	丸底	4.38	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	90	良好	7.5YR7/8 鈍い褐色	
5	土師器	坏	13.8	丸底	4.0	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	50	良好	5YR6/6 褐色	
6	ミニチュア土器	壺	5.5	丸底	3.1	底面 本遺痕	100	良	10YR8/4 黄褐色	
7	土師器	高坏	18.0	-	3.6	内面 黒色結晶・ミガキ	168/30	良	10YR7/4 鈍い黄褐色	
8	土師器	瓶	-	3.8	4.0	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底面95	良	10YR5/6 赤色	底面多口
9	土師器	壺	-	6.7	3.5	外面 ヘラ削り 内面 ヘラ削り	底面50	良好	5YR5/2 灰褐色	
10	土師器	壺	16.1	7.3	-	口縁 横ナデ 内面 ハケ目・ミガキ	70	良	10YR7/2 鈍い黄褐色	
11	土師器	壺	20.8	7.4	-	口縁 横ナデ 内面 ヘラナデ	70	良	7.5YR6/6 褐色	
12	土師器	壺	19.0	-	-	口縁 横ナデ 内面 ヘラナデ	20	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
13	土師器	壺	21.6	-	-	口縁 横ナデ 内面 ヘラナデ	25	良	7.5YR7/4 鈍い褐色	
14	土師器	壺	16.2	(5.8)	-	口縁 ヘラナデ 外面 ハケ目・ヘラ削り	70	良	10YR7/1 灰白色	

第73表 H29号住居址出土遺物観察表



写211 H29号住居址かまど



写212 H29号住居址掘方(東から)

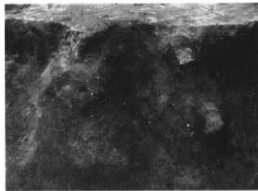
#### H30号住居址

遺構は調査区南の東際E-1け-6グリットに位置し、H22を切る。住居址の東側は調査区外となる。遺構は砂層に掘りこまれており、覆土はかまどの覆土を除き、黒褐色土の単層である。規模は南北4.70m、東西3.52m、深さ0.66m(床面)を測り、平面形はやや隅丸の方形を呈する。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面はかまど付近を除き全体的に4~8cmの厚さで貼り床かされている。ピットは西壁よりに2個確認できた。住居西側の主柱穴と思われる。また南西コーナー付近に深さ15cmほどの浅い土坑、南壁沿いには一部周溝らしき溝が認められた。かまどは西壁の規模から、北壁のほぼ中央に位置すると思われる。袖は北壁から住居内に80cm入り込み、粘土で構築されている。火床は袖に挟まれるように存在し、厚さ8cmの焼土が堆積していた。

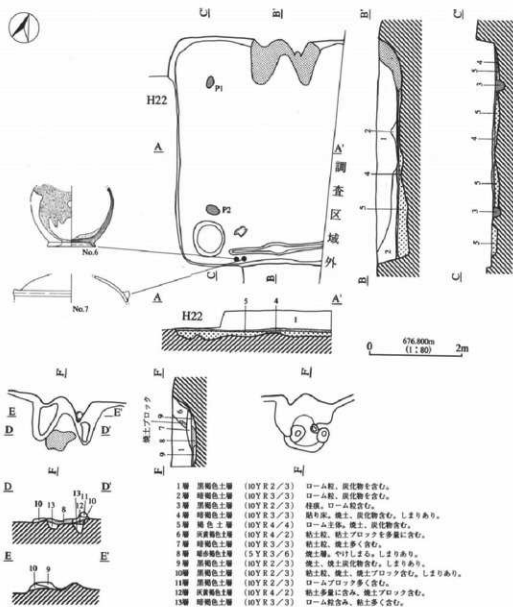
遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕などテンバコ2分の1箱出土している。1は須恵器の坏で、糸切りされた底部からやや内傾気味に立ち上がり口縁部に至る。2、3、4は須恵器の蓋である。5は小型の轆轤甕で外面体部下半にヘラ削りを施す。6は須恵器の壺と考えられ、外面に自然釉が付着する。7は須恵器の壺、8は土師器の甕である。9C前半と考えられる。



写213 H30号住居址全景(南から)



写214 H30号住居址かまど(南から)



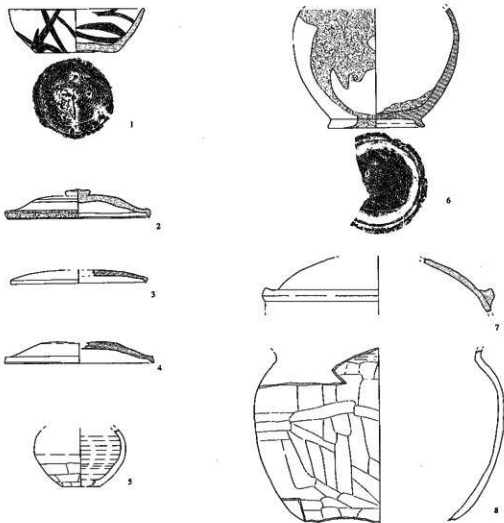
第154図 H30号住居址実測図



写215 H30号住居址掘方全景(南から)



写216 H30号住居址かまど掘方(南から)



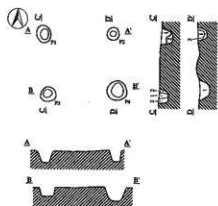
第155図 H30号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	測 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	須恵器	杯	14.4	8.2	4.5	内外面 ロクロナデ 底層 回転糸切り	100	良	N6/0 灰色	火だすき
2	須恵器	壺	(15.2)	-	2.6	外面上部 ヘラ削り ロクロナデ つまみ張り付け	10	良好	7.5YR5/1 褐灰色	自然釉付着
3	須恵器	壺	(14.6)	-	-	外面上部 ヘラ削り ロクロナデ	30	良好	N6/0 灰色	
4	須恵器	壺	(16.0)	-	-	外面上部 ヘラ削り ロクロナデ	20	良好	10Y7/1 灰白色	
5	土師器	輪軸碗	-	4.0	-	外面下部 へら削り	25	良好	10YR5/4 赤褐色	
6	須恵器	壺	-	10.4	-	底層 回転糸切り 表裏台張り付け	40	良好	5R4/1 暗茶灰色	自然釉付着
7	須恵器	壺	-	-	-	外面 ロクロナデ	体形の一部	良	N6/0 灰色	自然釉付着
8	土師器	壺	-	-	-	外面 ヘラ削り	25	良	10YR7/4 鈍い黄褐色	

第74表 H30号住居址出土遺物観察表

## 第2節 掘立柱建物址 (F)

### F 1号掘立柱建物址



- 1層 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒、パリスを含む。  
2層 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒多く含む。

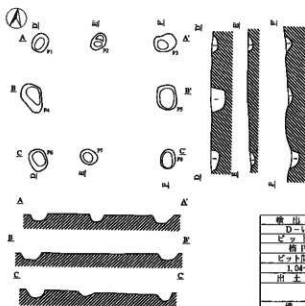
0 071,200  
01.200 3m

検出位置	形 態	層 積 (部)
D-スーワ	方 形	1 x 1
ピット形跡	ピット痕跡 (縦横×長さ) cm	
構 円形	P1-49×40	
ピット間隔(m)	P2-37×26	
土 層-1号	P3-47×25	
出土遺物	P4-37×41	

第75表 F 1号掘立柱建物址観察表

第156図 F 1号掘立柱建物址実測図

### F 2号掘立柱建物址



- 1層 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒、小石  
3~5cm大多く含む。

0 071,200  
01.200 3m

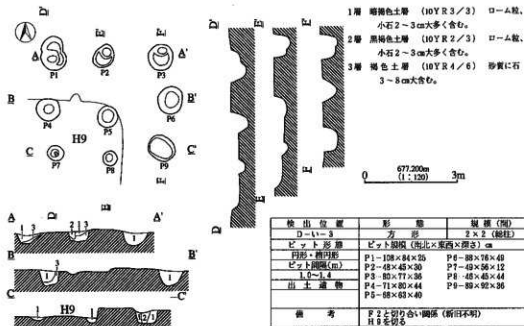
検出位置	形 態	層 積 (部)
D-イ-号	方 形	2 x 2
ピット形跡	ピット痕跡 (縦横×間隔×長さ) cm	
構 円形	P1-40×48×21	P5-50×65×20
ピット間隔(m)	P2-59×46×20	P6-72×68×27
土 層-2号	P3-52×71×44	P7-28×55×16
出土遺物	P4-92×68×23	P8-60×49×20

第76表 F 2号掘立柱建物址観察表

第157図 F 2号掘立柱建物址実測図



F 3号掘立柱建物址



第158図 F 3号掘立柱建物址実測図

第77表 F 3号掘立柱建物址観察表

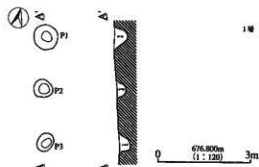
F 4号掘立柱建物址



第159図 F 4号掘立柱建物址実測図

第78表 F 4号掘立柱建物址観察表

F 5号掘立柱建物址



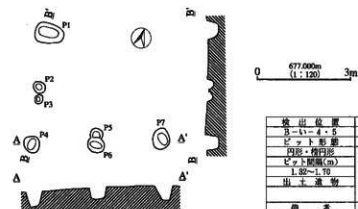
第160図 F 5号掘立柱建物址実測図

1層 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム状、小石を含む。

検出位置	形態	面積(㎡)
B-41-10	不明	不明
ピット別数	ピット総数(直径×深さ) cm	
円形	P1-78×39	
ピット間隔(m)	P2-48×25	
1.19	P3-60×28	
出土遺物		
備考	形態・総数は一部調査区外のため不明	

第79表 F 5号掘立柱建物址観察表

F 6号掘立柱建物址

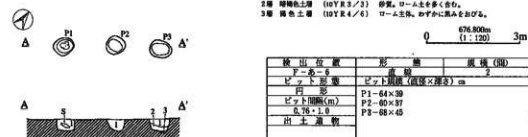


第161図 F 6号掘立柱建物址実測図

検出位置	形態	面積(㎡)
B-41-4・5	不明	2×2
ピット別数	ピット総数(南北×東西×深さ) cm	
円形・楕円形	P1-64×50×47	P5-47×55×37
ピット間隔(m)	P2-41×38×30	P6-38×45×25
1.82~1.70	P3-31×28×19	P7-72×58×45
出土遺物	P4-52×50×48	
備考	H1と切り合い関係	

第80表 F 6号掘立柱建物址観察表

F 7号掘立柱建物址



第162図 F 7号掘立柱建物址実測図

1層 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム状、パリスを含む。

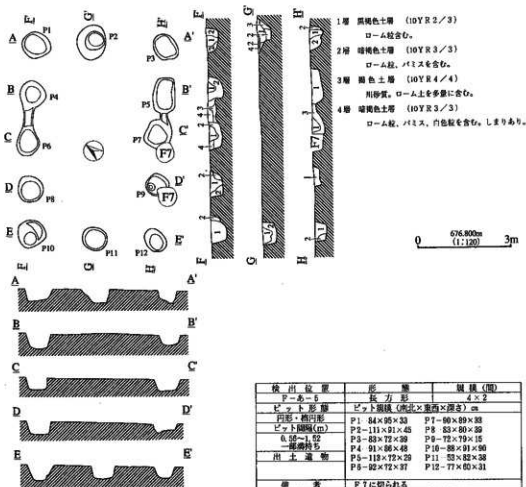
2層 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂質、ローム土を多く含む。

3層 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体、わずかに黒土を含む。

検出位置	形態	面積(㎡)
F-6-6	遺物	2
ピット別数	ピット総数(直径×深さ) cm	
円形	P1-64×39	
ピット間隔(m)	P2-60×37	
0.76・1.0	P3-68×45	
出土遺物		
備考	H2B・F8を切る。	

第81表 F 7号掘立柱建物址観察表

F 8号掘立柱建物址

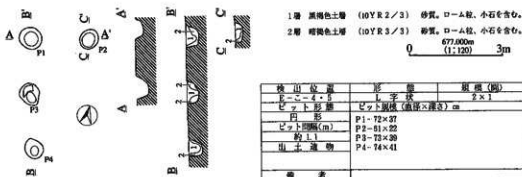


第163図 F 8号掘立柱建物址実測図

第82表 F 8号掘立柱建物址観察表

検出位置	形 態	規模(㎝)
F-あ-6	板 方 形	4×2
ピット形跡	ピット周縁(西北×東西×長さ) cm	
直径・幅(㎝)	P1-84×95×33	P7-90×89×38
ピット周縁(㎝)	P2-111×21×45	P8-53×50×29
0.55-1.82	P3-83×72×30	P9-72×79×15
一様磨削形	P4-91×86×48	P10-88×91×50
出土遺物	P5-119×72×29	P11-53×82×38
	P6-82×72×37	P12-77×65×31
備 考	F 7に切られる	

F 9号掘立柱建物址

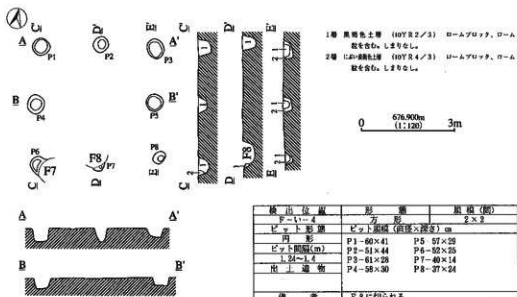


第164図 F 9号掘立柱建物址実測図

第83表 F 9号掘立柱建物址観察表

検出位置	形 態	規模(㎝)
F-こ-4・5	し 字 状	2×1
ピット形跡	ピット周縁(直径×長さ) cm	
直径	P1-72×37	
ピット周縁(㎝)	P2-91×25	
約1.1	P3-73×30	
出土遺物	P4-74×41	
備 考		

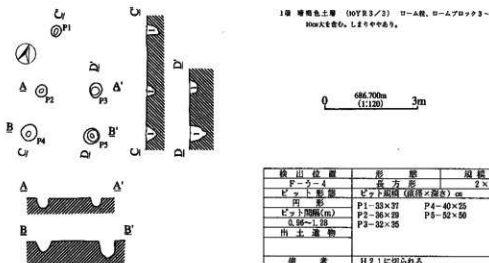
F10号独立柱建物址



第165図 F10号独立柱建物址実測図

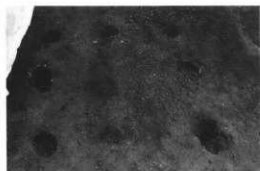
第84表 F10号独立柱建物址観察表

F11号独立柱建物址



第166図 F11号独立柱建物址実測図

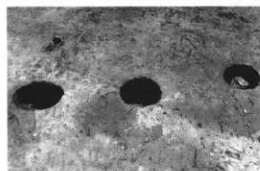
第85表 F11号独立柱建物址観察表



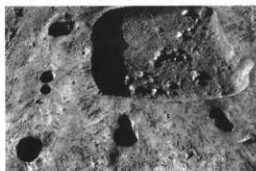
写217 F 2号掘立柱建物址



写218 F 3号掘立柱建物址



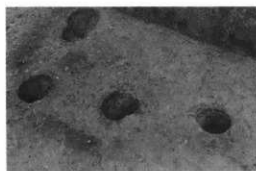
写219 F 4号掘立柱建物址



写220 F 6号掘立柱建物址



写221 F 7号・8号掘立柱建物址



写222 F 9号掘立柱建物址

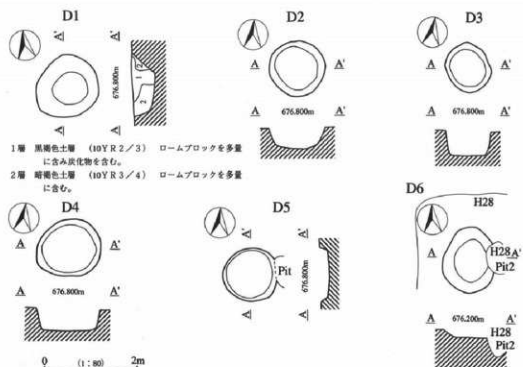


写223 F 10号掘立柱建物址



写224 F 11号掘立柱建物址

### 第3節 土坑(D)



第167図 仲田遺跡土坑実測図

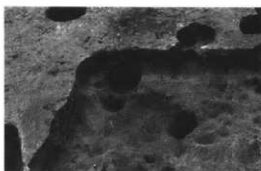
遺構名	検出位置	形態	規模(東西・南北・深さ)	出土遺物	備考
D 1	F-あ-9	円形	1.36・1.55・4.5		
D 2	E-こ-9	円形	1.20・1.16・5.1		
D 3	E-こ-9	円形	0.6・1.05・6.0		
D 4	E-こ-9	円形	1.36・1.25・4.6		
D 5	E-け-9	円形	1.17・1.16・2.1		
D 6	F-あ-6	円形	1.18・1.29・1.5	骨土器(前期)	

第86表 仲田遺跡土坑観察表

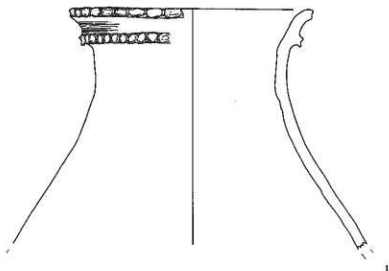
(単位 m)



写225 D1号～D4号土坑



写226 D6号土坑

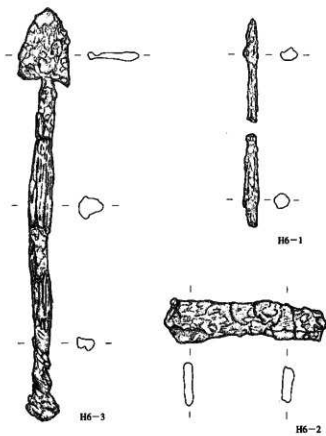


第168図 D6号土坑出土遺物実測図

番号	器種	器形	口徑cm	底徑cm	器高cm	圖	量	残存率%	構成	色調	備考
1	赤土器	壺	(26.0)	-	-	外口ミ打本 内口ヘナナ子		□線20	良	1.5V0/4 鈍い褐色	

第87表 D6号土坑出土遺物観察表

#### 第4節 鉄製品



第169図 仲田遺跡出土鉄製品実測図

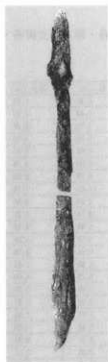
番号	出土遺構名	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	H 6	鉄鏃	15.45	—	1.15	10.65	先端・茎欠損
2	H 6	鏃	12.43	2.81	0.42	55.41	先端欠損
3	H 6	鉄鏃?	33.10	4.96	0.81	106.20	

第68表 仲田遺跡出土鉄製品観察表

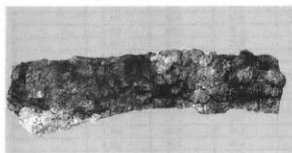




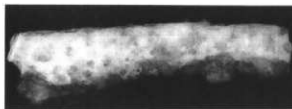
写227 H 6号铁簪



写228 H 6号铁簪



写229 H 6号住居址出土鐵



写230 H 6号住居址出土鐵



写231 H 6号出土鉄簪



写232 H 6号出土鉄簪

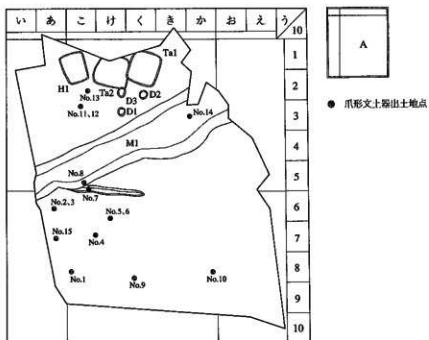
## 第5節 石製品

仲田遺跡の住居址から磨り石・敲き石・編み物石・砥石・支脚石・凹石といった石製品が出土している。(写真図版四十二～四十九参照)

遺構名	番号	名称	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
H2	1	編み物石	輝石安山岩	10.81	5.48	2.41	204.8	
	2	磨り石	安山岩	5.23	5.48	3.74	84.7	
	3	凹み石	輝石	9.71	7.75	5.27	162.0	
H3	4	砥石	流紋岩	5.76	3.98	3.29	82.6	
	5	砥石	流紋岩	4.01	2.68	0.87	15.3	
H5	6	敲き石	輝石安山岩	15.40	6.54	3.78	608.7	
	7	磨り石	輝石	11.49	5.79	5.33	173.4	
H9	8	凹み石	輝石	10.21	11.51	6.79	445.9	
	9	編み物石	輝石安山岩	12.04	4.96	4.96	411.5	
H11	10	編み物石	輝石	10.75	3.74	3.21	178.2	
	11	砥石	伊岩	8.16	4.85	4.85	344.4	
H12	12	敲き石	オルソフェルス	15.09	4.58	5.20	612.2	
H14	13	磨り石	安山岩	8.22	6.34	2.56	169.8	
	14	磨り石	安山岩	4.95	5.48	4.01	137.9	
H15	15	磨り石	輝石安山岩	7.02	5.28	4.09	213.1	
	16	支脚石	輝石	20.75	7.49	7.37	287.0	
H16	17	砥石	流紋岩	6.89	4.95	3.97	178.5	
	18	砥石	流紋岩	5.85	3.22	1.58	43.6	
H18	19	砥石	流紋岩	16.00	3.85	4.29	501.3	
	20	敲き石	輝石安山岩	4.86	4.21	2.84	87.6	
H19	21	磨り石	輝石	3.87	3.08	1.01	7.1	
	22	支脚石	凝灰岩	27.80	13.19	6.03	2285.1	
	23	支脚石	赤色安山岩	22.85	11.35	5.40	1210.2	
H21	24	敲き石	凝灰安山岩	12.09	4.08	4.31	357.1	
	25	磨り石	安山岩	10.97	6.22	4.54	298.8	
	26	凹み石	輝石	10.90	8.89	4.17	129.8	
H23	27	敲き石	輝石安山岩	13.63	3.08	3.23	175.9	
	28	編み物石	安山岩	10.91	5.42	2.68	210.4	
	29	磨り石	石英安山岩	10.66	5.28	3.33	229.6	
H26	30	支脚石	輝石安山岩	19.16	10.84	2.48	586.4	
	31	編み物石	輝石安山岩	11.31	4.85	3.08	248.3	
	32	磨り石	安山岩	7.65	7.14	5.38	389.3	
H29	33	支脚石	輝石	24.65	10.88	10.25	1454.4	
	34	敲き石	輝石安山岩	16.80	5.82	6.35	1162.9	
	35	敲き石	輝石安山岩	13.85	7.03	5.21	704.2	
	36	磨り石	輝石安山岩	13.41	7.38	2.84	448.1	
	37	編み物石	輝石安山岩	8.41	4.59	3.09	192.9	
	38	編み物石	輝石安山岩	8.41	3.39	3.85	147.6	
	39	編み物石	輝石安山岩	8.20	4.54	2.43	145.0	
	40	編み物石	輝石安山岩	8.21	5.00	2.68	189.6	
	41	編み物石	輝石安山岩	8.78	4.97	3.80	213.7	
	42	編み物石	輝石安山岩	10.10	5.97	3.01	213.7	
	43	編み物石	輝石安山岩	8.42	4.97	2.65	149.5	
	44	編み物石	輝石安山岩	8.20	4.87	1.98	158.8	
45	編み物石	輝石安山岩	9.35	4.58	2.67	173.7		
46	編み物石	輝石安山岩	9.43	5.30	2.70	217.1		
47	編み物石	輝石安山岩	9.57	4.44	2.38	145.6		
48	編み物石	輝石安山岩	8.69	4.79	2.88	193.8		
49	編み物石	輝石安山岩	8.44	4.98	2.59	163.1		
H30	50	磨り石	輝石	9.41	6.06	2.70	88.0	
	51	凹み石	輝石	6.58	4.80	3.64	32.7	

第89表 仲田遺跡出土石製品観察表

## 第IV章 寺畑遺跡Ⅱ



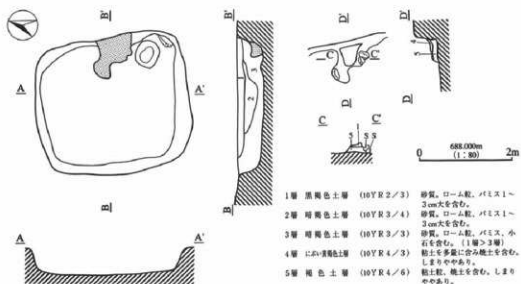
第170図 寺畑遺跡Ⅱ遺構配置図 (1 : 500)

## 第1節 竪穴住居址 (H)

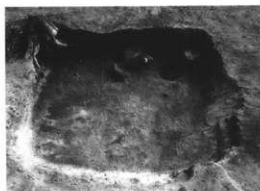
### H1号住居址

遺構は調査区北側、A-C-1グリッドに位置する。規模は南北2.96m、東西3.28m、深さ0.57mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は堅いが、ピットは認められなかった。かまどは北壁の中央に位置するが、大半は破壊されている。周辺には構築の際、使用されたとと思われる多量の粘土が確認できた。

遺物は須恵器の坏・蓋・甕片等が僅かに出土した。平安時代と思われる。



第171図 H1号住居址実測図

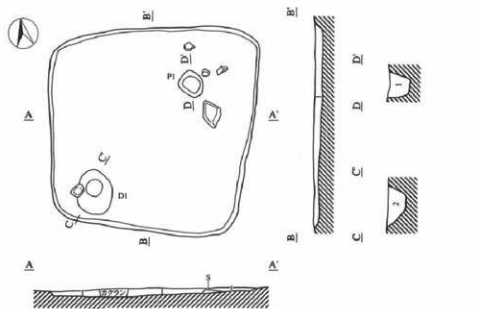


写233 H1号住居址全景

## 第2節 竪穴状遺構 (Ta)

### Ta1号竪穴状遺構

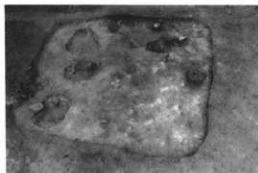
遺構は調査区北側、A-く-1グリッドに位置し、Ta2を切る。規模は南北4.4m、東西4.08m、深さ0.2mを測る。床面は堅く、ピット1、土坑1が認められた。遺物は土師器、須恵器片が僅かに出土した。



- 1層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) ローム粒、小石1~3cm大を含む。  
 2層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) 砂質。ローム粒を含む。しまりなし。

0 688.500m (1:80) 2m

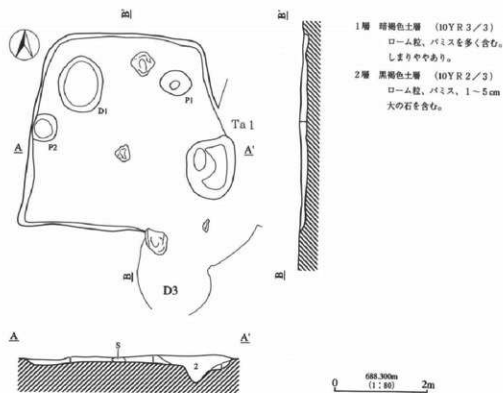
第172図 Ta1号竪穴状遺構実測図



写234 Ta1号竪穴状遺構全景

### Ta2号竪穴状遺構

遺構は調査区北端のほぼ中央、A-けー1グリッドに位置し、Ta1に切られる。規模は南北4.24m、東西3.9m、深さ0.18mを測る。床はやや堅く、ピット2、土坑1が認められた。遺物は土師器、須恵器がわずかに出土した。



第173図 Ta2号竪穴状遺構実測図



写235 Ta2号竪穴状遺構全景

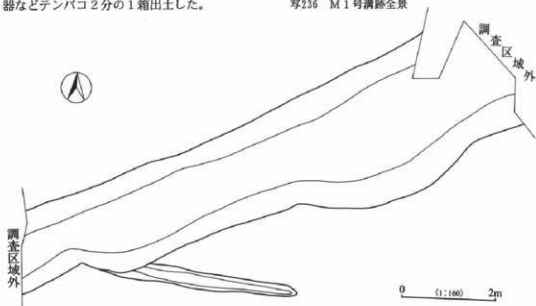
### 第3節 溝跡 (M)

#### M1号溝跡

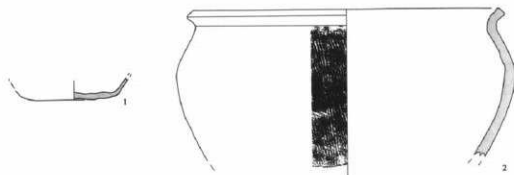
遺構は調査区の北をほぼ東西方向にのびる。長さは調査区外にのびるため不明である。幅は3～6m、深さは0.3m内外を測る。壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。覆土はローム粒、軽石を含む黒褐色土である。覆土内には流れ込みと思われる土師器の坏、須恵器の坏・甕・縄文土器、石器などテンバコ2分の1箱出土した。



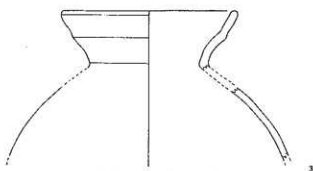
写236 M1号溝跡全景



第174図 M1号溝跡実測図



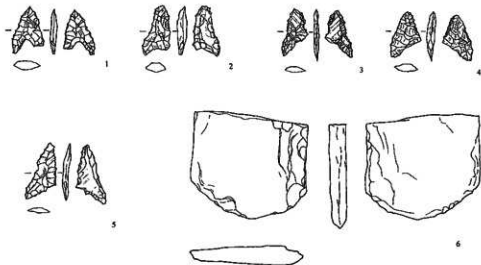
第175図 M1号溝跡出土遺物実測図(1)



第176图 M1号溝跡出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	状態	色 調	備 考
1	須恵器	杯	-	6.5	-	底面へつ残り	40	良好	7.5Y6/1 灰色	
2	須恵器	甕	34.2	-	-	口縁 横ナデ 縁部 叩き	口縁20	良好	7.5Y6/1 灰色	
3	土師器	甕	18.4	-	-	口縁 横ナデ	口縁60	良	5YR6/6 褐色	

第90表 M1号溝跡出土遺物観察表



第177图 M1号溝跡出土石器実測図

遺物名	番号	名称	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
M1	1	石 鏃	チ + ト	2.32	1.59	0.40	1.2	
	2	石 鏃	チ + ト	2.78	1.40	0.47	1.4	
	3	石 鏃	黒 曜 石	2.55	1.15	0.27	0.5	
	4	石 鏃	黒 曜 石	2.51	1.68	0.40	1.1	
	5	石 鏃	チ + ト	2.29	1.38	0.31	1.2	
	6	石 斧	輝石安山岩	6.51	6.04	0.99	51.5	

第91表 M1号溝跡出土石器観察表





写237 M1号溝跡出土黒曜石

#### 第4節 土坑(D)



第178図 寺畑遺跡Ⅱ土坑実測図

遺構名	検出位置	形態	規模(径・深さ)	出土遺物	備考
D1	A-17-3	円形	1.00×?4	土器片・遺骨断片	
D2	A-17-2	円形	8.0×3.2	土器片・遺骨断片	
D3	A-17-1	円形	1.88×3.6	土器片・遺骨断片	

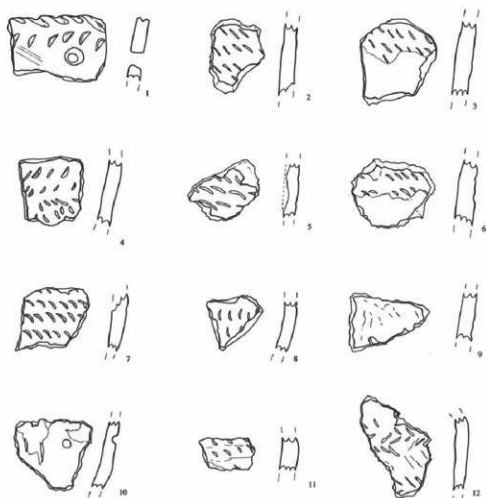
第92表 寺畑遺跡Ⅱ土坑観察表

## 第5節 遺構外遺物

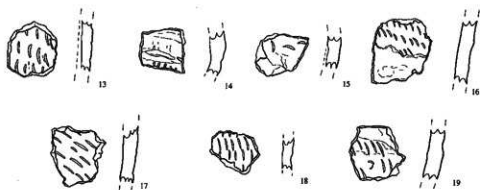
遺構外からは、検出時に土師器の甕、須恵器の坏・甕、石器、縄文土器が出土した。これらの遺物は大部分が小破片であるが、中には佐久市では最古と考えられる縄文草創期の爪形文土器が含まれている。佐久市内では平成7年佐久市都市計画課による道路改良工事に伴い、本遺跡に隣接する南側の調査が行われ、21片の爪形文土器が出土している。このため、縄文草創期の遺構の検出を一つの目的として調査を行ったが、今回も遺構の確認はできなかった。しかし、新たに19片の爪形文土器を出土した。



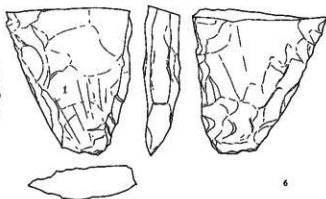
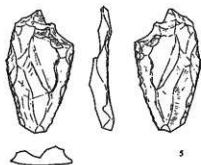
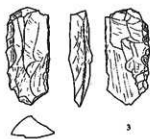
写238 爪形文土器出土状況



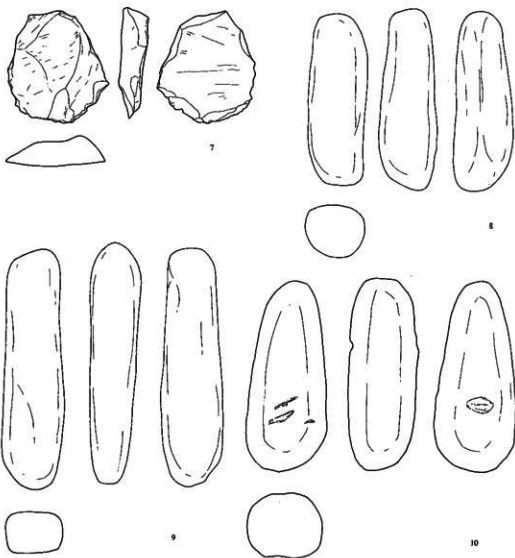
第179図 遺構外出土爪形文土器実測図(1)



第180图 遺構外出土爪形文土器实例图(2)



第181图 遺構外出土石器实例图(1)



第182図 遺構外出土石器実測図(2)

遺構名	番号	名称	石材	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	備考
遺構外	1	石 鏃	黒曜石	2.58	1.34	0.34	1.0	
"	2	鏃 器	黒曜石	2.66	2.54	0.67	6.4	
"	3	鏃 器	黒曜石	3.16	2.38	1.22	13.3	
"	4	形 器	黒曜石	3.26	1.72	0.99	4.90	
"	5	石 鏃	チャート	6.65	3.22	0.95	18.3	
"	6	形 器	輝石灰山岩	3.65	6.12	1.67	52.1	
"	7	鏃 器	輝 石	7.65	6.70	1.85	105.8	
"	8	鍔 石	輝石安山岩	8.59	3.61	2.52	161.9	
"	9	鍔 石	輝石安山岩	12.74	3.25	2.03	179.0	
"	10	鍔 石	輝石安山岩	10.42	4.35	3.51	236.4	

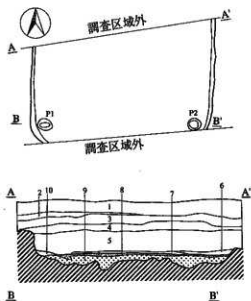
第93表 寺畑遺跡Ⅱ遺構外出土石器観察表

## 第V章 中西ノ久保遺跡 I

中西ノ久保遺跡 I は、今回の調査に先立ち平成4年発掘調査が行われた遺跡だが、同一集落と考えられるため比較遺跡として遺構・遺物の掲載を行う。今後、中西ノ久保遺跡を広範囲に考える上での参考にしていただきたい。

### 第1節 遺構と遺物

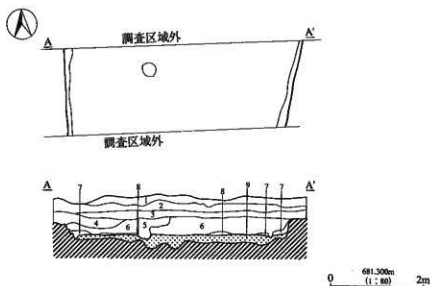
#### H1号住居址（平安時代）



- | 1層  | 全体層序 I 層            | 2層  | 全体層序 II a 層 | 3層 | 全体層序 II b 層 | 4層 | 全体層序 III 層 |
|-----|---------------------|---|-------------|----|-------------|----|------------|
| 5層  | 黒色土層 (7.5Y R 2/1)   | 砂質土。径0.3~0.5cm次のパリスを多量に含む。炭を少量含む。粘質性少しあり。               |             |    |             |    |            |
| 6層  | 黒色土層 (7.5Y R 1.7/1) | 堅くしまりあり。7.5Y R 4/3の粒土を含む。                               |             |    |             |    |            |
| 7層  | 黒褐色土層 (7.5Y R 2/2)  | 堅くしまりあり。7.5Y R 5/8の焼土・7.5Y R 4/3の粒土を多量に含む。径5cm次の炭を少量含む。 |             |    |             |    |            |
| 8層  | 黒色土層 (7.5Y R 2/1)   | 堅くしまりあり。粘質性あり。貼り床。                                      |             |    |             |    |            |
| 9層  | 黒褐色土層 (7.5Y R 3/1)  | 7.5Y R 5/6 (焼山) ブロックを多量に含む。床下の埋め土。                      |             |    |             |    |            |
| 10層 | 黒色土層 (7.5Y R 2/1)   | 焼山・7.5Y R 5/6、径2cm次のブロックを少量含む。粘質性あり。                    |             |    |             |    |            |

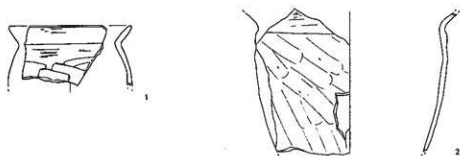
第183図 H1号住居址実測図

H 2 号住居址 (平安時代)



- 1層 全体層序 E a層  
 2層 全体層序 D b層  
 3層 灰質楊土層 (7.5Y R 4 / 2) 7.5Y R 2 / 2ブロック・径3~10cm大の円礫を少量含む。層の下部には径0.2~1cm大の層がある。小河川。  
 4層 全体層序 目録  
 5層 黒褐色土層 (7.5Y R 2 / 2) 径3cm~5cm大の7.5Y R 5 / 6 (地山) ブロックを多量に含む。  
 6層 黒褐色土層 (7.5Y R 3 / 1) 径0.5~1cm大の7.5Y R 5 / 6 (地山) ブロック・灰を少量含む。  
 7層 黒褐色土層 (7.5Y R 3 / 1) 径0.5~1cm大の7.5Y R 5 / 6 (地山) ブロックを多量に含む。  
 8層 黒褐色土層 (7.5Y R 2 / 2) 灰・粘土を含む。  
 9層 黒色土層 (7.5Y R 2 / 1) 7.5Y R 5 / 6 (地山) ブロックを多量に含む。灰、粘土を少量含む。

第184図 H 2 号住居址実測図



第185図 H 2 号住居址出土遺物実測図 (1)

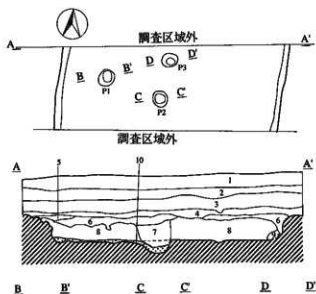


第186図 H2号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	積存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	(13.0)	-	-	外面ヘラ削り	口縁部	良好	良好	5YR8/4 鈍い赤褐色	
2	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラ削り	頸部・体部の一部	良好	良好	5YR8/4 鈍い赤褐色	
3	須恵器	甕	-	丸底	-	内外面可造	底縁周辺	良好	良好	10Y8/1 灰色	

第94表 H2号住居址出土遺物観察表

H3号住居址(住居址からは古墳・平安時代の土器が出土)



- 1層 全体層序1層
- 2層 全体層序2a層
- 3層 全体層序2b層
- 4層 全体層序3層
- 5層 黒褐色土層 (7.5YR 2/3)
- 6層 黒褐色土層 (7.5YR 3/2)
- 7層 黒褐色土層 (7.5YR 3/3) 径5~1cm大の7.5YR 6/8(燧山)を多量に含む。
- 8層 黒褐色土層 (7.5YR 3/2) 径5~1cm大の7.5YR 6/8(燧山)を少量、5cm大のプロットの下部に多量に含む。
- 9層 黒褐色土層 (7.5YR 2/2) 径5~2cm大の7.5YR 6/8(燧山)プロットを多量に含む。
- 10層 黒褐色土層 (7.5YR 3/1) 径1~3cm大の7.5YR 6/8(燧山)プロット多量に含む。床下の礫の土。



第187図 H3号住居址実測図

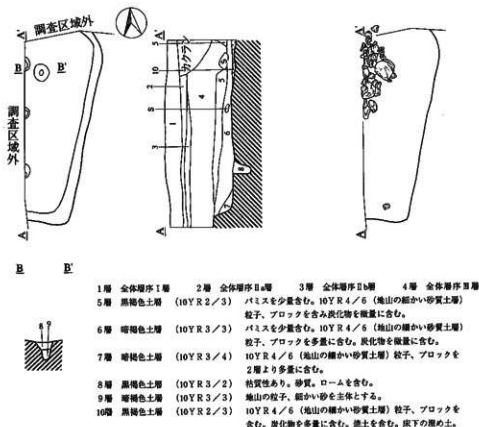


第188図 H3号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	状態	色調	備考
1	須恵器	杯	-	6.4	-	底部 回転糸切り	20	良好	7.5YR8/4 鈍い褐色	
2	土師器	高杯	-	9.0	-	脚部外面 ヘラ削り 脚部内面 ヘラナデ	脚部30	良好	5YR5/6 明赤褐色	
3	土師器	甌	-	-	-	底部付近 ヘラ削り	底部30	良	5YR5/3 鈍い赤褐色	

第95表 H3号住居址出土遺物観察表

#### H4号住居址



第189図 H4号住居址実測図

0 681.400m  
(1:80) 2m



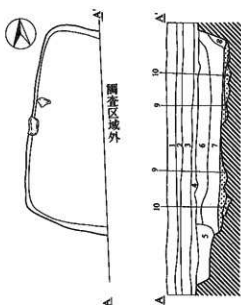


第190図 H4号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須臬器	碗		9.1	3.6	内外面 ロクロナデ 外面 ロクロヘラ削り	70	良好	N8/0 灰色	
2	土師器	広口碗	10.0	丸底	7.0	外面 底端・底部下へラ削り 内面 ヘラナデ	80	良好	N8/0 暗灰色	

第96表 H4号住居址出土遺物観察表

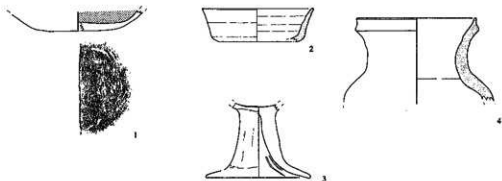
H5号住居址 (奈良時代)



- 1層 全体層序Ⅱa層
- 2層 全体層序Ⅱb層
- 3層 全体層序Ⅲ層
- 4層 黒褐色土層 (10Y R 2/2) 炭化粒子が微量に混入する。
- 5層 黒褐色土層 (10Y R 3/2) ロームブロックが混入する。
- 6層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) 炭化粒子、バミスが混入する。
- 7層 黒褐色土層 (10Y R 3/2) 炭化粒子、ロームブロックが混入する。
- 8層 黒褐色土層 (10Y R 3/2)
- 9層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) ローム粒子、ロームブロックが混入する。床下の埋の土。
- 10層 暗褐色土層 (10Y R 3/4) ローム粒子を多量に含む。床下の埋の土。

0 681.200m (1:80) 2m

第191図 H5号住居址実測図

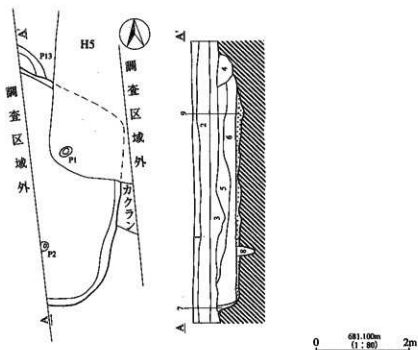


第192図 H5号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	残存率%	炭成	色調	備考
1	土師器	杯	-	(6.8)	-	内面 黒色処理	25	良好	T.5YR7/3 鈍い褐色	
2	須恵器	杯	(11.0)	(8.2)	3.5	内外面 ロクロナデ	20	良好	N8/0 灰色	
3	土師器	高杯	-	11.4	-	脚部外面 ヘラ削り	脚部70	良好	5YR8/4 鈍い褐色	
4	須恵器	壺	(12.8)	-	-		口縁15	良好	5PB/1 明褐色	

第97表 H5号住居址出土遺物観察表

### H6号住居址



1層 全体層序Ⅱb層 2層 全体層序Ⅱd層 3層 全体層序Ⅲ層

4層 暗褐色土層 (10YR 2/3) P13の覆土10YR 4/6の地山の細かい砂層ブロック、粒を含む。

5層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 炭化物を少量含む。10YR 4/6の地山の細かい砂層粒子を少量含む。

6層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 炭化物少量含む。10YR 4/6 (地山の細かい砂層) 粒子、ブロックを含む。

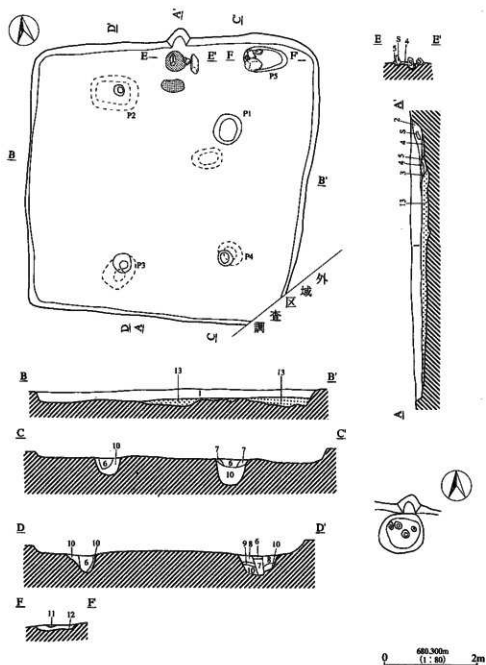
7層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 10YR 4/6の地山の細かい砂層、ブロックを多量を含む。

8層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 10YR 4/6の地山の細かい砂のブロックを多量を含む。

9層 褐色土層 (10YR 4/4) 10YR 4/6の地山の細かい砂が主体。10YR 2/3ブロックが現在する。床下の掘み土。

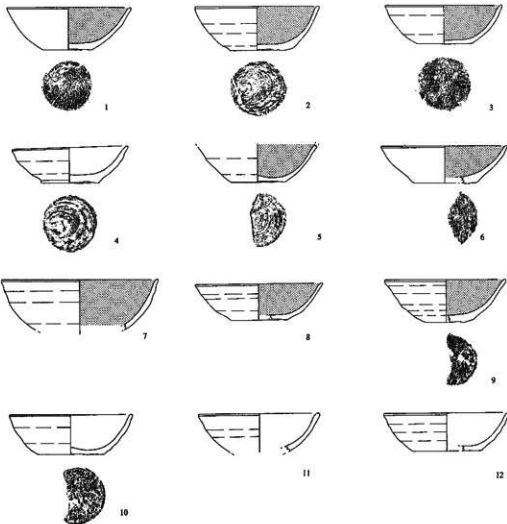
第193図 H6号住居址実測図

H7号住居址（平安時代）

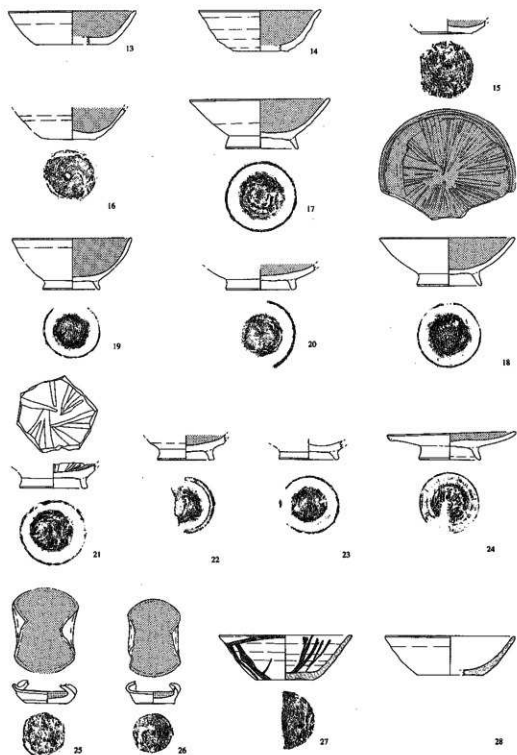


第194图 H7号住居址实测图

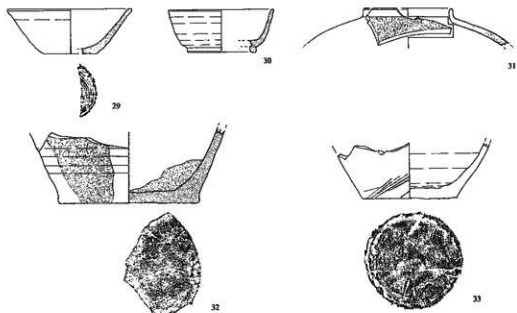
- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 粒子細かい、炭化物を含む。パリスを少量含む。  
 2層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 炭化物、焼土を多量に含む。  
 3層 黒色土層 (10YR 1/1) 炭化物層  
 4層 赤褐色土層 (5YR 4/6) 焼土層  
 5層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 10YR 4/6の地山の細かい砂を多量に含む。焼土、炭化物を少量含む。  
 6層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 10YR 4/6の地山の細かい砂層ブロック、粒子を多量に含む。  
 7層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 10YR 4/6の地山の粒子が細かい砂質ローム、パリスを少量含む。  
 8層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 10YR 4/6の地山の粒子が細かい砂質ロームを多量に含む。  
 9層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 10YR 4/6の地山の細かい砂層粒子を少量含む。  
 10層 褐色土層 (10YR 4/4) 10YR 4/6の地山の細かい砂層粒子が乏乏。  
 11層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 10YR 4/6の地山の細かい砂層粒子を多量に含む。  
 12層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 炭化物を含む。10YR 4/6の地山の細かい砂質ローム粒子を含む。  
 13層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 10YR 4/6の地山の粒子細かい砂質ローム粒子を含む。



第195図 H7号住居址出土遺物実測図(1)



第196图 H7号住居址出土遺物実測図(2)



第197図 H7号住居址出土遺物実測図(3)

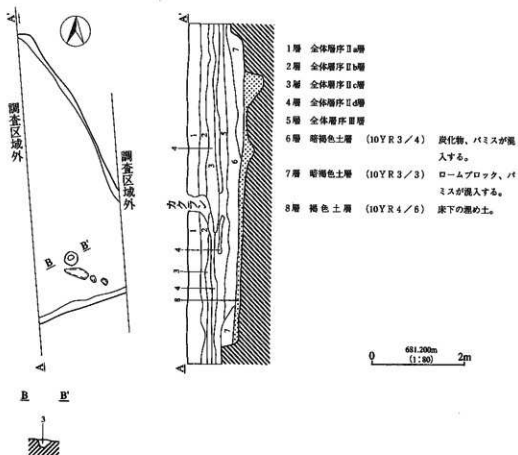
番号	器種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	状況	色調	備考	
1	土師器	坏	13.6	5.2	4.5	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	95	良好	5YR5/4 鈍い赤色	
2	土師器	坏	13.2	6.0	4.7	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	80	良好	2.5YR5/4 鈍い赤褐色	
3	土師器	坏	12.5	5.9	4.2	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	90	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
4	土師器	坏	(12.0)	6.1	4.0	底面 白粘土切り ロクロナデ		70	良好	5YR5/6 明赤褐色	
5	土師器	坏	-	5.8	-	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	30	良好	5YR4/6 赤褐色	
6	土師器	坏	(13.6)	(6.0)	4.0	底面 ヘラ削り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	30	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	坏	(13.6)	-	-	内面 黒色結晶 ロクロナデ		25	良好	10YR5/4 鈍い赤褐色	
8	土師器	坏	(13.8)	(6.0)	3.8	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	25	良好	7.5YR5/3 鈍い褐色	
9	土師器	坏	(13.2)	(4.2)	(4.1)	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	35	良好	5YR5/6 明赤褐色	
10	土師器	坏	(13.2)	(6.0)	4.2	底面 白粘土切り ロクロナデ		35	良好	5YR5/6 明赤褐色	
11	土師器	坏	(13.0)	-	-	ロクロナデ		20	良好	5YR5/6 明赤褐色	
12	土師器	坏	(13.4)	(7.3)	4.0	底面 白粘土切り ロクロナデ		25	良好	5YR5/6 明赤褐色	
13	土師器	坏	(13.8)	(7.0)	3.6	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	25	良好	10YR6/4 鈍い黄褐色	
14	土師器	坏	(13.2)	(5.4)	4.4	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	25	良好	5YR4/8 赤褐色	
15	土師器	坏	-	(5.3)	-	底面 白粘土切り 内面 黒色結晶	ロクロナデ	25	良好	5YR4/8 赤褐色	

第98表 H7号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	説明	残存率%	素材	色澤	備考
16	土師器	杯	-	(5.1)	-	底面 磁石赤切り 内面 黒色施漚	20	良好	5YR4/4 鈍い赤褐色	
17	土師器	碗	14.9	7.8	4.8	内面 黒色施漚・ヒガキ 高台張り付け ロクロナデ	40	良好	5YR4/4 鈍い赤褐色	
18	土師器	碗	14.5	7.0	5.1	内面 黒色施漚・放射状ヒガキ 高台張り付け ロクロナデ	70	良好	10YR7/3 鈍い黄褐色	
19	土師器	碗	(12.3)	6.2	5.4	内面 黒色施漚 高台張り付け ロクロナデ	50	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
20	土師器	碗	-	(7.3)	-	内面 黒色施漚 高台張り付け ロクロナデ	20	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
21	土師器	碗	-	(7.4)	-	内面 黒色施漚・放射状ヒガキ 高台張り付け ロクロナデ	20	良好	5YR4/4 鈍い褐色	
22	土師器	碗	-	(8.0)	-	内面 黒色施漚 高台張り付け ロクロナデ	20	良好	5YR4/4 鈍い褐色	
23	土師器	碗	-	(8.4)	-	高台張り付け ロクロナデ	20	良好	5YR7/6 褐色	
24	土師器	皿	15.8	6.6	2.1	内面 黒色施漚 高台張り付け ロクロナデ	75	良好	7.5YR7/3 鈍い褐色	
25	土師器	耳皿	9.2	4.4	2.1	内面 黒色施漚 底面 ヘラ磨り ロクロナデ	90	良好	5B2/1 青褐色	
26	土師器	耳皿	8.3	4.2	-	内面 黒色施漚 底面 ヘラ磨り ロクロナデ	80	良好	5B2/1 青褐色	
27	須恵器	杯	14.3	6.2	4.8	底面 磁石赤切り ロクロナデ	50	良好	N6/0 灰色	火だすき
28	須恵器	杯	(14.0)	(6.8)	(4.1)	ロクロナデ	20	良好	2.5YR6/2 暗灰黄色	
29	須恵器	杯	(13.4)	(5.8)	(4.8)	ロクロナデ	20	良好	2.5YR6/2 暗灰黄色	
30	須恵器	高台付杯	(11.3)	(7.4)	4.5	ロクロナデ 高台張り付け	20	良好	N6/0 灰色	
31	灰輪陶器	短瓶壺	(8.7)	-	-	ロクロナデ	口縁15	良好	10Y6/2 オリーブ灰色	灰輪付着
32	須恵器	甕	-	(14.8)	-	ロクロナデ	底縁25	良好	5B2/2 青褐色	自然輪付着
33	土師器	甕	-	10.0	-		底縁100	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	

第99表 H7号住居址出土遺物観察表(2)

H 8号住居址 (古墳・奈良時代の土器が出土)



第198図 H 8号住居址実測図



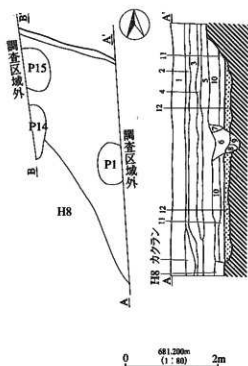
第199図 H 8号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	(15.0)	(8.0)	5.8	口クロナデ 底面周縁へラ削り	35	良好	10YR7/4 鈍い黄褐色	
2	土師器	坏	-	5.0	-	底面 回転糸切り 内面 黄色結晶	底部50	良好	10YR5/6 黄褐色	
3	土師器	高坏	(13.0)	-	-		胴部の一 層	良好	5YR6/4 鈍い褐色	

第100表 H 8号住居址出土遺物観察表



### H 9号住居址（古墳時代）



第200図 H 9号住居址実測図



- 1層 全体層序 2a層
- 2層 全体層序 2b層
- 3層 全体層序 2c層
- 4層 全体層序 2d層
- 5層 全体層序 2e層
- 6層 褐色土層 (10YR 3/2) P15ス、ローム粒子が少量混入する。
- 7層 暗褐色土層 (10YR 3/4) P15ス、ローム粒子が少量に混入する。
- 8層 暗褐色土層 (10YR 2/3) ロームブロックが少量混入する。
- 9層 褐色土層 (10YR 4/4) ロームブロックが少量に混入する。
- 10層 暗褐色土層 (10YR 2/4) P15ス、ロームが少量に混入する。
- 11層 褐色土層 (10YR 4/4) ローム粒子、ロームブロックが少量に混入する。
- 12層 褐色土層 (10YR 4/6) 黒色土 (10YR 2/2) ブロックが少量に混入する。黒下の硬い土。

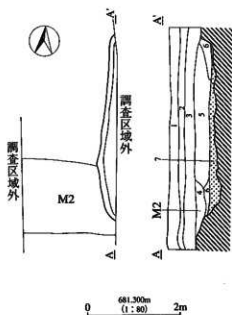


第201図 H 9号住居址出土遺物実測図

符号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	整理	残存率%	状態	色調	備考
1	土師器	高坪	-	-	-	部屋内面 ミガキ 脚部内面 ヘラナデ		25	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
2	土師器	坪	11.0	-	-	外面 ヘラ削り		15	良好	5YR5/6 明赤褐色	

第101表 H 9号住居址出土遺物観察表

H10号住居址（古墳・平安時代の土器が出土）



- |    |  |
|----|--|
| 1層 | 全体層序 10層   |
| 2層 | 全体層序 85層   |
| 3層 | 全体層序 84層   |
| 4層 | 黒褐色土層 (10YR 2/3) 10YR 4/6 (地山の細かい砂層) ブロック粒子を多数に含む。                                 |
| 5層 | 黒褐色土層 (10YR 2/3) 径5mm以下のパリス10YR 4/6 (地山の細かい砂層) ブロック粒子を多数に含む。                       |
| 6層 | 暗褐色土層 (10YR 3/3) パリスを少量含む。10YR 4/6 (地山の細かい砂層) ブロックを多数に含む。粒子は細かい。                   |
| 7層 | いり色褐色土層 (10YR 4/3) 10YR 4/6 (地山の細かい砂層) を主体として10YR 2/3が混在する。径5mm以下のパリスを少量含む。床下の層の上。 |

第202図 H10号住居址実測図

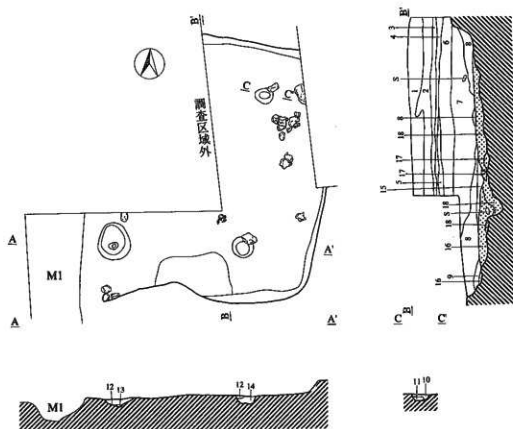


第203図 H10号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	焼成	色 調	備考
1	須恵系	平	(12.8)	(8.0)	3.9	ロクロナデ 底面 回転承切り	15	良好	10YR6/3 鈍い黄褐色	
2	土師器	高環	-	-	-	列指 ナデ	10	良好	7.5YR7/6 褐色	

第102表 H10号住居址出土遺物観察表

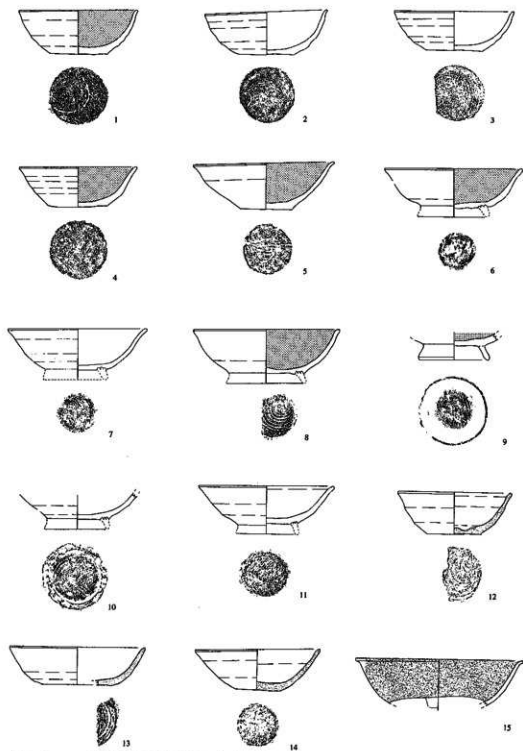
H11号住居址（平安時代）



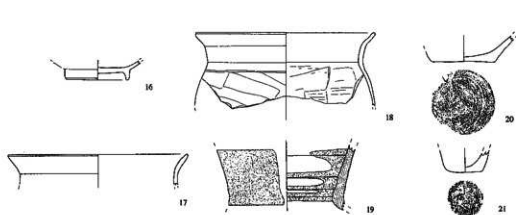
- |                          |   |            |
|--------------------------|---|------------|
| 1層 全体層序Ia層               | 2層 全体層序Ib層  | 3層 全体層序Ic層 |
| 4層 全体層序Id層               | 5層 灰褐色土層 (7.5Y R 4 / 2)                                 | 6層 全体層序II層 |
| 7層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 3)   | 砂質・径2cm大の炭片を多量に含む。下部層に粘土ブロックが散在する。                      |            |
| 8層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4)   | 砂質・10Y R 4 / 6を所量以上にブロック状に含む。径0.5~1cm大の炭片を多量に含む。        |            |
| 9層 褐色土層 (10Y R 4 / 6)    | 砂質・10Y R 3 / 4をブロック状に含む。                                |            |
| 10層 暗褐色土層 (7.5Y R 3 / 3) | 砂質。   |            |
| 11層 暗褐色土層 (7.5Y R 3 / 4) | 径2~4mm大の炭を多量に含む。  |            |
| 12層 暗褐色土層 (7.5Y R 2 / 3) | 砂質。   |            |
| 13層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4)  | 砂質。   |            |
| 14層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4)  | 砂質。径2~4mm大の炭を少量含む。                                      |            |
| 15層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 3)  | 粘赤層。径0.5~1cm大のブロック (10Y R 4 / 6) を少量含む。                 |            |
| 16層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4)  | 地山 (10Y R 4 / 6) をブロック状に多量に含む。径0.2~0.5mm大の炭を少量含む。       |            |
| 17層 褐色土層                 | (10Y R 4 / 6・10Y R 4 / 4) の混成土。10Y R 5 / 6をブロック状に多量に含む。 |            |
| 18層 褐色土層 (10Y R 4 / 4)   | 10Y R 3 / 2をブロック状に含む。                                   |            |

0 681,300m (1:80) 2m

第204図 H11号住居址実測図



第205图 H11号住居址出土遗物实例图(1)

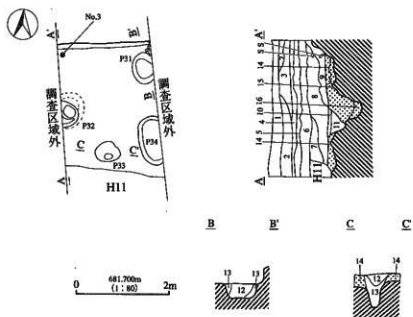


第206図 H11号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	状態	色調	備考
1	土師器	環	12.6	6.1	4.7	底面 ヘラ削り 内面 黒色地埋	ロクロナデ	100	良好	5YR6/4 鈍い赤褐色	
2	土師器	環	13.2	6.0	4.7	底面 ヘラ削り	ロクロナデ	95	良好	5YR6/4 鈍い赤褐色	
3	土師器	環	13.8	5.9	4.2	底面 ヘラ削り 内面 ミガキ	ロクロナデ	70	良好	10YR6/2 灰黄褐色	
4	土師器	環	12.6	5.3	4.3	底面 ヘラ削り 内面 黒色地埋	ロクロナデ	85	良好	10YR7/2 鈍い黄褐色	
5	土師器	環	10.6	5.3	5.1	底面 ヘラ削り 内面 黒色地埋	ロクロナデ	80	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
6	土師器	碗	14.7	-	-	底面 高台張り付け 内面 黒色地埋	ロクロナデ	70	良好	2.5YR6/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	碗	14.8	6.0 環部	4.2 環部	内面 ミガキ 底面 高台張り付け	ロクロナデ	80	良好	10YR6/2 鈍い褐色	
8	土師器	碗	15.7	5.5	4.3 環部	ロクロナデ 底面 高台張り付け	ロクロナデ	40	良好	7.5YR6/6 褐色	
9	土師器	碗	-	7.6	-	ロクロナデ 内面 黒色地埋	高台張り付け	30	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
10	土師器	碗	-	-	-	底面 回転糸切り 内面 黒色地埋	高台張り付け	30	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
11	土師器	碗	14.6	-	-	ロクロナデ 底面 回転糸切り	高台張り付け	85	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
12	須恵器	鉢	(12.3)	5.8	4.3	ロクロナデ 底面 回転糸切り		35	良好	10YR6/1 灰青色	
13	須恵器	鉢	14.3	7.6	4.1	ロクロナデ		20	良好	5YR6/6 褐色	
14	須恵器	鉢	13.4	4.9	4.3	底面 回転糸切り	ロクロナデ	70	良好	10YR6/1 灰青色	
15	灰釉陶器	碗	18.1	-	-	ロクロナデ		15	良好	7.5YR6/1 灰青色	灰釉付着
16	灰釉陶器	碗	-	6.8	-	ロクロナデ 底面 高台張り付け		20	良好	7.5YR7/1 灰青色	灰釉付着
17	土師器	鉢	(19.2)	-	-	口縁 横ナデ		口縁25	良好	5YR6/4 鈍い赤褐色	
18	土師器	鉢	(19.2)	-	-	口縁 横ナデ 外周 ヘラ削り 内面 ヘラナデ		口縁25	良好	5YR6/6 赤褐色	
19	須恵器	鉢	-	-	-	ロクロナデ		底面の 1/2	良好	10YR6/2 灰赤色	自然釉付着
20	土師器	碗	-	5.8	-	底面 回転糸切り		底面 100	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
21	土師器	碗	-	3.5	-	底面 ヘラ削り		40	良好	5YR6/6 褐色	

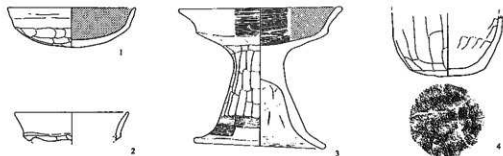
第103表 H11号住居址出土遺物観察表

## H12号住居址 (古墳時代)



- 1層 全体層序6層 2層 全体層序5層 3層 灰褐色土層 (JYR4/2) 全面の地味  
 4層 全体層序4層 5層 全体層序3層 6層 全体層序2層  
 7層 黒褐色土層 (10YR3/4)  
 8層 黒褐色土層 (10YR2/3)  
 9層 褐色土層 (10YR4/6)  
 10層 黒褐色土層 (10YR2/3) 灰 (10YR6/3) 黄褐色土 (10YR5/6) をブロック状に含む。  
 11層 暗褐色土層 (10YR3/4)  
 12層 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子・炭化物少量混入する。  
 13層 暗褐色土層 (10YR2/3) ロームブロックが多量に混入する。  
 14層 暗褐色土層 (10YR3/4)  
 15層 暗褐色土層 (10YR3/3) 灰・黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土 (10YR5/6) をブロック状に含む。床下の地味土。  
 16層 暗褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土 (10YR5/6) ブロックを多量に含む。地味あり。床下の地味土。

第207図 H12号住居址実測図

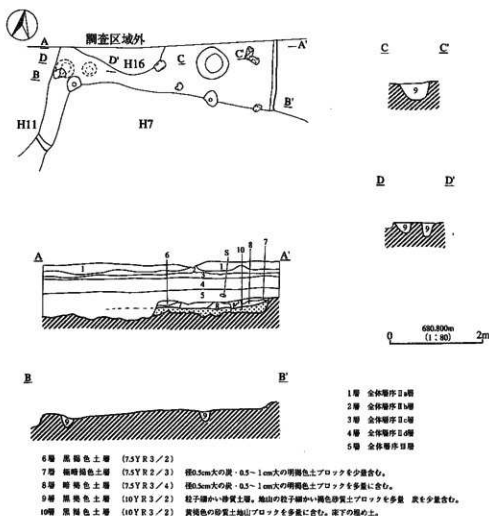


第208図 H12号住居址出土遺物実測図

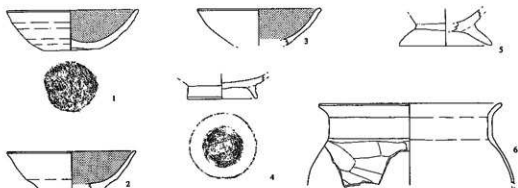
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	備 考	残存率%	備 考	色 調	備 考
1	土師器	環	(13.7)	丸底	3.1	底面 ヘラ削り 口縁 ナデ 内面 黒色成層・土着本	40	良好	2.5YR5/2 黒褐色	
2	土師器	環	(12.2)	-	-	底面 ヘラ削り 口縁 ナデ	85	良好	5YR7/6 褐色	
3	土師器	高杯	17.5	14.2	15.2	外縁外面 ハケ目 杯底内面 黒色成層 ハケ目 脚部内面 ヘラ削り・ハケ目 脚部内面 ヘラナデ・ハケ目	100	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
4	土師器	甕	-	7.7	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底面 100	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	

第104表 H12号住居址出土遺物観察表

第13号住居址 (平安時代)



第209図 H13号住居址実測図



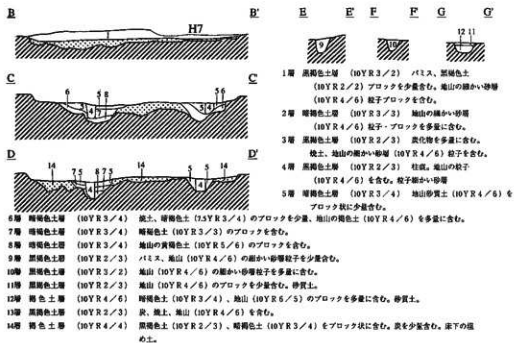
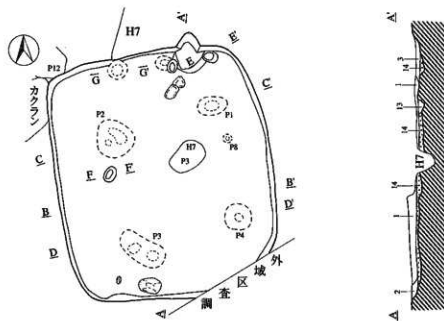
第210図 H13号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調 整	保存率%	病 成	色 調	備 考	
1	土師器	杯	13.0	5.8	4.2	底面 へう形り 内面 黒色地肌	ロクロナデ	80	良好	5YR7/3 鈍い褐色	
2	土師器	杯	(13.7)	(7.0)	4.0	ロクロナデ 内面 黒色地肌		20	良好	5YR5/6 明な褐色	
3	土師器	杯	13.3	-	-	ロクロナデ 内面 黒色地肌		20	良好	5YR4/6 赤褐色	
4	土師器	碗	-	7.7	-	底面 回転糸切り・高台張り付け		35	良好	7.5YR5/4 淡黄褐色	
5	土師器	高杯	-	10.0	-			破壊50	良好	10YR5/3 鈍い黄褐色	
6	土師器	盤	(19.6)	-	-	口縁 ココナデ 外面 へう形り		11/壊25	良好	5YR5/6 明な褐色	

第105表 H13号住居址出土遺物観察表

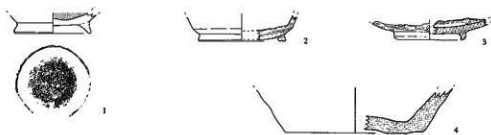


H14号住居址（平安時代）



第211図 H14号住居址実測図

0 680.200m (1:80) 2m

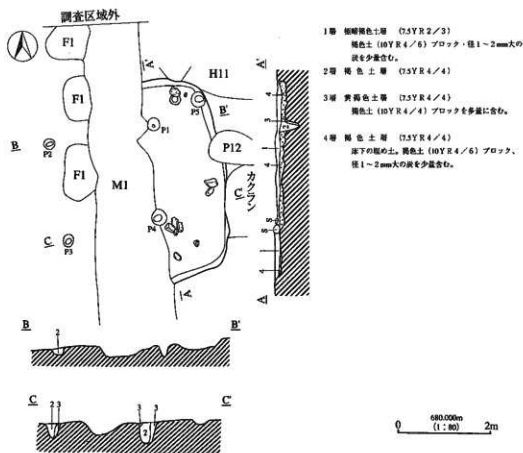


第212図 H14号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	碗	-	8.2	-	内面 黒色地埋 高台張り付付	20	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
2	須恵器	高台付杯	-	9.4	-	底部 同軸糸切り 高台張り付付	10	良好	5YR6/1 暗青灰色	
3	灰釉陶器	皿	-	7.8	-	高台張り付付	15	良好	10YR7/1 灰褐色	灰釉付器
4	須恵器	甕	-	(14.0)	-	底部へう調整	底層40	良好	10YR8/1 灰色	

第106表 H14号住居址出土遺物観察表

H15号住居址（古墳時代）



第213図 H15号住居址実測図

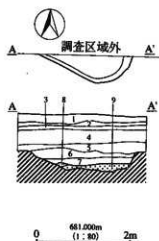


第214図 H15号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器径	口径cm	底径cm	器高cm	器	胎存率%	胎成	色調	備考
1	土師器	坏	12.7	丸底	4.7	口縁 底縁 ナデ ヘラ張り	95	良好	10YR6/4 鈍い黄褐色	
2	土師器	甕	-	丸底	-		底部 100	良好	10YR6/5 暗黄褐色	

第107表 H15号住居址出土遺物観察表

### H16号住居址 (平安時代)



第215図 H16号住居址出土遺物実測図

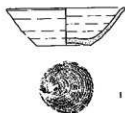
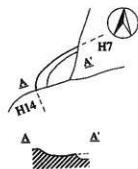
- 1層 全体層序Ⅱa層
- 2層 全体層序Ⅱb層
- 3層 全体層序Ⅱc層
- 4層 全体層序Ⅱd層
- 5層 全体層序Ⅲ層
- 6層 暗褐色土層 (7.5Y R 3/3) 径0.5~1cm次の炭を少量含む。
- 7層 暗褐色土層 (7.5Y R 3/3) 地山 (7.5Y R 5/6) のブロックを少量含む。
- 8層 暗褐色土層 (7.5Y R 3/3) 地山 (7.5Y R 5/6) のブロックを多量に含む。床下の礎の土。
- 9層 褐色土層 (7.5Y R 4/3) 暗褐色土 (7.5Y R 3/3) のブロックを多量に含む。床下の礎の土。

第216図 H16号住居址実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	(17.0)	(9.0)	3.8	ロクロナゾ 底周 瓦筋糸切り	20	良好	5YR6/1 灰色	

第108表 H16号住居址出土遺物観察表

### H17号住居址 (平安時代)



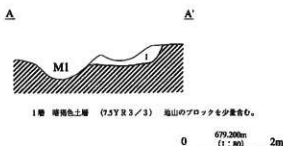
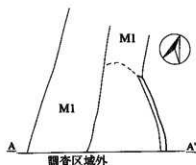
第217図 H17号住居址実測図

第218図 H17号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	12.8	5.7	4.0	ロクロナゾ 底周 瓦筋糸切り	50	良好	5Y8/2 灰オリーブ色	
2	須恵器	高台付坏	-	(7.9)	-	高台張り付け	25	良好	10Y4/1 灰色	
3	土師器	壺	-	5.0	-		底縁 80	良好	5YR4/6 茶褐色	

第109表 H17号住居址出土遺物観察表

H18号住居址



第219図 H18号住居址実測図

坑	形	縦横 東西×南北×深さ (m)	かまど	時期	柱穴	張り床	層 方 (cm)	略	説
H1	(方形)	3.9×(2.18)×0.44 (調査範囲)	-	平安	2	○	8.0-30		住居址の北側部分、南側部分に調査区域外、警備中や外堀、土層は調査区域外のものと見られる。北側部分の土層は調査区域外のものと見られる。かまど位置は不明。
H2	-	4.72×(1.85)×0.31 (調査範囲)	-	平安	-	-	8.0-28		住居址の北、南は調査区域外。東はほぼ平野面、西面には僅かに段々状に土が認められた。ピットなし。かまど位置は不明。
H3	-	4.8×(1.80)×0.60 (調査範囲)	古墳 OF 平安	-	3	-	8.0内外		住居址の北、南は調査区域外。東はほぼ平野面、西面には僅かに段々状に土が認められた。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H4	(方形)	1.24×(2.08)×0.37 (調査範囲)	-	古墳	4	-	7.0内外		住居址の西、北は調査区域外。東はほぼ平野面、西面には僅かに段々状に土が認められた。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H5	(方形)	1.76×(1.78)×0.48 (調査範囲)	-	奈良	-	-	18-25		住居址の東は調査区域外。東はほぼ平野面、西面には僅かに段々状に土が認められた。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H6	(方形)	(4.8)×(2.2)×0.40 (調査範囲)	-	-	2	-	8.0-20		住居址の北は調査区域外。北側部分には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H7	方形	5.98×5.72×0.23	北側 中央	平安	5	-	10-25		住居址のやや東側の部分。東はほぼ平野面、西には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H8	(方形)	(2.0)×(3.95)×0.25 (調査範囲)	古墳 OF 平安	-	1	-	12-36		住居址の西、南側部分には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H9	-	(2.0)×(4.8)×0.28 (調査範囲)	-	古墳	-	-	20内外		住居址の西、南側部分には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H10	-	(8.40)×(4.80)×0.36 (調査範囲)	古墳 OF 平安	-	-	-	5-25		住居址の東側の大半は調査区域外で、M2多量。東はほぼ平野面、西面には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H11	(方形)	(4.06)×5.56×0.42 (調査範囲)	-	平安	3	○	20-30		住居址の北、南側部分には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H12	-	(2.08)×(2.72)×0.24 (調査範囲)	古墳	4	-	-	20内外		住居址の西、南側部分には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H13	-	(4.64)×(2.16)×0.23	-	平安	3	-	30内外		住居址の北は調査区域外となる。東はほぼ平野面、西面には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H14	方形	4.52×5.24×0.22	北側の 東より	平安	8	-	5.0-35		住居址の北側部分には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H15	(方形)	3.40×4.4×0.98 (調査範囲)	-	古墳	5	-	5.0-15		住居址の中央はM1、F1に切られる。南側の東は調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H16	(方形)	(1.92)×(0.72)×0.25 (調査範囲)	-	平安	-	-	5.0-18		住居址の北側の大半は調査区域外で、ピットもみえる位置は不明。東方は調査区域外の土層に埋め込まれている。
H17	(方形)	(0.90)×(0.48)×0.15	-	平安	-	-	-		住居址の大半はM1、F1に切られる。ピット、床面、かまど位置などは不明。東方なし。
H18	(方形)	(1.52)×(1.00)×0.20 (調査範囲)	-	-	-	-	-		住居址の南側部分には調査区域外の土層に埋め込まれている。ピットなし。かまど位置不明。東方なし。

第110表 中西ノ久保護跡Ⅰ 住居址観察表

## ま と め

中西ノ久保遺跡Ⅱは湯川の右岸段丘面上に位置し、湯川との比高差は12mを測る。調査区の周辺は本文中にも明記した通り、遺跡の密集地として知られ、一段上面の台地上には北西の久保遺跡、西一本柳遺跡、東一本柳遺跡等が所在し弥生時代中期から平安時代の遺構・遺物が発見されている。また、中西ノ久保遺跡Ⅱ以前に行われた中西ノ久保遺跡Ⅰ（第Ⅴ章掲載）の調査においても多数の遺構・遺物が認められ、その時期は古墳時代から平安時代のものが中心となっている。

今回調査対象となった中西ノ久保遺跡Ⅱにおける検出住居址の時期は、その出土遺物から時代分けすると6c代はH26、31、32、33、41があげられ、H32が中頃、その他は6c後半と考えられるが、H33には混入か、5c代の遺物も認められた。7c代にはH19、27、30、38、39、42、47があげられ、H38、47は中頃、H30、39、42は後半、H19、27は末～8c初頭に入るものと考えられる。8c代には初頭以降、H20、21、22、34、36、37、43、44、45、46があげられ、H21、22、43、が前半、H20、37が中頃、H44、45、46が後半～9c初頭、H34、36が末～9c初頭と考えられる。9c代初頭以降にはH18、H35があげられH18が9c中～後半、H35が9c末～10cと考えられる。

以上の結果から、中西ノ久保遺跡Ⅱでは6c～10c前半の古墳時代から平安時代の遺構が認められ、この中でも8c前後の遺構が多いように感じられた。これは中西ノ久保遺跡Ⅰと同様の状況である。遺物的には弥生時代後期から平安時代に至る土器等の出土が認められるが、今回の調査からは、上段の遺跡群に多数認められる弥生時代の遺構の存在は確認できなかった。周辺地域の状況を考えて、今後、同一段丘面上に弥生時代の遺構が確認される可能性も考えられる。しかし、中西ノ久保遺跡の所在する段丘面上は一段上面の台地に比べ弥生時代の比率が非常に少ないように感じられる。

仲田遺跡は湯川の左岸段丘面上の湯川との比高差6mの低地帯に位置する。このため以前は遺構の存在が不鮮明な地域であった。しかし、試掘調査を行った結果、古墳時代から平安時代に至る住居址の存在が多数認められたため調査を開始した。

今回調査対象となった仲田遺跡における検出住居址の時期は、その出土遺物から時代分けすると5c代はH6、13、16、28があげられ、H6、16が後半、H28は5c後半～6c代と考えられる。6c代は初頭以降H8、27、29があげられ、H29は6c前半～中頃、H27は6c中頃～後半、H8は6c後半と考えられる。7c代はH12、21があげられ、H21が7c中頃、H12が7c末～8c初頭と考えられる。8c代には初頭以降、H4、14、18、19、20、22、24、25、26があげられ、H25が前半、H4、14、18、19、20、24、26が中頃、H22が末～9c初頭と考えられる。9

c代は初頭以降、H1、2、3、9、15、17、23、30があげられ、H2、3、9、23、30が前半、H17が中頃、H1が後半、H15が後半～10c初頭と考えられる。

以上から、仲田遺跡において、現時点では5c後半から10c初頭に至る住居が存在しており8、9c代の比率が高いように感じられた。これは湯川の対岸に位置する中西ノ久保遺跡の結果と近いものであった。遺物は弥生時代から平安時代に至る土器・金属製品・石器等の出土が認められた。これらの中には非常に興味を引くものが出土しており、特筆すべき遺物として、県内では初めてと思われる白銅鏡（H15号出土）、「一寺」の墨書を持つ須恵器の坏（H1号出土）、佐久市で初めての弥生時代前期の壺（D6号出土）をあげることができる。

寺畑遺跡は湯川の左岸に形成された段丘面上に位置し、今回調査を行った仲田遺跡南側の一段上面の台地上にあたる。本遺跡は平成7年道路建設工事に伴い、調査区の南側が調査され、佐久市では最古とされる縄文時代草創期の爪形土器が出土している。調査は、縄文草創期の遺構確認を一つの目的としていたが、今回の調査からも草創期の遺構は認められなかった。しかし新たに爪形土器が19片出土した。また本遺跡からは他に平安時代の住居1、竪穴状遺構2、溝、土坑が確認された。

#### 考 察 一 仲田遺跡出土八花鏡・墨書土器を中心に

本遺跡出土の遺物中には、いくつか興味深いものが含まれている。特に、H15号住居（9c後半）出土の白銅鏡（花卉双蝶八花鏡）はもっとも注目すべき遺物である。鏡は、直径7.6cmと小型で、外区には八つの瑞雲、内区には蝶、花卉がそれぞれ一対、鈕を取り囲むように配置されている。地は無地である。（花卉双蝶八花鏡の地には無地・霞地の2種が発見されている）铸造年代は奈良時代とされ、主に畿内以東に10点内外の存在が確認されている。出土地は、畿内周辺では三重県鳥羽市・奈良県奈良市・滋賀県大津市、関東・東海は茨城県・静岡県、最北は東北の秋田県秋田市があげられる。そしてこれらの鏡は、神社の伝世鏡あるいは寺院関係から出土したものが多数を占めていることから「花卉双蝶八花鏡」は寺院的要素の強い鏡とされている。(注1) 今回、仲田遺跡で出土した鏡は、平安時代の、一般的な住居から出土しているが、鏡の他にも見慣れない暗文を施した土師器碗、灰釉陶器など装飾性の強い特徴的な土器も認められた。何か特別な理由でもあるのだろうか、今後の課題の一つとなっている。

つぎにH1号住居（9c後半）出土の須恵器だが、土器自体は平安時代よく使用されている須恵器の坏である。しかし、この坏の表面には「一寺」と興味深い文字が墨で記されていた。漢字3文字が認められるが、頭2文字についてはわずかながらその字体が認められるものの、現

在確実性がないため「一寺」としている。おそらく寺院名が記されていたのではないだろうか。

ここで佐久における古代寺院についてみると、文献には「日本三代実録」貞観八年二月二日の条に「信濃国伊奈郡寂光寺、筑摩郡錦織寺、更級郡案養寺、埴科郡屋代寺、佐久郡妙楽寺を定額寺に列する」と記されている。これを見ると9C後葉、佐久郡内に妙楽寺と称する寺院の存在が見受けられる。また、遺物的には、佐久市の行った分布調査によって、長土呂地積の西北付近一帯から古瓦（布目瓦）の破片が発見されている。(注2)さらにこの地域に所在した工場敷地内から川原寺式に酷似する「復弁八葉蓮華文瓦（軒丸瓦）」が工場造成に伴う残土内から採取されている。(注3)現在、佐久市出土の瓦（軒丸瓦）はこの1点と考察するにはあまりにも少ない資料ではあるが、佐久平周辺に於いて古代寺院を考える上で貴重な資料の1つになったことは間違いないであろう。

このように佐久平付近における古代寺院の存在を裏づける資料は僅かながら認められるが、現在その正確な位置、伽藍配置等はつかめていない状態である。

今回出土した鏡、墨書土器は、寺院の存在を考えるには乏しいかもしれないが、同一遺跡から、寺院的要素の強い「鏡」の出土、寺名と思われる墨書を持つ土器の出土が、9c後半～10c初頭の住居址から出土していることを考えると、この時代、仲田遺跡付近に存在すら忘れられた寺院的建物が存在していた可能性が推察できる。またこの遺物の出土した住居址の時期は、先に述べた妙楽寺が文献上に現れる時期とほぼ同一時期であることは注目される。しかし、寺名と思われる墨書の頭2文字は報告では「一」<sup>一</sup>としているが、漢字の字体がわずかに認められ、「妙楽」とは読みがたい。このことから、寺院の名称変更がない限り佐久平には定額寺に指定された妙楽寺とは別の寺院が存在していたとも考えられる。また仲田遺跡の所在する一段上面にあたる台地は字名を「寺畑」と称し、付近に供養塚・十三方といった寺域を思わせる字名が多いことは興味深い。参考までに付近の地積図を載せておく。

今回は、住居址出土の遺物から、寺院存在の可能性を示したにすぎず、寺院址によく認められる古瓦の散布、礎石、基壇等は付近の調査からも確認されていない。このため、これらはあくまでも筆者の奇抜な推察と考えてもらいたい。

(注1) 片山 昭悟 奈良時代の鏡 千二百年前にあこがれた文様 1994

片山 昭悟 奈良時代の鏡研究

—兵庫県栗原郡山崎町金谷出土 瑞雲双鸞八花鏡のルーツをもとめて— 1996

(注2) 佐久市志刊行会 佐久市志 歴史編 (一) 原始・古代

(注3) 宇賀神 誠司 佐久考古通信 NO 61

—佐久市長土呂出土の軒丸瓦—佐久地方における寺院の草創—





第220図 仲田遺跡周辺地積図

中西ノ久保遺跡II  
写真図版



写239 中西の久保遺跡全景



写240 中西ノ久保遺跡Ⅱ調査風景（1）



写241 中西ノ久保遺跡Ⅱ調査風景（2）

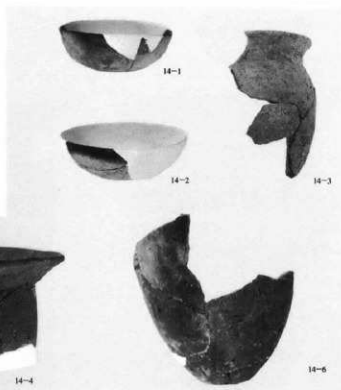


写242 中西ノ久保遺跡Ⅱ調査風景（3）



11-1

写243 H1号住居址出土遗物



14-1

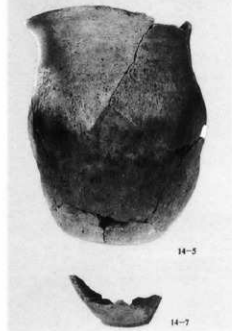
14-2

14-3

14-4

14-5

写244 H19号住居址出土遗物



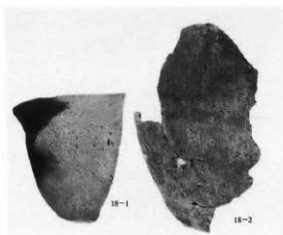
14-5

14-7



16-1

写245 H20号住居址出土遗物



18-1

18-2

写246 H21号住居址出土遗物

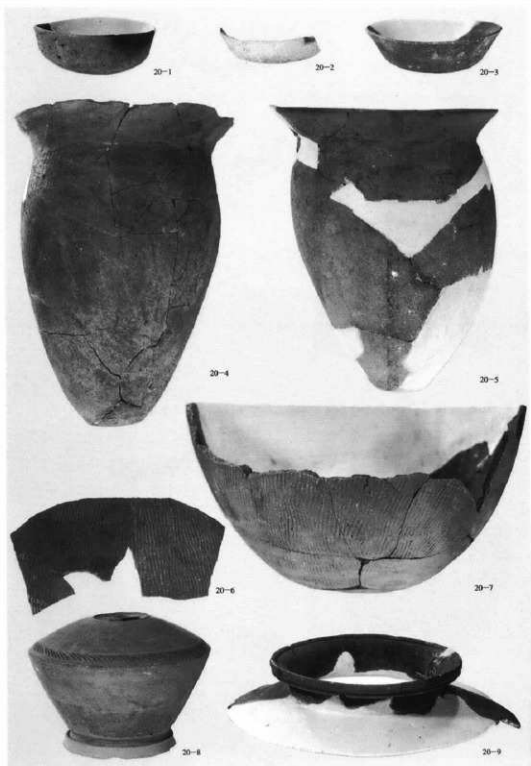
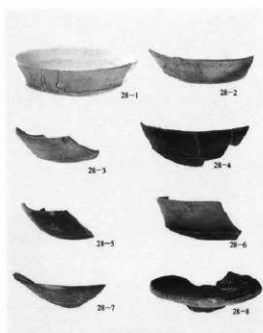


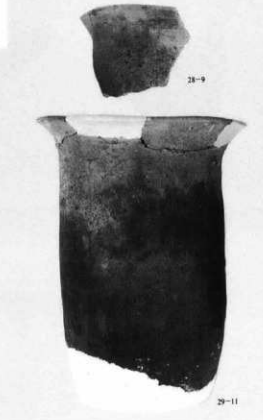
图247 H22号住居址出土遺物

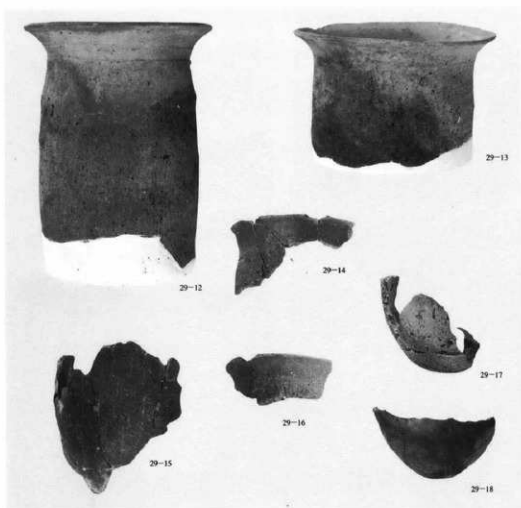


写248 H25号住居址出土遗物

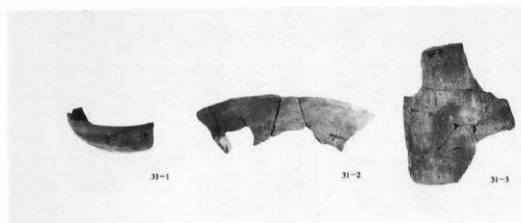


写249 H26号住居址出土遗物 (1)





写250 H26号住居址出土遺物 (2)

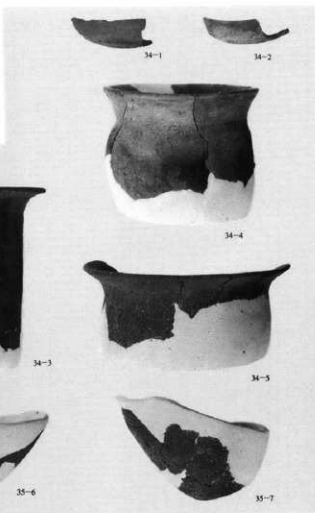


写251 H27号住居址出土遺物



32-1

写252 H28号住居址出土遺物



34-1

34-2

34-4

34-3

34-5

35-6

35-7

写253 H30号住居址出土遺物



38-1

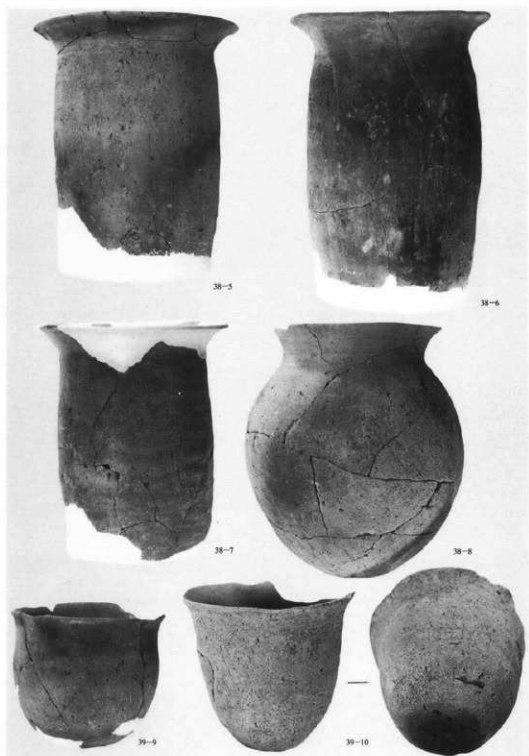
38-2

38-3

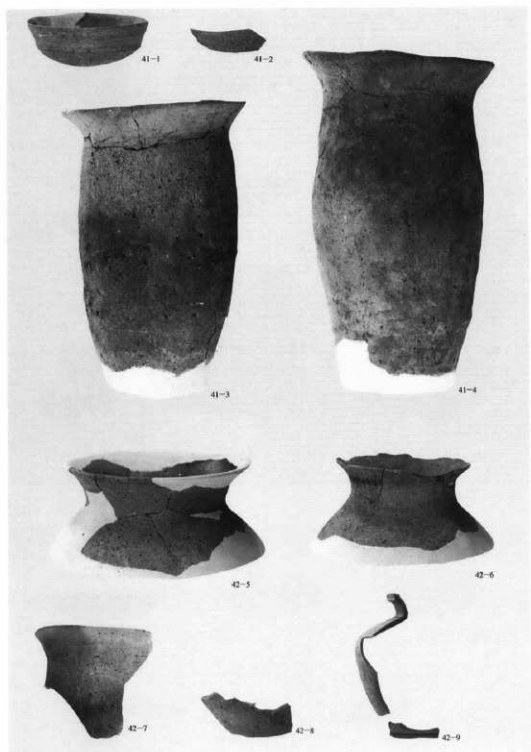
38-4

写254 H31号住居址出土遺物 (1)

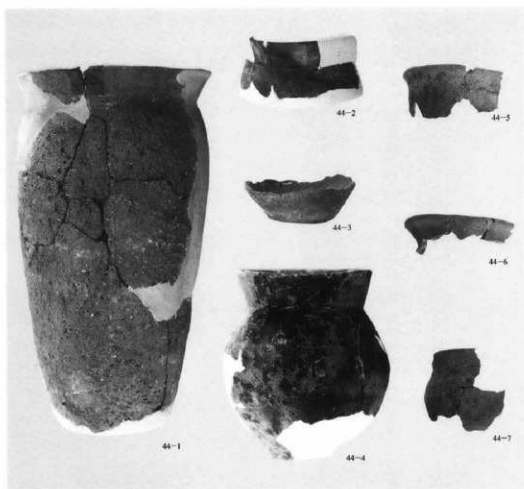




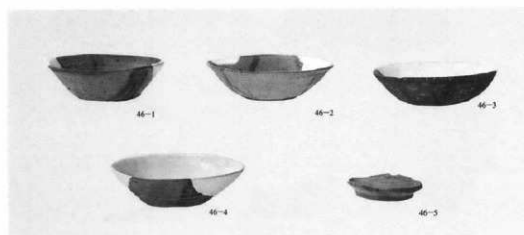
写255 H31号住居址出土遺物(2)



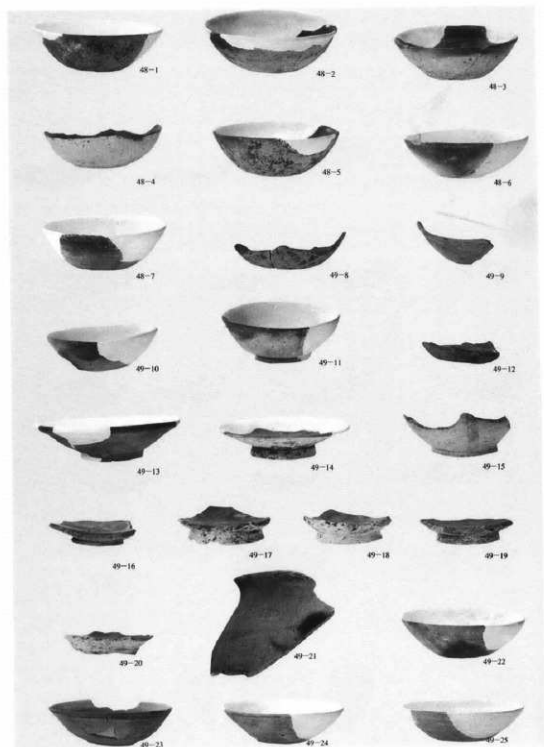
写256 H32号住居址出土遺物



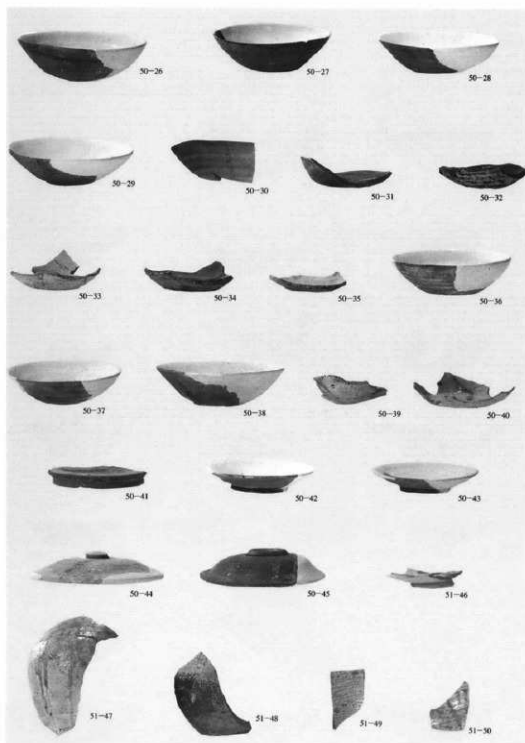
写257 H33号住居址出土遗物



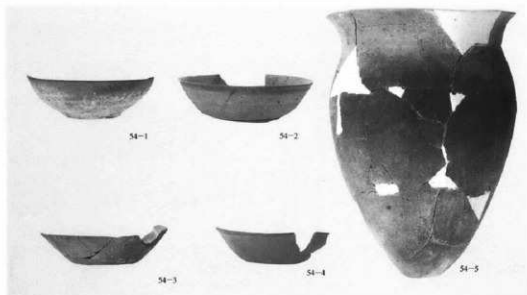
写258 H34号住居址出土遗物



写259 H35号住居址出土遗物(1)



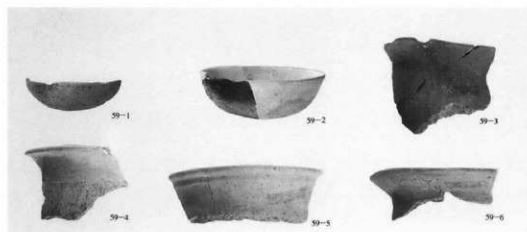
写260 H35号住居址出土遺物(2)



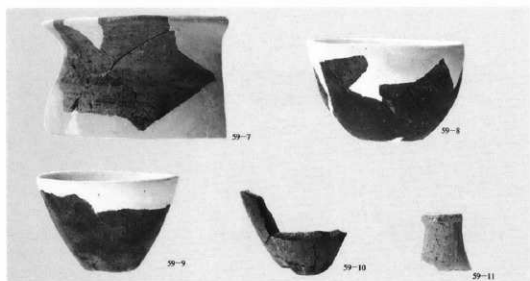
写261 H36号住居址出土遗物



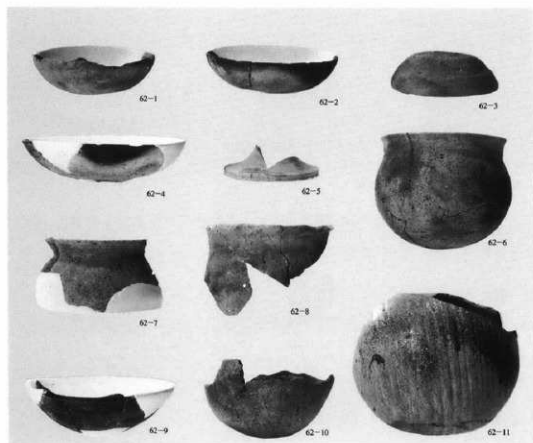
写262 H37号住居址出土遗物



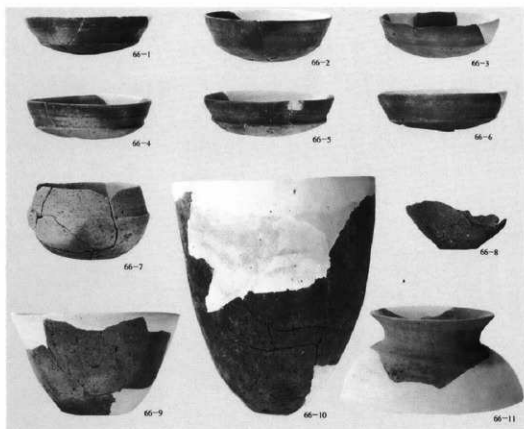
写263 H38号住居址出土遗物(1)



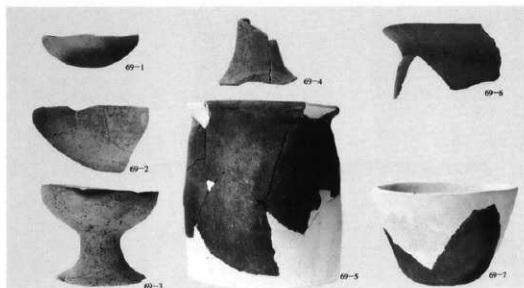
写264 H38号住居址出土遗物(2)



写265 H39号住居址出土遗物



写266 H41号住居址出土遺物



写267 H42号住居址出土遺物





图268 H43号住居址出土遗物

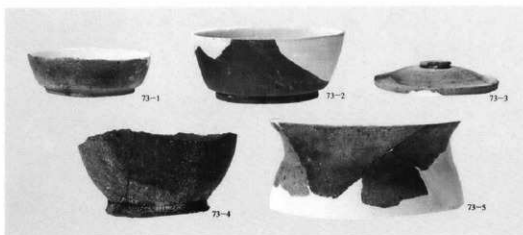


图269 H44号住居址出土遗物

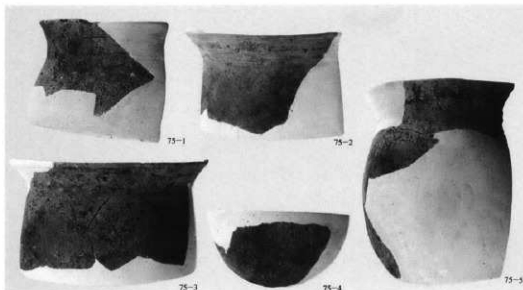
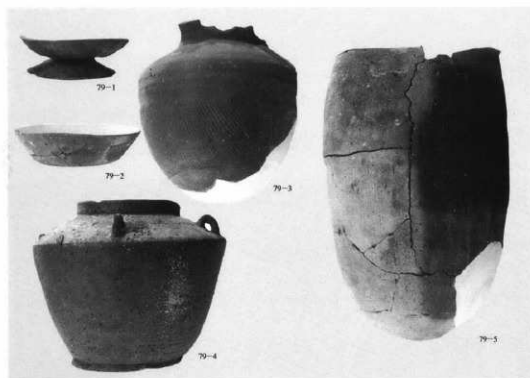


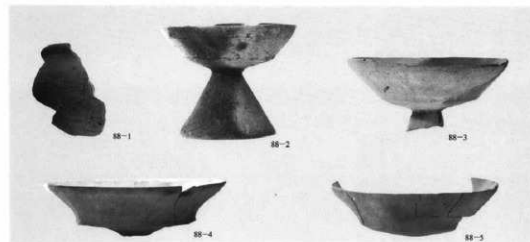
图270 H45号住居址出土遗物



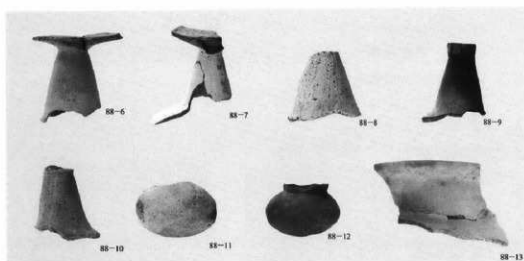
写271 H46号住居址出土遗物



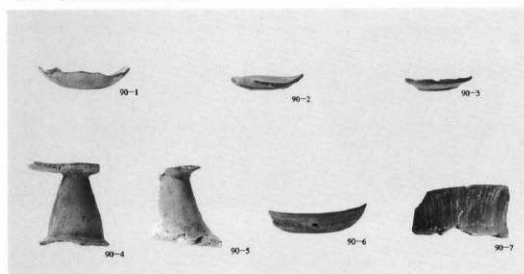
写272 H47号住居址出土遗物



写273 M3号溝跡出土遺物(1)



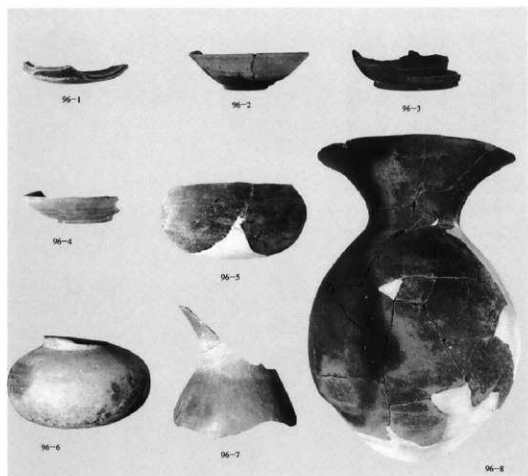
写274 M3号沟跡出土遺物(2)



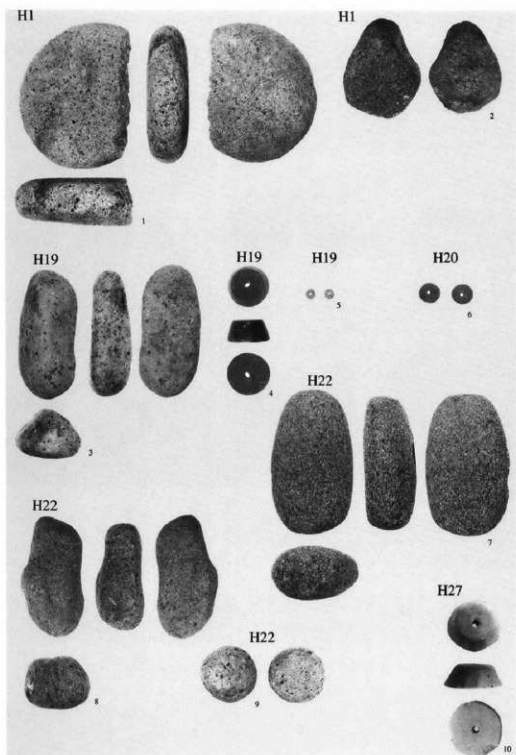
写275 M5号沟跡出土遺物



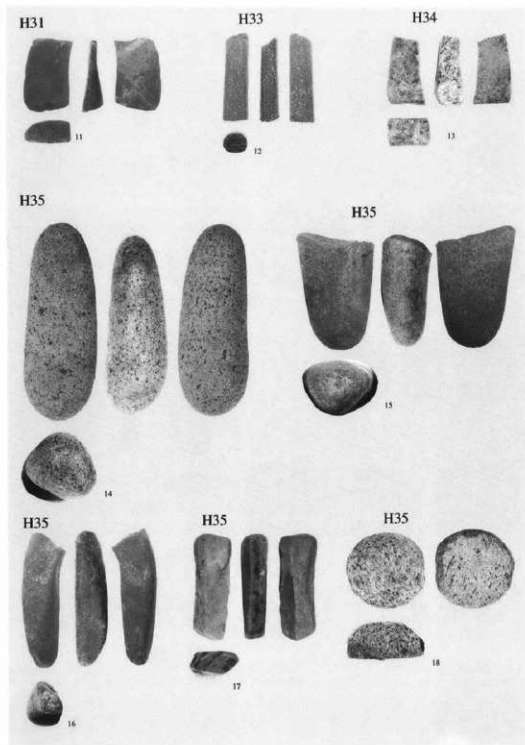
写276 M7号沟跡出土遺物



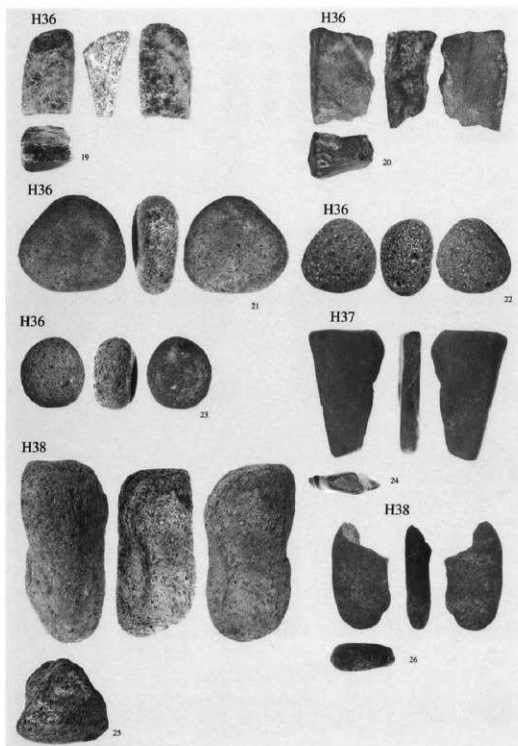
写277 遺構外出土遺物



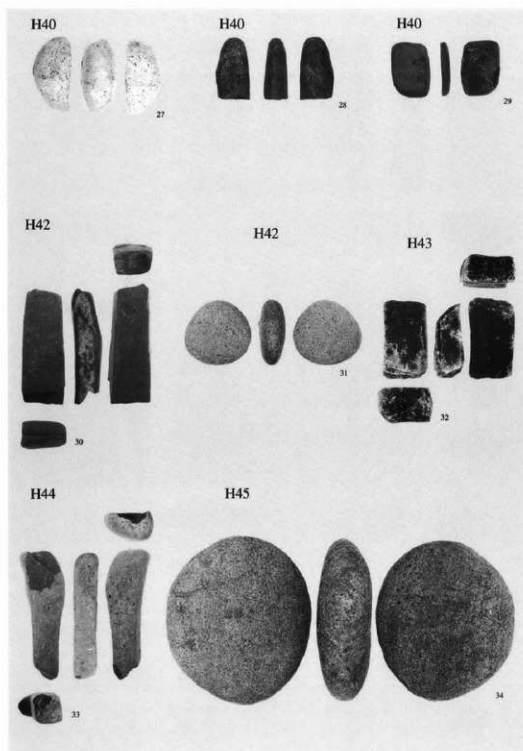
写278 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(1) 表-P95



写279 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(2) 表-P95

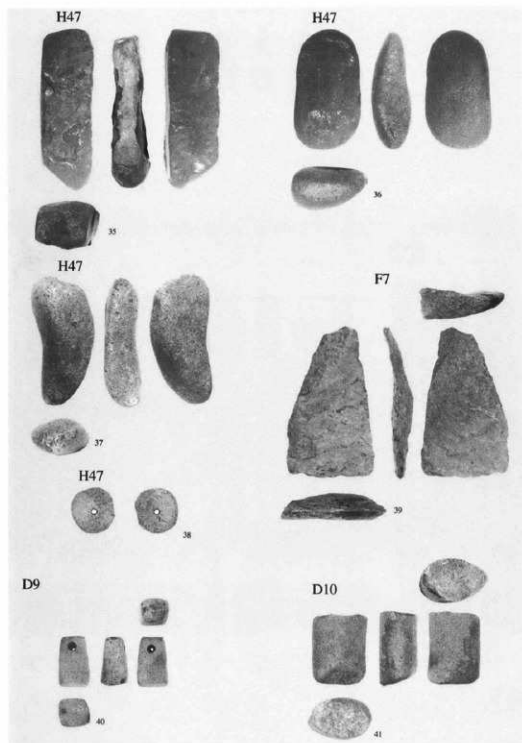


写280 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(3) 表-P95

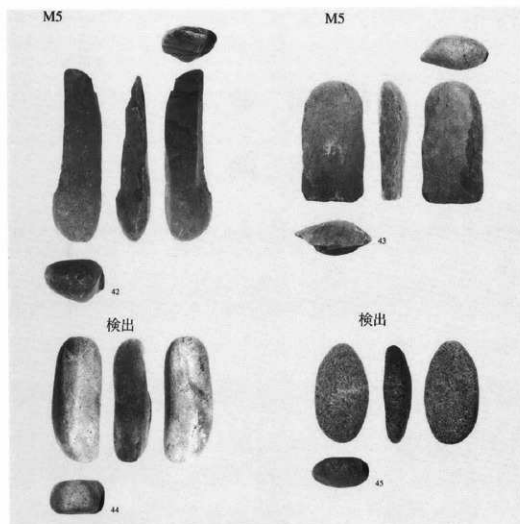


写281 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(4) 表-P95





写282 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(5) 表-P95



写283 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(6) 表-P95



写284 中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土耳環

仲田遺跡  
写真図版



写285 仲田遺跡H16号出土土器



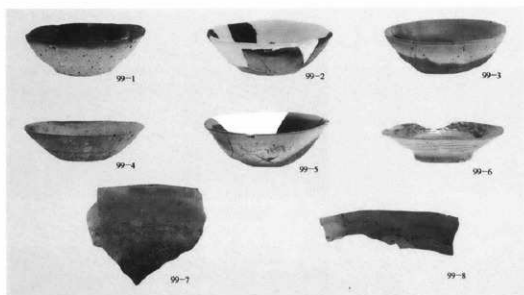
写286 仲田遺跡調査風景（1）



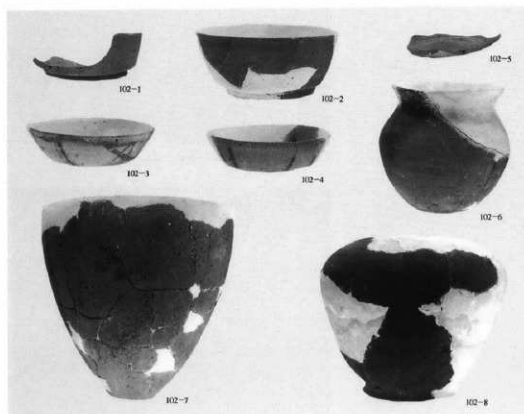
写287 仲田遺跡調査風景（2）



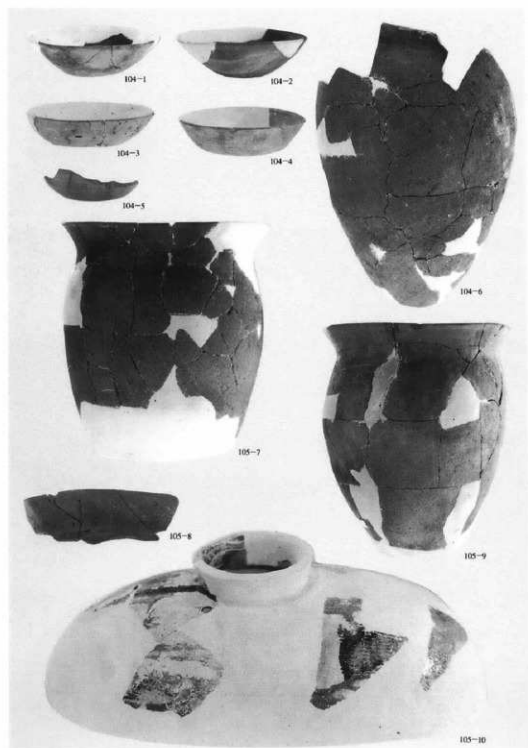
写288 仲田遺跡調査風景（3）



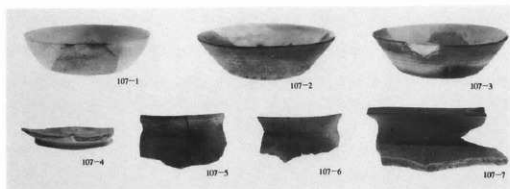
写289 H1号住居址出土遺物



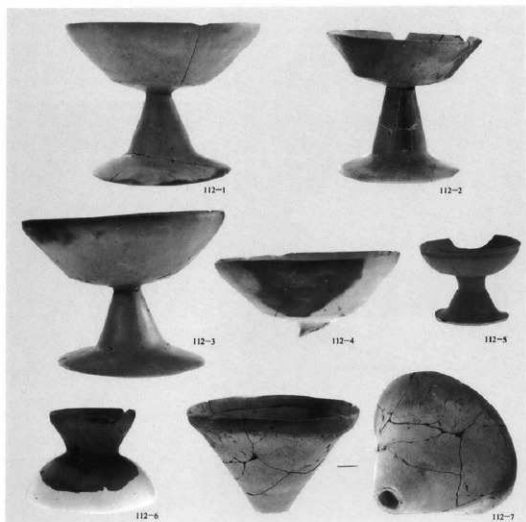
写290 H2号住居址出土遺物



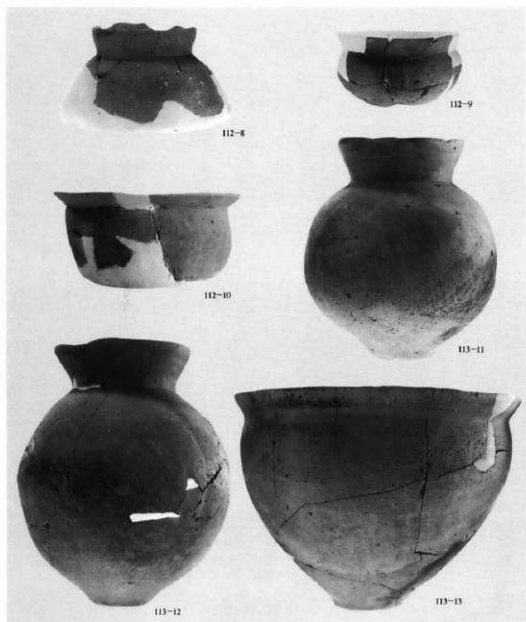
写291 H3号住居址出土遺物



写292 H4号住居址出土遺物



写293 H6号住居址出土遺物(1)

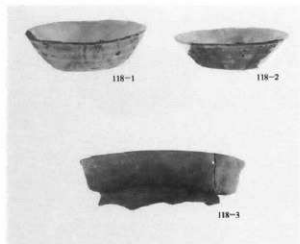


写294 H6号住居址出土遗物(2)

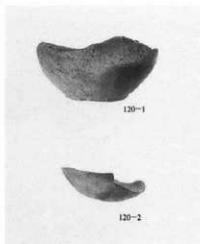


写295 H8号住居址出土遗物

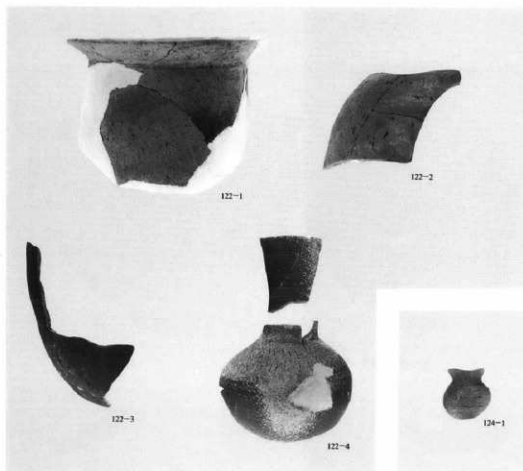




写296 H9号住居址出土遗物

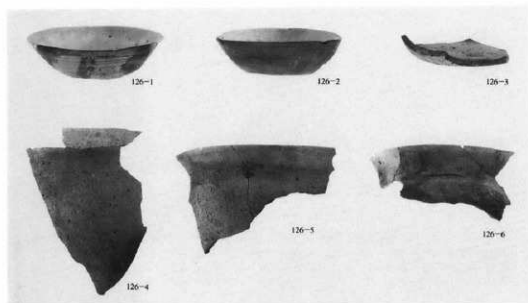


写297 H11号住居址出土遗物

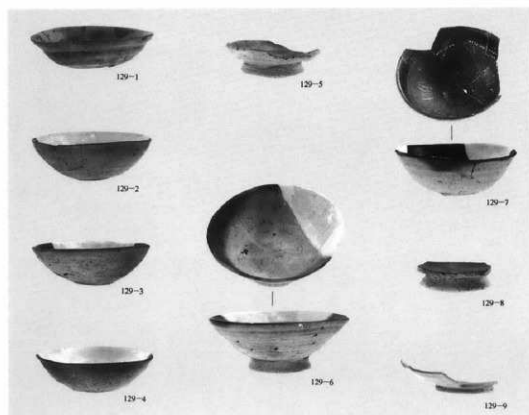


写298 H12号住居址出土遗物

写299 H13号住居址出土遗物



写300 H14号住居址出土遗物



写301 H15号住居址出土遗物

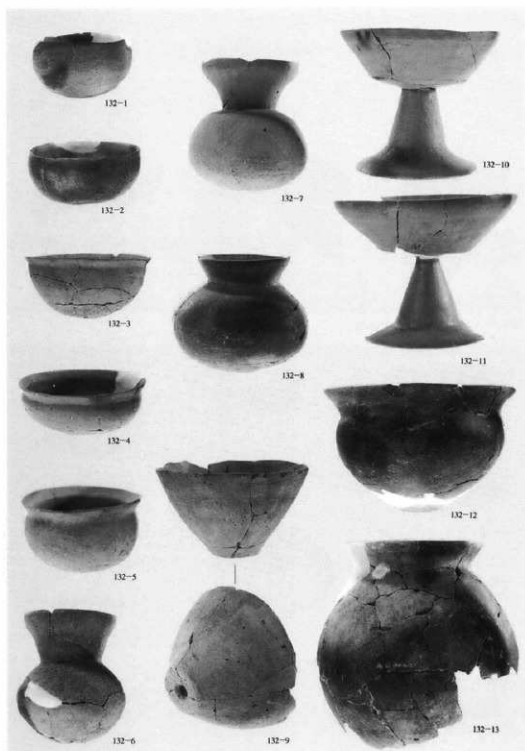
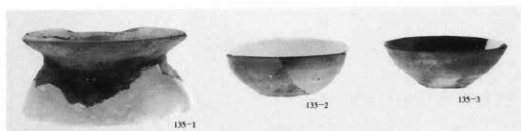
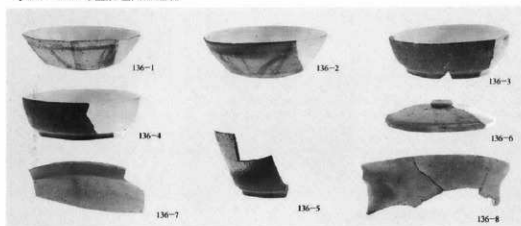


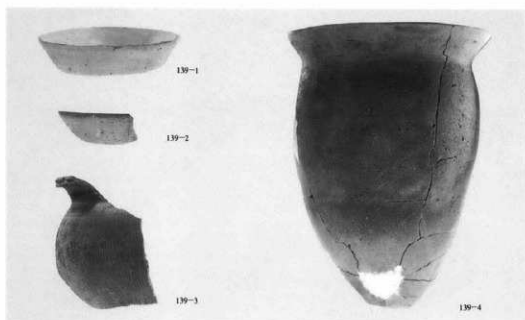
图302 H16号住居址出土遗物



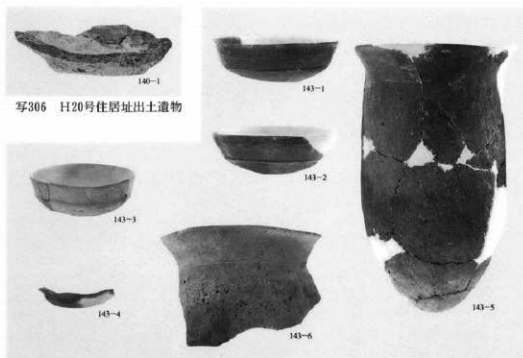
写303 H17号住居址出土遺物



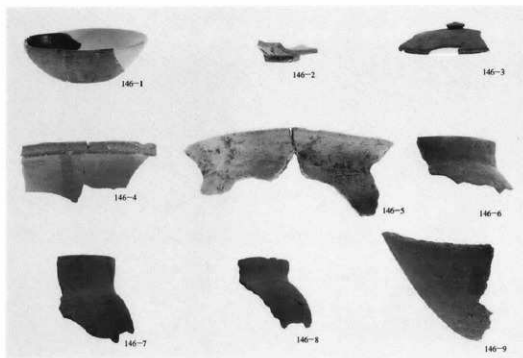
写304 H18号住居址出土遺物



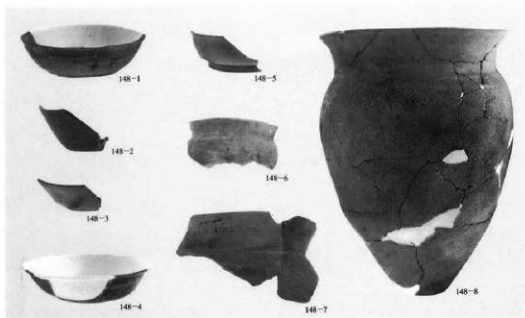
写305 H19号住居址出土遺物



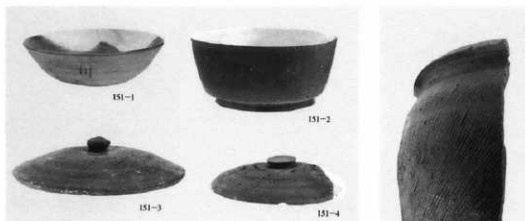
写306 H20号住居址出土遗物



写308 H22号住居址出土遗物



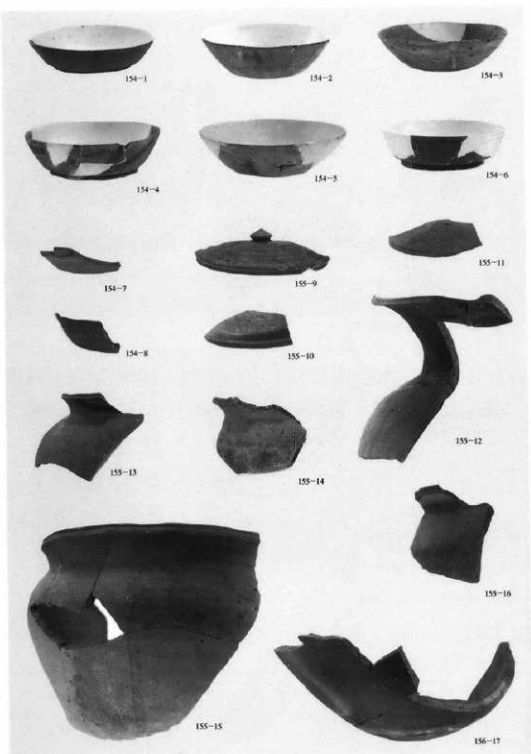
写309 H23号住居址出土遗物



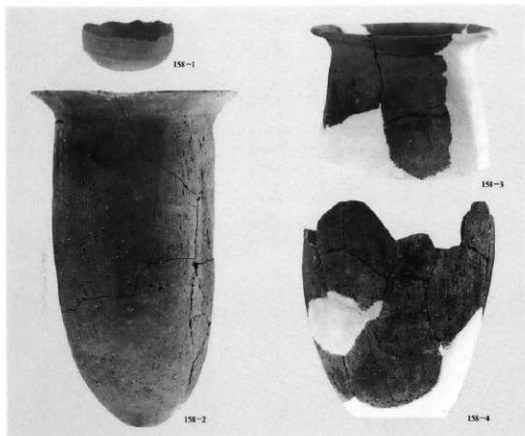
写310 H24号住居址出土遗物



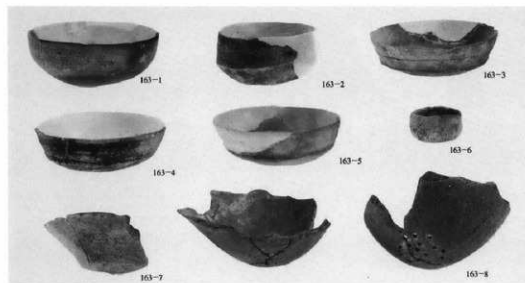
写311 H25号住居址出土遗物



写312 H26号住居址出土遺物

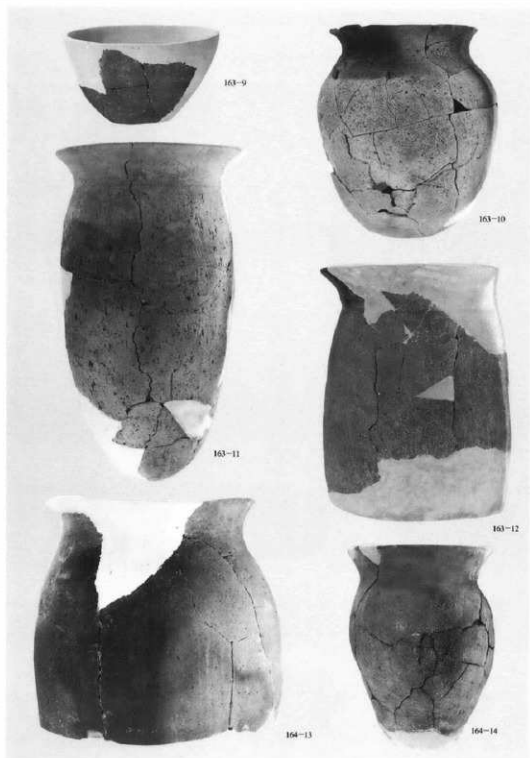


写313 H27号住居址出土遺物



写314 H29号住居址出土遺物 (1)





写315 H29号住居址出土遺物(2)

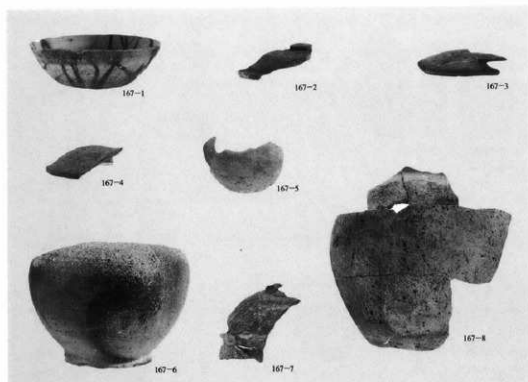
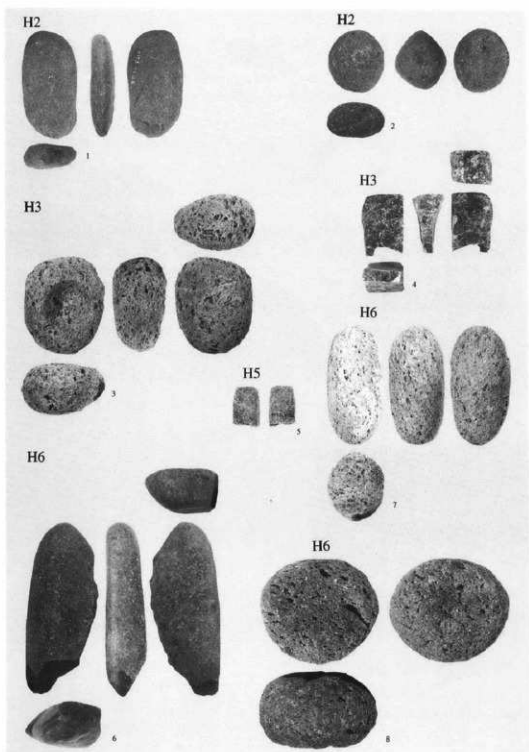


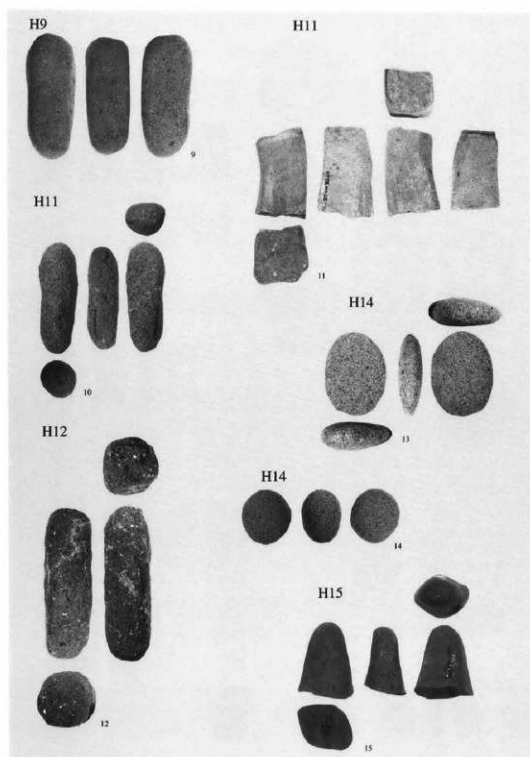
图316 H30号住居址出土遗物



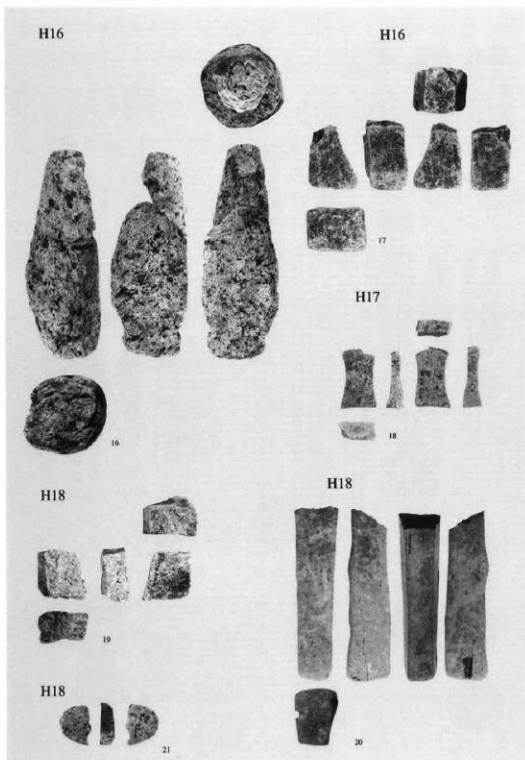
图317 D6号土坑出土遗物



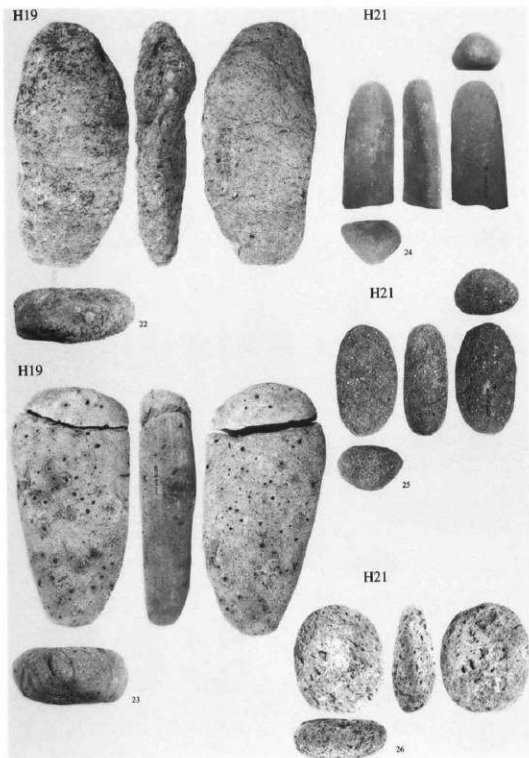
写318 仲田遺跡出土石製品(1) 表-P178



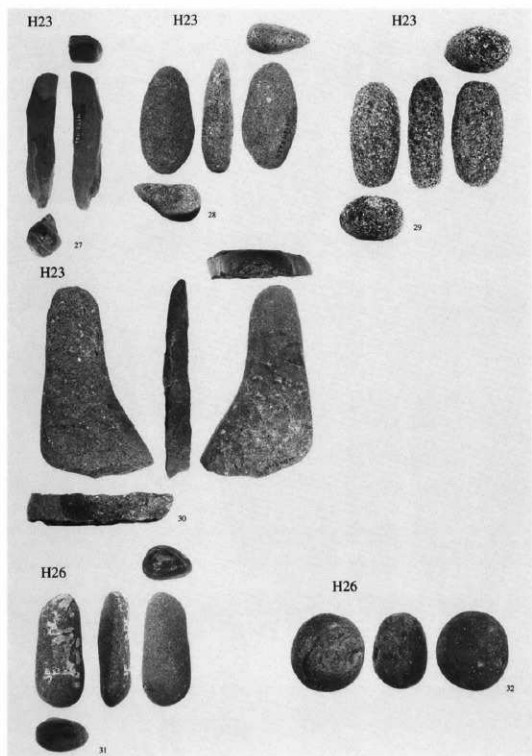
写319 仲田遺跡出土石製品(2) 表-P178



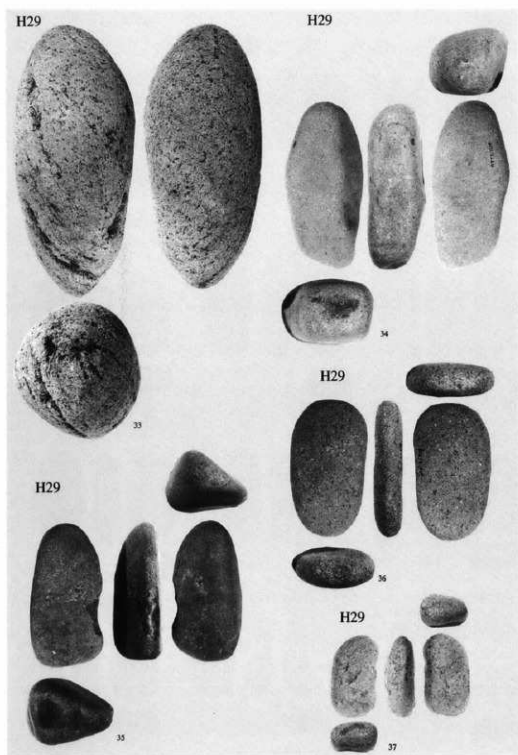
写320 仲田遺跡出土石製品(3) 表-P178



写321 仲田遺跡出土石製品(4) 表-P178

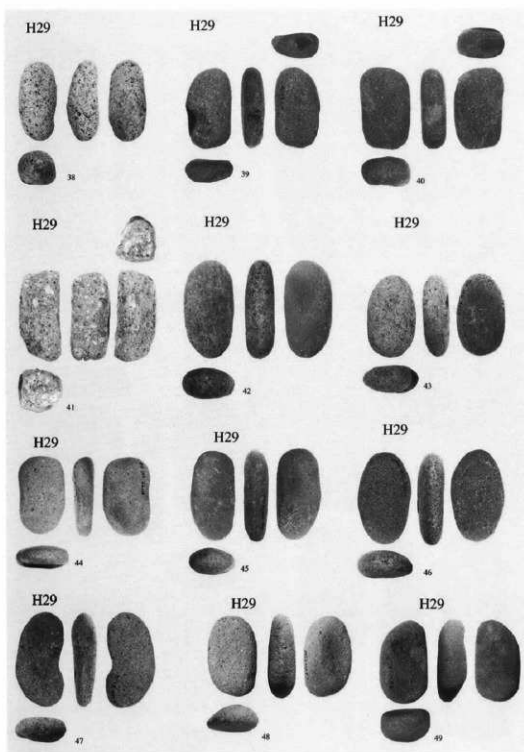


写322 仲田遺跡出土石製品(5) 表-P178



写323 仲田遺跡出土石製品(6) 表-P178





写324 仲田遺跡出土石製品(7) 表-P178



写325 仲田遺跡出土石製品(8) 表-P178